







鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	保健体育理論『学生の健康科学』伊藤道郎他(鈴木製本所)、体育実技『アクティブスポーツ』長谷川聖修他(大修館書店)				
担当教員	北園 裕一, 堂園 一, 松尾 美穂子				
到達目標					
運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め、これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と、健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	各種目の基礎的な技術を習得することができる。また、その修得した技術を、普段のスポーツ活動に活かすことができる。	各種目の基礎的な技術を習得することができる。	各種目の基礎的な技術を習得することができない。		
評価項目2	自ら進んで積極的にスポーツ活動へ参加することができる。	積極的にスポーツ活動へ参加することができる。	積極的にスポーツ活動へ参加することができない。		
評価項目3	飲酒・喫煙や運動不足、食事等の健康の保持促進に関する諸問題を理解及び解決することができる。	飲酒・喫煙や運動不足、食事等の健康の保持促進に関する諸問題を理解することができる。	飲酒・喫煙や運動不足、食事等の健康の保持促進に関する諸問題を理解することができない。		
評価項目4	スポーツ活動を通す中で、様々なケースを想像し、相手の立場に応じた行動をとることができる。	スポーツ活動を通す中で、相手の立場に応じた行動をとることができる。	スポーツ活動を通す中で、相手の立場に応じた行動をとることができない。		
評価項目5	自分の安全だけではなく集団の安全も留意しながら楽しくスポーツ活動を実践することができる。	自分の安全を留意しながらスポーツ活動を実践することができる。	自分の安全を留意しながらスポーツ活動を実践することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め、これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と、健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。				
授業の進め方・方法	体育実技については本校体育施設を利用して行う。各種目で基本的な技術を身につけ、かんたんなルールやゲームの進め方を学ぶ。保健体育理論については座学で行う。				
注意点	教科書「学生の健康科学」及び参考書「アクティブスポーツ」の授業に関連するところを読み理解すること。実技においては、教材(運動場・体育館)を考慮して正しい服装と、体育用具等の管理、安全に十分留意すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	高専5年間の体育授業のガイダンスを理解することができる。AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方法と一次救命処置が理解できる。	
		2週	スポーツテスト(屋外)	運動能力テストと体力診断テストを実施し、自己評価ができる。	
		3週	サッカー、バレー、バドミントン(女子)	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。	
		4週	サッカー、バレー、バドミントン(女子)	同上	
		5週	サッカー、バレー、バドミントン(女子)	同上	
		6週	サッカー、バレー、バドミントン(女子)	同上	
		7週	陸上競技、バスケットボール、バレーボール(女子)	同上	
		8週	陸上競技、バスケットボール、バレーボール(女子)	同上	
	2ndQ	9週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バスケットボール、水泳(女子)	各種目については基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。水泳に関しては基本的な泳ぎ方を学び、安全に準分留意できる。	
		10週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バスケットボール、水泳(女子)	同上	
		11週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バスケットボール、水泳(女子)	同上	
		12週	水泳、陸上競技、ダンス(女子)	同上	
		13週	水泳、陸上競技、ダンス(女子)	同上	
		14週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、水泳、ダンス(女子)	同上	
		15週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、水泳、ダンス(女子)	同上	
		16週	予備日	予備日	
後期	3rdQ	1週	性教育	健康の保持増進に関する問題を理解し解決することができる。	

		2週	スポーツテスト（屋外）※天候によって変更あり。	運動能力テストと体力診断テストを実施し、自己評価ができる。
		3週	バレーボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、ソフトテニス（女子）	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。
		4週	バレーボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、ソフトテニス（女子）	同上
		5週	性教育	健康の保持増進に関する問題を理解し解決することができる。
		6週	バレーボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、ソフトテニス（女子）	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。
		7週	バレーボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、ソフトテニス（女子）	同上
		8週	性教育	健康の保持増進に関する問題を理解し解決することができる。
		4thQ	9週	バスケットボール、サッカー、バスケットボール（女子）
	10週		バスケットボール、サッカー、バスケットボール（女子）	同上
	11週		性教育	健康の保持増進に関する問題を理解し解決することができる。
	12週		バスケットボール、サッカー、卓球（女子）	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。
	13週		バスケットボール、サッカー、卓球（女子）	同上
	14週		性教育	健康の保持増進に関する問題を理解し解決することができる。
	15週		バスケットボール、サッカー、卓球（女子）	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。
	16週		予備日	予備日

#### 評価割合

	各種評価	合計
総合評価割合	100	100
技能	60	60
スポーツテスト	30	30
レポート	10	10

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語論理・表現入門 I B
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	はちの発音 ハミング8メソッド 大庭まゆみ著 いいずな書店、キクタン英会話[海外旅行編]		ハミングバード、Listening Studio Standard いいずな書店編集部 一杉武史 アルク		
担当教員	嵯峨原 昭次				
到達目標					
1. ハミング発音step6の音の流れが発音できる。 2. ハミング発音Step7の音の変化が発音できる。 3. ハミング発音Step8の音の強弱が発音できる。 4. 英語の暗唱文を正しい英語発音で発表できる。 5. 英語で言いたいことを話すことができる。 6. 準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。 7. 英会話表現を認知することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ハミング発音step6の音の流れテストで8割以上取得できる。	ハミング発音step6の音の流れテストで6割以上取得できる。	ハミング発音step6の音の流れテストで6割以上取得できない。		
評価項目2	ハミング発音Step7の音の変化テストで8割以上取得できる。	ハミング発音Step7の音の変化テストで6割以上取得できる。	ハミング発音Step7の音の変化テストで6割以上取得できない。		
評価項目3	ハミング発音Step8の音の強弱テストで8割以上取得できる。	ハミング発音Step8の音の強弱テストで6割以上取得できる。	ハミング発音Step8の音の強弱テストで6割以上取得できない。		
評価項目4	原稿を暗記して、正しい英語発音で、説得力のある英語で発表できる。	原稿を暗記して発表できる。	原稿を暗記して発表できない。		
評価項目5	英語で言いたいことを、正しい発音で、説得力のある英語で話すことができる。	英語で言いたいことを相手の理解できるレベルの発音で、話すことができる。	英語で言いたいことを話すことができない。		
評価項目6	英検準2級リスニング問題20問中16問以上正解できる。	英検準2級リスニング問題20問中12問以上正解できる。	英検準2級リスニング問題20問中12問以上正解できない。		
評価項目7	英会話表現テスト(満点25点)で20点以上取得できる。	英会話表現テスト(満点25点)で15点以上取得できる。	英会話表現テスト(満点25点)で15点以上取得できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	発音、リスニング、スピーキングを基礎から演習し、その成果を英語 I、II の総合学習に活用する。				
授業の進め方・方法	授業の大半を英語で進める。英語の発音授業は、専用DVD、鏡を利用して、担当教員が詳細に説明し、数週間後発音実践試験が実施される。また、発音授業についていけない学生のために補講や個人指導がある。リスニング・スピーキングの演習等、CDプレーヤー、DVD機器を利用して進める。				
注意点	図書館ラーニング commons 教室で失敗を恐れずに積極的に英語をしゃべること。発音・スピーチ・リスニングの諸活動に積極的に参加すること。評価のほとんどは実践的な活動で評価するので、発表、インタビューテストなど真面目に取り組むこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	Pronunciation(Step6)	Step6の音の流れが発音できる。	
		2週	Pronunciation(Step7)	Step7の音の変化が発音できる。	
		3週	Pronunciation(Step8)	Step8の音の強弱が発音できる。	
		4週	Speech③(暗唱文)	英語の暗唱文を正しい英語発音で発表できる。	
		5週	Listening③	リスニング教材を利用して準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。	
		6週	表現③	対話(場面)表現を認知することができる。	
		7週	その他④(強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング)	実践演習ができる。	
	8週	Pronunciation(英文)	英文を正しい発音で読むことができる。		
	4thQ	9週	Short Speech	英語で言いたいことを話すことができる。	
		10週	Listening④	リスニング教材を利用して準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。	
		11週	表現④	対話(場面)表現を認知することができる。	
		12週	その他⑤(強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング)	実践演習ができる。	
		13週	その他⑥(強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング)	実践演習ができる。	
		14週	その他⑦(強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング)	実践演習ができる。	
15週		試験の答案の返却・解説	試験において間違えた部分を理解できる。		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代の国語
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校 現代の国語 (第一学習社) / 新版六訂 カラー版 新国語便覧 (第一学習社) / 常用漢字ダブルクリア四訂版 (尚文出版) / 各種辞書				
担当教員	田中 智樹				
到達目標					
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。	作品中の語句(漢字、熟語)と表現(慣用句、修飾語など)の働きを理解し、講義の概要を踏まえた上で、表現について説明することができる。自己の表現に応用できる。		作品中の語句(漢字、熟語)と表現(慣用句、修飾語など)の働きを理解し、講義の概要を踏まえた上で、表現について理解することができる。		作品中の語句(漢字、熟語)と表現(慣用句、修飾語など)についての知識が不十分であり、表現について説明することができない。
評価項目2 様々な文章をとおして、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	作品の読解をとおして、そこに表れている人間・社会・自然などについて深く理解した上で、自己の考えを説明することができる。		作品の読解をとおして、その内容について十分理解し、そこに表れている人間・社会・自然などについて理解し、説明することができる。		作品の読解をとおして、その内容についての知識が不十分であり、そこに表れている人間・社会・自然などについて説明することができない。
評価項目3 自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。	自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えることができる。		自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などをある程度捉えることができる。		自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを捉えることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本学国語関係科目の基礎的意義を有する。現代文を中心に、基本的な読解能力を養うと同時に、それに基づく考える力を身につけ、国語能力の基礎形成を図る。				
授業の進め方・方法	教科書の音読をとおして、より深く文章の内容理解に努め、教材の中の様々な問題について自分の意見をもち、的確に表現できるようにする。さらに、常用漢字、重要語句を確実に修得するよう努める。また、授業に積極的に関わり、教師からの質問にも進んで答えるよう心がける。また、サブテキストを使用し、毎月、漢字の小テストを行う。				
注意点	教科書の内容とは別に、毎時間、読書の時間を作り、読書ノートに記録した上で、毎月ノートのチェックを行う。また、提出物の評価を高くしているため、課題の期限を守り、指示されたとおりに提出すること。必要に応じ、遠隔授業の教材や小テストを併用する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	評論：無彩の色	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握できる。文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈できる。	
	2週	2週	評論：無彩の色	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握できる。文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈できる。	
	3週	3週	評論：無彩の色	日本文化について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述できる。調べたことを整理して、説明資料にまとめることができる。自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫できる。	
	4週	4週	論理推論：A I は哲学できるか	文章中の情報の扱い方について理解し、得られた知識を活用できる。現代社会におけるA I の活用例を踏まえ、文章をとおしてA I にとっての得意・不得意を理解できる。	
	5週	5週	論理推論：A I は哲学できるか	文章をとおし、人間の思考とA I との共通性や相違点を理解できる。帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。	
	6週	6週	言語活動：情報の探索と選択	必要な情報を探す方法を理解し、情報やデータの信頼性や妥当性の吟味の仕方が理解できる。情報探索の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探することができる。	
	7週	7週	言語活動：情報の探索と選択	情報の妥当性を具体的に検討し、学習課題に沿ってインターネットを活用し、情報を探することができる。	

		8週	言語活動：情報の明示	データを引用する目的とその効用を理解できる。 引用の具体的な方法を理解できる。 引用を適切に活用できる。
2ndQ		9週	小説：羅生門（文学史の確認）	作者についての正しい知識を前提に、作品の成立した背景を十分に理解し、文学史上の位置づけを説明することができる。
		10週	小説：羅生門	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を説明することができる。 語句の意味を理解し、語彙を豊かにできる。
		11週	小説：羅生門	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を説明することができる。 語句の意味を理解し、語彙を豊かにできる。
		12週	小説：羅生門	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を説明することができる。 語句の意味を理解し、語彙を豊かにできる。
		13週	小説：羅生門	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を説明することができる。 語句の意味を理解し、語彙を豊かにできる。
		14週	小説：羅生門	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を説明することができる。 語句の意味を理解し、語彙を豊かにできる。
		15週	試験答案の返却・解説	授業項目について達成度を確認する。 試験において間違えた部分を理解できる。
		16週		

### 評価割合

	試験	提出物	小テスト	合計
総合評価割合	40	25	35	100
基礎的能力	40	25	35	100
専門的能力	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史 I
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『日本史探求』 (東京書籍)				
担当教員	鯨島 俊秀				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史学習を通して、先人の業績を正しく評価し、いま自分がどこに位置し、何をなすべきかを考察できる。</li> <li>2. 日本人として、わが国の歴史に対する的確な視座と誇りをもち、バランスのとれた国際感覚を身につけることができる。</li> <li>3. 歴史の流れには、概ね人間の感情が大きなウエイトを占めていることを理解し、世の中の仕組みを考察できる。</li> <li>4. 第一次世界大戦後、太平洋戦争に至る日本からの視点で世界及びアジアの動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。</li> <li>5. 第二次世界大戦後の冷戦から現代までの日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。</li> <li>6. 様々な時事問題について理解を深め、説明できる。</li> </ol>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	先人の業績をよく理解し、自分の立ち位置や、何をなすべきかをしっかりと考えることができる。	先人の業績をよく理解し、自分の立ち位置や、何をなすべきかを概ね考えることができる。	先人の業績をよく理解し、自分の立ち位置や、何をなすべきかを概ね考えることができない。		
評価項目2	わが国の歴史に対する的確な視座と誇りをもち、国際社会の一員としての自覚と素養をしっかりと身につけることができる。	わが国の歴史に対する的確な視座と誇りをもち、国際社会の一員としての自覚と素養をしっかりと身につけることが概ねできる。	わが国の歴史に対する的確な視座と誇りをもち、国際社会の一員としての自覚と素養をしっかりと身につけることができない。		
評価項目3	歴史の流れには、概ね人間の感情が大きなウエイトを占めていることを理解し、世の中の仕組みを考察することができる。	歴史の流れには、概ね人間の感情が大きなウエイトを占めていることを理解し、世の中の仕組みを考察することが概ねできる。	歴史の流れには、概ね人間の感情が大きなウエイトを占めていることを理解し、世の中の仕組みを考察することが概ねできない。		
評価項目4	第一次世界大戦後、太平洋戦争に至る日本からの視点で世界及びアジアの動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	第一次世界大戦後、太平洋戦争に至る日本からの視点で世界及びアジアの動向の概要を説明し、平和の意義について概ね考察できる。	第一次世界大戦後、太平洋戦争に至る日本からの視点で世界及びアジアの動向の概要を説明し、平和の意義について概ね考察できない。		
評価項目5	第二次世界大戦後の冷戦から現代までの日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	第二次世界大戦後の冷戦から現代までの日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に概ね考察できる。	第二次世界大戦後の冷戦から現代までの日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に概ね考察できない。		
評価項目6	様々な時事問題について理解を深め、説明できる。	様々な時事問題について理解を深め、概ね説明できる。	様々な時事問題について理解を深め、概ね説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	歴史学習を通して、先人の業績を正しく評価し、いま自分がどこに位置し、何をなすべきかを考える。日本人として、わが国の歴史に対する的確な視座と誇りをもち、バランスのとれた国際感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	小・中学校で学んだ基礎知識をもとに、配布する授業プリントに沿って進めていく。学生は、プリントの空欄箇所の穴埋め、必要に応じて各自でノートをとる。この授業の目的は以下の点である。 1.日本の歴史に関する興味・関心を高める。 2.現代を読み解くための歴史的思考力を養う。 3.国際社会で主体的に生きる社会人として必要な教養を身につける。				
注意点	教科書の配列を基本としながらも、本科目のねらいを踏まえ、テーマを精選する。時事問題も適宜扱っていくため、配布する資料等も有効に活用すること。また、授業のスピードアップのため、オリジナルの授業プリントも使用する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	縄文と弥生	縄文文化・弥生文化について説明することができる。	
		2週	古代国家の形成(1)	小国家の形成、大和政権と古墳文化について説明することができる。	
		3週	古代国家の形成(2)	推古朝・奈良時代・平安初期の政治及び文化について説明することができる。	
		4週	古代国家の形成(3)	摂関政治・武士団の成長・院政・平氏の台頭及びその時代の文化について説明することができる。	
		5週	武家社会の形成(1)	鎌倉幕府の成立・執権政治・元寇及びその時代の文化について説明することができる。	
		6週	武家社会の形成(2)	室町幕府の成立・下剋上と戦国大名及びその時代の文化について説明することができる。	
		7週	近世社会の形成(1)	ヨーロッパ人の渡来・織豊政権とその時代の文化について説明することができる。	
	8週	近世社会の形成(2)	江戸幕府の成立と幕藩体制及び江戸期の文化について説明することができる。		
	2ndQ	9週	近代国家の形成と国民文化の発展(1)	開国から明治維新・立憲政治の形成・日本の近代化について説明することができる。	
10週		近代国家の形成と国民文化の発展(2)	日清戦争・日露戦争とそれぞれの時代の日本の国際社会における動向について説明することができる。		

	11週	近代国家の形成と国民文化の発展(3)	第一次世界大戦と日本・新たな国際秩序と日本への影響について説明することができる。
	12週	近代国家の形成と国民文化の発展(4)	揺れ動く経済・日中戦争と国内体制の改変について説明することができる。
	13週	近代国家の形成と国民文化の発展(5)	第二次世界大戦及び太平洋戦争に至るまでの国内事情について説明することができる。
	14週	現代の世界と日本	占領下から現代までの日本の概要を説明することができる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する(非評価項目)。
	16週		

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 I A
-------------	------	-----------------	------	--------

科目基礎情報				
科目番号	0015	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	4	
教科書/教材	〔教科書〕 FLEX English Communication I (増進堂),〔参考書・補助教材〕 FLEX English Communication I Workbook Standard (増進堂), 夢をかなえる英単語 新ユメタン (0) (アルク), Oxford Reading Club (OUP), 総合英語be 4th Edition, 総合英語be 4th Edition English Grammar 46 (いいずな書店), ジーニアス英和辞典第6版 (大修館)			
担当教員	坂元 真理子, 曾山 夏菜, 金丸 美代			

**到達目標**  
英語を通じて, 積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。  
英語を通して, 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
聞くこと	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報を聞き取り, 話し手の意図や要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報の大半を聞き取り, 話し手の意図や要点を概ね把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用しても, 必要な情報を聞き取れず, 話し手の意図や要点を把握することができない。
読むこと	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報を読み取り, 書き手の意図や要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報の大半を読み取り, 書き手の意図や要点を概ね把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用しても, 必要な情報を読み取れず, 書き手の意図や要点を把握することができない。
話すこと (やり取り)	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合う必要最小限のやり取りを行うことができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合うやり取りを行うことができない。
話すこと (発表)	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して概ね伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝えることができない。
書くこと	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを文章を書いて概ね伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを文章を書いて伝えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	聞くこと, 読むこと, 話すこと [やり取り], 話すこと [発表], 書くことの5つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して, 英語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる資質・能力と, 日常的・社会的な話題の概要や要点を的確に理解し適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力とを一体的に育成するとともに, その過程を通して, 主体的, 自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
授業の進め方・方法	奇数レッスンと偶数レッスンとを並行して進める。予習すべき内容や毎時の課題についてはその都度指示する。中間試験を実施する。
注意点	毎回の授業中の活動 (聞く・読む・話す・書く) に積極的に参加するとともに, 予習・復習・課題に欠かさず取り組み, 英語力の向上に努めることを期待する。

授業の属性・履修上の区分			
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	提示された本科目の学習目標・評価方法・授業の進め方・自宅学習の方法に沿って学習計画を作成することができる。
		2週	Starting Lesson / Lesson 2 Part 1	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		3週	Lesson 1 Part 1 / Lesson 2 Part 2	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		4週	Lesson 1 Part 2 / Lesson 2 Part 3	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		5週	Lesson 1 Part 3 / Lesson 2 Part 4	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。

2ndQ	6週	Lesson 1 Comprehension / Lesson 2 Comprehension	本文で読んだ内容を、キーワードを使って英語で書いたり話したりすることができる。
	7週	Lesson 1 Grammar & Exercises, Final Task / Lesson 2 Grammar & Exercises, Final Task	当該課で学習した文法項目の練習問題に正答することができる。
	8週	Lesson 3 Part 1 / Lesson 4 Part 1	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	9週	Lesson 3 Part 2 / Lesson 4 Part 2	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	10週	Lesson 3 Part 3 / Lesson 4 Part 3	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	11週	Lesson 3 Part 4 / Lesson 4 Part 4	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	12週	Lesson 3 Comprehension / Lesson 4 Comprehension	本文で読んだ内容を、キーワードを使って英語で書いたり話したりすることができる。
	13週	Lesson 3 Grammar & Exercises, Final Task / Lesson 4 Grammar & Exercises, Final Task	当該課で学習した文法項目の練習問題に正答することができる。
	14週	Wrap Up	試験に向けて復習すべき項目を挙げ、試験までの学習計画を作成することができる。
15週	試験答案の返却・解説	試験において誤った問題を全て正答することができる。	
16週			

### 評価割合

	試験	平常点	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 I B
-------------	------	-----------------	------	--------

科目基礎情報				
科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	4	
教科書/教材	〔教科書〕 FLEX English Communication I (増進堂), 〔参考書・補助教材〕 FLEX English Communication I Workbook Standard (増進堂), 夢をかなえる英単語 新ユメタン (0) (アルク), Oxford Reading Club (OUP), 総合英語be 4th Edition, 総合英語be 4th Edition English Grammar 46 (いいずな書店), ジーニアス英和辞典第6版 (大修館)			
担当教員	坂元 真理子, 國谷 徹, 曾山 夏菜, 金丸 美代			

**到達目標**  
英語を通じて, 積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。  
英語を通じて, 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
聞くこと	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報を聞き取り, 話し手の意図や要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報の大半を聞き取り, 話し手の意図や要点を概ね把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 話される速さや, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用しても, 必要な情報を聞き取れず, 話し手の意図や要点を把握することができない。
読むこと	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報を読み取り, 書き手の意図や要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 必要な情報の大半を読み取り, 書き手の意図や要点を概ね把握することができる。	日常的・社会的な話題について, 使用される語句や文, 情報量などにおいて, 多くの支援を活用しても, 必要な情報を読み取れず, 書き手の意図や要点を把握することができない。
話すこと (やり取り)	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合う必要最小限のやり取りを行うことができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 対話の展開などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝え合うやり取りを行うことができない。
話すこと (発表)	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して概ね伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを話して伝えることができない。
書くこと	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを文章を書いて概ね伝えることができる。	日常的・社会的な話題について, 使用する語句や文, 事前の準備などにおいて, 多くの支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを文章を書いて伝えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	聞くこと, 読むこと, 話すこと [やり取り], 話すこと [発表], 書くことの5つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して, 英語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる資質・能力と, 日常的・社会的な話題の概要や要点を的確に理解し適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力とを一体的に育成するとともに, その過程を通して, 主体的, 自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
授業の進め方・方法	奇数レッスンと偶数レッスンとを並行して進める。予習すべき内容や毎時の課題についてはその都度指示する。中間試験を実施する。
注意点	毎回の授業中の活動 (聞く・読む・話す・書く) に積極的に参加するとともに, 予習・復習・課題に欠かさず取り組み, 英語力の向上に努めることを期待する。

授業の属性・履修上の区分			
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	提示された本科目の学習目標・評価方法・授業の進め方・自宅学習の方法に沿って学習計画を作成することができる。
		2週	Lesson 5 Part 1 / Lesson 6 Part 1	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		3週	Lesson 5 Part 2 / Lesson 6 Part 2	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		4週	Lesson 5 Part 3 / Lesson 6 Part 3	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
		5週	Lesson 5 Part 4 / Lesson 6 Part 4	教科書の言語材料を使用し, 聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。

4thQ	6週	Lesson 5 Comprehension / Lesson 6 Comprehension	本文で読んだ内容を、キーワードを使って英語で書いたり話したりすることができる。
	7週	Lesson 5 Grammar & Exercises, Final Task / Lesson 6 Grammar & Exercises, Final Task	当該課で学習した文法項目の練習問題に正答することができる。
	8週	Lesson 7 Part 1 / Lesson 8 Part 1	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	9週	Lesson 7 Part 2 / Lesson 8 Part 2	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	10週	Lesson 7 Part 3 / Lesson 8 Part 3	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	11週	Lesson 7 Part 4 / Lesson 8 Part 4	教科書の言語材料を使用し、聞いたり読んだりした内容に関する質問に英語で答えることができる。
	12週	Lesson 7 Comprehension / Lesson 8 Comprehension	本文で読んだ内容を、キーワードを使って英語で書いたり話したりすることができる。
	13週	Lesson 7 Grammar & Exercises, Final Task / Lesson 8 Grammar & Exercises, Final Task	当該課で学習した文法項目の練習問題に正答することができる。
	14週	Wrap Up	試験に向けて復習すべき項目を挙げ、試験までの学習計画を作成することができる。
15週	試験答案の返却・解説	試験において誤った問題を全て正答することができる。	
16週			

#### 評価割合

	試験	平常点	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語論理・表現入門 I A
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	はちの発音 ハミング8メソッド 大庭まゆみ著 著 いいずな書店、キクタン英会話[海外旅行編]		ハミングバード、Listening Studio Standard いいずな書店編集部 一杉武史 アルク		
担当教員	嵯峨原 昭次				
到達目標					
1. ハミング発音step1-2の体操ができる。 2. ハミング発音Step3の音の形ができる。 3. ハミング発音Step4の音のもと(母音、子音、Lの音、Rの音)が発音できる。 4. ハミング発音Step5の音の動きが発音できる。 5. 英語で自己紹介ができる。 6. クラスメイトとペアーを作り英語で対話を発表できる。 7. 準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。 8. 英会話表現を認知することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ハミング発音step1-2の体操テストで8割以上取得できる。	ハミング発音step1-2の体操テストで6割以上取得できる。	ハミング発音step1-2の体操テストで6割以上取得できない。		
評価項目2	ハミング発音Step3の音の形テストで8割以上取得できる。	ハミング発音Step3の音の形テストで6割以上取得できる。	ハミング発音Step3の音の形テストで6割以上取得できない。		
評価項目3	ハミング発音Step4の音のもと(母音、子音、Lの音、Rの音)発音テストで8割以上取得できる。	ハミング発音Step4の音のもと(母音、子音、Lの音、Rの音)発音テストで6割以上取得できる。	ハミング発音Step4の音のもと(母音、子音、Lの音、Rの音)発音テストで6割以上取得できない。		
評価項目4	ハミング発音Step5の音の動きテストで8割以上取得できる。	ハミング発音Step5の音の動きテストで6割以上取得できる。	ハミング発音Step5の音の動きテストで6割以上取得できない。		
評価項目5	原稿を暗記して、正しい英語発音で、説得力のある英語で発表できる。	原稿を暗記して発表できる。	原稿を暗記して発表できない。		
評価項目6	原稿を暗記して、正しい英語発音で、説得力のある英語で、ペアーで自然に発表できる。	原稿を暗記して発表できる。	原稿を暗記して発表できない。		
評価項目7	英検準2級リスニング問題20問中16問以上正解できる。	英検準2級リスニング問題20問中12問以上正解できる。	英検準2級リスニング問題20問中12問以上正解できない。		
評価項目8	英会話表現テスト(満点25点)で20点以上取得できる。	英会話表現テスト(満点25点)で15点以上取得できる。	英会話表現テスト(満点25点)で15点以上取得できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	発音、リスニング、スピーキングを基礎から演習し、後期の英語演習 I Bにつなげる。また、その成果を英語 I、IIの総合学習に活用する。				
授業の進め方・方法	授業の大半を英語で進める。英語の発音授業は、専用DVD、鏡を利用して、担当教員が詳細に説明し、数週間後発音実践試験が実施される。また、発音授業についていけない学生のために補講や個人指導がある。リスニング・スピーキングの演習等、CDプレーヤー、DVD機器を利用して進める。				
注意点	図書館ラーニングcommons教室で失敗を恐れずに積極的に英語をしゃべること。発音・スピーチ・リスニングの諸活動に積極的に参加すること。評価のほとんどは実践的な活動で評価するので、発表、インタビューテストなど真面目に取り組むこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Pronunciation(Step1)	Step1の体操ができる。	
		2週	Pronunciation(Step2)	Step2の体操ができる。	
		3週	Pronunciation(Step3)	step3の音の形ができる。	
		4週	Speech①(自己紹介)	英語で自己紹介ができる。	
		5週	Listening①	リスニング教材を利用して準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。	
		6週	表現①	対話(基礎)表現、対話(感情)表現を認知することができる。	
		7週	その他①(強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング)	実践演習ができる。	
		8週	Pronunciation(Step4)	step4の音(母音、子音、Lの音、Rの音)ができる。	
	2ndQ	9週	Pronunciation(Step5)	step5のもと、Step5の音の動きが発音できる。	
		10週	Speech②(対話)	クラスメイトとペアーを作り英語で対話を発表できる。	
		11週	Listening②	リスニング教材を利用して準2級リスニングレベルの問題を解くことができる。	

	12週	表現②	対話（基礎）表現、対話（感情）表現を認知することができる。
	13週	その他②（強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング）	実践演習ができる。
	14週	その他③（強弱読み、フォローイング、絵カード説明、スピーキング）	実践演習ができる。
	15週	試験の答案の返却・解説	試験において間違えた部分を理解できる。
	16週		

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	言語文化
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校 言語文化 (第一学習社) / 新版六訂 カラー版 新国語便覧 (第一学習社) / 常用漢字ダブルクリア四訂版 (尚文出版) / 各種辞書				
担当教員	田中 智樹				
到達目標					
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 我が国の言語文化の特質について理解している。	我が国の言語文化の特質についてよく理解し、得られた知識を活用できる。		我が国の言語文化の特質についてある程度理解できる。		我が国の言語文化の特質についての理解が乏しい。
評価項目2 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を理解している。	我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を十分に理解できる。		我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義をある程度理解できる。		古典の世界に親しむことの意義を理解していない。
評価項目3 我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。	我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚できる。		我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて、ある程度自覚できている。		我が国の言語文化を継承していくことについて自覚をもとうとしていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本学国語関係科目の基礎的意義を有する。古典を中心に、日本文化および日本語文化の基本的な知識と教養を培うと同時に、それに基づく考える力を身につけ、国語能力の基礎形成を図る。</p>				
授業の進め方・方法	<p>教科書の音読をとおして、より深く文章の内容理解に努め、教材の中の様々な問題について自分の意見をもち、的確に表現できるようにする。さらに、常用漢字、重要語句を確実に修得するよう努める。また、授業に積極的に関わり、教師からの質問にも進んで答えるよう心がける。グループワークを併用した授業を予定しているため、積極的な発言および、まとめのレポートについても必ず提出すること。また、サブテキストを使用し、毎月、漢字の小テストを行う。</p>				
注意点	<p>教科書の内容とは別に、毎時間、読書の時間を作り、読書ノートに記録した上で、毎月ノートのチェックを行う。また、提出物の評価を高くしているため、課題の期限を守り、指示されたとおりに提出すること。必要に応じ、遠隔授業の教材や小テストを併用する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	奥の細道：立石寺	作品及び作者の文学史上の価値・位置づけが説明できる。	
		2週	奥の細道：立石寺	句と地の文とが一体になった芭蕉の文章を味わい、諧紀行諧紀行文の文章として理解できる。俳諧における季語や切れ字の働きについて理解し、説明できる。	
		3週	奥の細道：立石寺	句と地の文とが一体になった芭蕉の文章を味わい、諧紀行諧紀行文の文章として理解できる。俳諧における季語や切れ字の働きについて理解し、説明できる。	
		4週	俳句について (グループワーク)	グループワークを通して俳句を作ることの楽しさや難しさを理解できる。	
		5週	俳句について (グループワーク)	相互に作った俳句の鑑賞を行うことで、日本の伝統文化としての俳句を理解を深めることができる。	
		6週	古今和歌集	作品及び編者の文学史上の価値・位置づけが説明できる。勅撰和歌集としての作品の重要性を理解できる。	
		7週	古今和歌集	我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、発展期の和歌の特色を捉える。作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈できる。	
	8週	古今和歌集	我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、発展期の和歌の特色を捉える。作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈できる。		
	4thQ	9週	短歌について	グループワークを通して短歌を作ることの楽しさや難しさを理解できる。	
	10週	短歌について	相互に作った短歌の鑑賞を行うことで、日本の伝統文化としての俳句を理解を深めることができる。		

	11週	枕草子：中納言参りたまひて	作者及び作品の文学史上の価値・位置づけを説明できる。
	12週	枕草子：中納言参りたまひて	動詞の活用の種類及び活用形の意味と、基本的な助動詞の意味が説明できる。 敬語の使い方を理解できる。 文章の内容や形態に応じた表現の特色が理解できる。
	13週	枕草子：中納言参りたまひて	作品をとおして当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解できる。
	14週	枕草子：中納言参りたまひて	作品をとおして当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解できる。
	15週	期末試験の答案の返却および解説	授業項目について達成度を確認する。 試験において間違えた部分を理解できる。
	16週		

評価割合

	試験	提出物	小テスト	合計
総合評価割合	40	25	35	100
基礎的能力	40	25	35	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0019		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『世界史探求』 (東京書籍)				
担当教員	鯨島 俊秀				
到達目標					
1. 人類の誕生から文明・社会の誕生について理解し、説明できる。 2. オリエントの古代文明、ユダヤ通史を基軸とし、現代の様相を理解し、説明できる。 3. 古代のギリシアの歴史に興味を持ち、東西の文化の違いについて理解し、説明できる。 4. 古代のローマの歴史に興味を持ち、西欧諸国の近代・現代との繋がりについて理解し、説明できる。 5. 第二次世界大戦に至る世界の動向の概要を説明し、大戦後から現代までの世界の様相について理解し、説明できる。 6. 様々な時事問題について理解を深め、説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	人類の誕生から、諸地域の文明の誕生及び社会の誕生について、深く理解し、詳しく説明できる。	人類の誕生から、諸地域の文明の誕生及び社会の誕生について、概略を理解し、だいたい説明できる。	人類の誕生から、諸地域の文明の誕生及び社会の誕生について、ほとんど理解しておらず、説明できない。		
評価項目2	人類の文明の発祥であるオリエントの古代文明と現代社会を読み解くキーワードの一つであるユダヤ通史について、深く理解し、詳しく説明できる。	人類の文明の発祥であるオリエントの古代文明と現代社会を読み解くキーワードの一つであるユダヤ通史について、概略を理解し、だいたい説明できる。	人類の文明の発祥であるオリエントの古代文明と現代社会を読み解くキーワードの一つであるユダヤ通史について、ほとんど理解しておらず、説明できない。		
評価項目3	古代のギリシア社会の概要と、東西世界の文化の違いについて、その共通点・相違点について、説明できる。	古代のギリシア社会の概要と、東西世界の文化の違いについて、その共通点・相違点について、概略を理解し、だいたい説明できる。	古代のギリシア社会の概要と、東西世界の文化の違いについて、その共通点・相違点について、ほとんど理解しておらず、説明できない。		
評価項目4	古代のローマの歴史に興味を持ち、西欧諸国の近代・現代との繋がりについて理解し、深く理解し、詳しく説明できる。	古代のローマの歴史に興味を持ち、西欧諸国の近代・現代との繋がりについて、概略を理解し、だいたい説明できる。	古代のローマの歴史に興味を持ち、西欧諸国の近代・現代との繋がりについて、ほとんど理解しておらず、説明できない。		
評価項目5	第二次世界大戦に至る世界の動向の概要を説明し、大戦後から現代までの世界の様相について深く理解し、詳しく説明できる。	第二次世界大戦に至る世界の動向の概要を説明し、大戦後から現代までの世界の様相について概略を理解し、だいたい説明できる。	第二次世界大戦に至る世界の動向の概要を説明し、大戦後から現代までの世界の様相についてほとんど理解しておらず、説明できない。		
評価項目6	現代の世界に起こる様々な問題について、深く理解し、詳しく説明できる。	現代の世界に起こる様々な問題について、概略を理解し、だいたい説明できる。	現代の世界に起こる様々な問題について、ほとんど理解しておらず、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の歴史を学ぶことにより21世紀を生きる社会人として必要な常識の基本を身に付けるとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。				
授業の進め方・方法	小・中学校で学んだ基礎知識をもとに、配布する授業プリントに沿って進めていく。学生は、プリントの空欄箇所の穴埋め、必要に応じて各自でノートをとる。この授業の目的は以下の点である。 1. 世界の歴史に関する興味・関心を高める。 2. 現代を読み解くための歴史的思考力を養う。 3. 国際社会で主体的に生きる社会人として必要な教養を身につける。				
注意点	教科書の配列を基本としながらも、本科目のねらいを踏まえ、テーマを精選する。時事問題も適宜扱っていくため、配布する資料等も有効に活用すること。また、授業のスピードアップのため、オリジナルの授業プリントも使用する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	歴史への導入、地球と生命の誕生	本講義の趣旨を理解するとともに、地球と生命の誕生について説明することができる。	
		2週	人類の誕生、進化、社会の形成	人類の発達段階と社会の形成過程を説明することができる。	
		3週	文明の誕生、古代オリエント	文明誕生の過程と古代オリエントの諸民族について説明することができる。	
		4週	ユダヤ通史(1)	古代から現代までのユダヤ史を通して近代社会の形成を説明することができる。	
		5週	ユダヤ通史(2)	古代から現代までのユダヤ史を通して近代社会の形成を説明することができる。	
		6週	ユダヤ通史(3)	古代から現代までのユダヤ史を通して近代社会の形成を説明することができる。	
		7週	古代ギリシア、ペルシア戦争	古代ギリシア文明について説明できるとともに、文化の多様性について理解し、説明できる。	
		8週	古代ローマ、国家政治システムの構築	ローマ帝国について説明できるとともに、国家政治システムの構築について理解し、説明できる。	

4thQ	9週	第一次世界大戦後の世界	ヴェルサイユ体制下の世界について説明することができる。
	10週	第二次世界大戦前後の世界(1)	第二次世界大戦勃発の種々の要因について説明することができる。
	11週	第二次世界大戦前後の世界(2)	ドイツを軸に第二次世界大戦中、後の世界について説明することができる。
	12週	第二次世界大戦前後の世界(3)	戦後の国際秩序の形成、諸問題について説明することができる。
	13週	時事問題	現代の世界に起こっている様々な事象について説明することができる。
	14週	時事問題	現代の世界に起こっている様々な事象について説明することができる。
	15週	試験答案返却、解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学基礎 A 1
科目基礎情報				
科目番号	0020	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	4	
教科書/教材	「新基礎数学 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新編高専の数学 1 問題集(第2版)」田代嘉宏編 森北出版			
担当教員	嶋根 紀仁, 拜田 稔, 松浦 將國			
到達目標				
(1) 整式や分数式の計算力を養い、実数や複素数についての理解を深め、それらの扱いに習熟する。 (2) 基礎的な方程式・不等式の解法を習得し、具体的な問題に応用できる力を養う。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
整式の加法・減法・乗法	整式の加法・減法や、展開公式を用いた乗法の計算ができる。	整式の加法・減法や簡単な乗法の計算ができる。	整式の加法・減法・乗法の計算ができない。	
整式の因数分解	文字の多い整式や、多少複雑な整式でも因数分解ができる。	簡単な整式の因数分解ができる。	簡単な整式の因数分解ができない。	
整式の割り算	複雑な整式の割り算でもできる。	簡単な整式の割り算ができる。	簡単な整式の割り算ができない。	
因数定理	因数定理を使って三次以上の整式の因数分解ができる。	因数定理を使って三次式の因数分解ができる。	因数定理が使えない。	
分数式の計算	複雑な分数式の計算や、繁分数式の計算ができる。	簡単な分数式の計算ができる。	簡単な分数式の計算ができない。	
根号を含む式の計算	根号を含む複雑な式の計算ができる。	根号を含む簡単な式の計算や分母の有理化ができる。	根号を含む簡単な式の計算ができない。	
複素数の四則演算	複素数の複雑な四則演算ができる。	複素数の簡単な四則演算や分母の有理化ができる。	複素数の四則演算ができない。	
二次方程式	二次方程式を解の公式や因数分解によって解くことができる。	二次方程式を解の公式を使って解くことができる。	二次方程式が解けない。	
いろいろな方程式	高次方程式や分数方程式、無理方程式を解くことができる。	三次方程式が解ける。	三次方程式が解けない。	
いろいろな不等式	高次不等式や連立不等式が解ける。	三次不等式が解ける。	一次不等式や二次不等式が解けない。	
等式・不等式の証明	いろいろな等式や不等式の証明ができる。	簡単な等式や不等式の証明ができる。	等式や不等式の証明ができない。	
集合の記号、ド・モルガンの法則	集合の記号やド・モルガンの法則を説明でき、それらを使って様々な問題を解くことができる。	集合の記号やド・モルガンの法則を説明できる。	集合の記号やド・モルガンの法則を説明できない。	
命題の真偽、必要条件・十分条件、否定、逆・裏・対偶や背理法	命題の真偽、必要条件・十分条件、否定、逆・裏・対偶や背理法を説明でき、様々な問題に応用できる。	命題の真偽、必要条件・十分条件、否定、逆・裏・対偶や背理法を説明できる。	命題の真偽、必要条件・十分条件、否定、逆・裏・対偶や背理法を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	本科目は、高専数学の基礎科目として位置付けられる。			
授業の進め方・方法	数と式の計算、方程式と不等式などを講義形式で教授する。ただし、状況により小テスト、レポートまたは学生による発表を行うことがある。中間試験を実施する。			
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から教科書や問題集の問題などを解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	整式の計算	整式の加法・減法、乗法の計算ができる。
		2週	因数分解と整式の除法	整式の因数分解ができる。 整式の除法の計算ができる。
		3週	剰余の定理と因数定理	剰余の定理と因数定理が使える。因数定理を用いて、次数が3以上の整式の因数分解ができる。
		4週	分数式の計算	分数式の通分や約分などの計算ができる。繁分数式の計算ができる。
		5週	実数と平方根	実数の定義を説明できる。絶対値の定義と性質を説明できる。 平方根の定義と根号の性質を説明でき、根号を含む式の計算ができる。分母の有理化ができる。
		6週	複素数	複素数の定義を説明できる。複素数の四則演算ができる。複素数平面や共役複素数の定義を説明できる。複素数の絶対値の計算ができる。

2ndQ	7週	二次方程式、解と係数の関係	解の公式が使える。判別式を用いて解の判別ができる。 解と係数の関係を説明できる。二次方程式の解を用いて、因数分解ができる。
	8週	いろいろな方程式	高次方程式が解ける。連立方程式が解ける。 絶対値を含む方程式が解ける。
	9週	いろいろな方程式	分数方程式が解ける。無理方程式が解ける。
	10週	恒等式、等式の証明	恒等式が理解できる。分数式の部分分数分解ができる。 等式の証明ができる。
	11週	不等式	不等式の性質を説明できる。一次不等式が解ける。連立不等式が解ける。
	12週	いろいろな不等式	二次不等式が解ける。高次不等式が解ける。
	13週	不等式の証明	相加平均と相乗平均の関係を証明できる。いろいろな不等式が証明できる。
	14週	集合と命題	集合の記号を説明できる。ド・モルガンの法則を説明できる。 命題の真偽や必要条件・十分条件を説明できる。命題の否定や逆・裏・対偶を説明できる。背理法を説明できる。
	15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。 関数とグラフについて説明できる。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・課題等	合計
総合評価割合	75	25	100
成績	75	25	100

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学基礎 A 2
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	「新基礎数学 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新編高専の数学 1 問題集(第2版)」田代嘉宏編 森北出版				
担当教員	嶋根 紀仁, 拜田 稔, 松浦 将國				
到達目標					
(1) いろいろな関数の性質を理解し、グラフやそれらの扱いに習熟する。 (2) 点と直線、2次曲線について、基礎事項を理解し、不等式の表す領域を図示する方法を習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
関数とグラフ、グラフの平行移動、漸近線	関数とグラフについて説明でき、グラフの平行移動や漸近線を説明でき、偶関数と奇関数の定義と性質を説明でき、様々な問題に応用できる。		関数とグラフについて説明でき、グラフの平行移動や漸近線を説明でき、偶関数と奇関数の定義と性質を説明できる。		関数とグラフについて説明したり、グラフの平行移動や漸近線を説明したり、偶関数と奇関数の定義と性質を説明したりできない。
二次関数のグラフ、最大値と最小値	あらゆる二次関数のグラフをかくことができ、最大値と最小値を求めることができる。		簡単な二次関数のグラフをかいたり、最大値と最小値を求めたりすることができる。		二次関数のグラフをかいたり、最大値と最小値を求めたりすることができない。
二次関数のグラフと二次方程式 / 不等式の関係	二次関数のグラフと二次方程式・二次不等式の間を説明でき、様々な問題を解くことができる。		二次関数のグラフと二次方程式・二次不等式の間を説明できる。		二次関数のグラフと二次方程式・二次不等式の間を説明できない。
分数関数や無理関数の定義域・値域・グラフ	様々な分数関数や無理関数の定義域と値域を求めることができ、グラフをかくことができる。		簡単な分数関数や無理関数の定義域と値域を求めることができ、グラフをかくことができる。		分数関数や無理関数の定義域と値域を求めたり、グラフをかいたりすることができない。
逆関数とそのグラフ	逆関数の定義を説明でき、様々な関数の逆関数を求めてグラフをかくことができる。		逆関数の定義を説明でき、簡単な関数の逆関数を求めてグラフをかくことができる。		逆関数の定義を説明したり、逆関数を求めてグラフをかいたりすることができない。
二点間の距離と内分点の公式、直線の方程式、二直線の平行と垂直	二点間の距離と内分点の公式が使い、直線の方程式を求めることができ、二直線の平行条件や垂直条件を説明でき、様々な問題に応用して解くことができる。		二点間の距離と内分点の公式が使い、直線の方程式を求めることができ、二直線の平行条件や垂直条件を説明できる。		二点間の距離と内分点の公式を使ったり、直線の方程式を求めたり、二直線の平行条件や垂直条件を説明したりすることができない。
円・楕円・双曲線・放物線とそれらの接線の方程式	円・楕円・双曲線・放物線の定義と性質を説明でき、接線の方程式を求めることができ、様々な問題に応用して解くことができる。		円・楕円・双曲線・放物線の定義と性質を説明でき、接線の方程式を求めることができる。		円・楕円・双曲線・放物線の定義と性質を説明したり、接線の方程式を求めたりすることができない。
不等式の表す領域	様々な不等式や連立不等式の表す領域を図示できる。		簡単な不等式や連立不等式の表す領域を図示できる。		不等式や連立不等式の表す領域を図示できない。
領域における式の最大値・最小値	様々な領域における式の最大値・最小値を求めることができる。		簡単な領域における一次式の最大値・最小値を求めることができる。		領域における一次式の最大値・最小値を求めることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学基礎A1の知識を前提とする。本科目は、高専数学の基礎科目として位置付けられる。				
授業の進め方・方法	関数とグラフ、図形と式などを講義形式で行う。ただし、状況により小テスト、レポートまたは学生による発表を行うことがある。なお、中間試験を実施する。				
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から教科書や問題集の問題を解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	二次関数のグラフ	関数とグラフについて説明できる。二次関数のグラフがかけられる。	
		2週	二次関数の最大・最小、二次関数と二次方程式	二次関数の最大値と最小値が求められる。二次関数のグラフと二次方程式の間を説明できる。	
		3週	二次関数と二次不等式	二次関数のグラフと二次不等式の間を説明できる。	
		4週	べき関数	偶関数と奇関数の定義と性質を説明できる。グラフの平行移動を説明できる。	
		5週	分数関数	グラフの漸近線を説明できる。分数関数のグラフがかけられる。	
		6週	無理関数	無理関数の定義域と値域を求めることができる。無理関数のグラフがかけられる。	
		7週	逆関数	逆関数の定義を説明できる。逆関数が求められる。逆関数のグラフがかけられる。	
		8週	二点間の距離と内分点	二点間の距離と内分点の公式が使える。	

4thQ	9週	直線の方程式、二直線の関係	直線の方程式を求めることができる。 二直線の平行条件や垂直条件を説明できる。
	10週	円の方程式	円の方程式を求めることができる。 軌跡を説明できる。
	11週	楕円、双曲線	楕円・双曲線の定義と性質を説明できる。
	12週	放物線、二次曲線の接線	放物線の定義と性質を説明できる。 二次曲線の接線の方程式を求めることができる。
	13週	不等式と領域	不等式の表す領域を図示できる。連立不等式の表す領域を図示できる。
	14週	不等式と領域	領域における一次式の最大値・最小値を求めることができる。
	15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・課題等	合計
総合評価割合	75	25	100
成績	75	25	100

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学基礎 B 1
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「新基礎数学 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新編高専の数学1 問題集(第2版)」田代嘉宏編 森北出版				
担当教員	楢松 祐介,熊谷 博,白坂 繁,拜田 稔				
到達目標					
三角関数は、物理や専門科目などで幅広く使われる。本科目では、三角関数の基本的性質を理解し、グラフがかけられることを目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
三角比とその応用	三角比の相互関係が説明でき、基本的な問題を解くことができる。ヘロンの公式が説明でき、三角形の面積を求めることができる。正弦定理・余弦定理を用いて、問題を解くことができる。	鈍角・鋭角の三角比を説明し、主な角の三角比を求めることができる。三角比を用いて、高さや水平距離を求めることができる。正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。三角形の面積を求めることができる。	主な角の三角比を求めることができない。三角関数表を用いて三角比を求めることができない。正弦定理・余弦定理が説明できない。		
三角関数	三角関数の性質を用いて、問題を解くことができる。三角関数のグラフを用いて、問題を解くことができる。三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	一般角の三角関数が説明でき、主な角の三角関数の値を求めることができる。三角関数の性質が説明でき、基本的な問題を解くことができる。三角関数のグラフを描くことができる。三角関数を含む基本的な方程式や不等式を解くことができる。	三角比の一般角への拡張が説明できない。弧度法が説明できない。三角関数の周期が説明できない。三角関数を含む基本的な方程式を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目は、高専数学および物理や専門科目の基礎として位置付けられる。				
授業の進め方・方法	前半に三角比とその応用、後半に三角関数を講義形式で行う。中間試験を実施する。				
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみることを。 (3) 日頃から教科書や問題集の問題を解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	鋭角の三角比	鋭角の三角比を理解できる。	
		2週	鋭角の三角比の性質	鋭角の三角比を説明できる。	
		3週	鈍角の三角比	鈍角の三角比を理解できる。	
		4週	鈍角の三角比の性質	鈍角の三角比を説明できる。	
		5週	正弦定理	正弦定理を説明できる。	
		6週	余弦定理	余弦定理を説明できる。	
		7週	三角比と面積	三角比を用いて三角形の面積が求められる。	
	8週	一般角の三角比	一般角を説明できる。一般角の三角関数の定義を説明できる。		
	2ndQ	9週	弧度法	弧度法の定義を説明できる。	
		10週	三角関数	三角関数の性質を説明できる。	
		11週	三角関数の性質	三角関数の性質を説明できる。	
		12週	三角関数のグラフ	三角関数のグラフがかけられる。	
		13週	三角関数を含む方程式	三角関数を含む方程式を解くことができる。	
		14週	三角関数を含む不等式	三角関数を含む不等式を解くことができる。	
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。	
16週					
評価割合					
		試験	小テスト・課題等	合計	
総合評価割合		75	25	100	
成績		75	25	100	

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学基礎 B 2
科目基礎情報				
科目番号	0023	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	「新基礎数学 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新編高専の数学 1 問題集(第2版)」田代嘉宏編 森北出版			
担当教員	楠松 祐介,熊谷 博,白坂 繁,拜田 稔			
到達目標				
(1) 三角関数の性質や公式を用いて、様々な問題を解くことができること。 (2) 指数関数や対数関数の性質や公式を用いて様々な問題を解くことができること。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
加法定理とその応用	加法定理を用いて、問題を解くことができる。	加法定理、2倍角や半角の公式が説明できる。 積を和・差に直す公式、和・差を積に直す公式が説明できる。 三角関数の合成が説明できる。 加法定理を用いて、基本的な問題を解くことができる。	加法定理が説明できない。	
指数関数	指数関数を用いて、問題を解くことができる。	根号や指数を含む計算ができる。 指数関数のグラフを描くことができる。 指数関数を含む基本的な方程式や不等式を解くことができる。	累乗根や指数の拡張が説明できない。 指数関数の性質が説明できない。	
対数関数	対数を用いて、問題を解くことができる。	対数の性質や底の変換公式が説明でき、基本的な問題を解くことができる。 対数関数のグラフを描くことができる。 対数関数を含む基本的な方程式や不等式を解くことができる。	対数の定義が説明できない。 対数関数の性質が説明できない。 常用対数を説明できない。 対数表を用いて近似値を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	本科目は、高専数学の基礎科目として位置付けられる。			
授業の進め方・方法	加法定理、指数関数、対数関数を講義形式で行う。中間試験を実施する。			
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から教科書や問題集の問題を解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	加法定理	加法定理が使える。
		2週	加法定理	加法定理が使える。
		3週	2倍角の公式	2倍角の公式が使える。
		4週	半角の公式	半角の公式が使える。
		5週	積和の公式	積和の公式が使える。
		6週	和積の公式	和積の公式が使える。
		7週	三角関数の合成	三角関数の合成ができる。
		8週	累乗根、指数	累乗根の計算ができる。 指数を含む式の計算ができる。
	4thQ	9週	指数、指数関数	指数を含む式の計算ができる。 指数関数のグラフが書ける。
		10週	指数関数	指数を含む方程式や不等式が解ける。
		11週	対数	対数の定義と性質を説明できる。 対数の計算ができる。
		12週	対数	対数の計算ができる。 対数関数のグラフが書ける。
		13週	対数関数	対数方程式、対数不等式が解ける。
		14週	対数関数	常用対数を利用して、対数の近似計算ができる。 常用対数の応用問題が解ける。
		15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。 数学的帰納法を説明できる。
		16週		
評価割合				
	試験	小テスト・課題等	合計	
総合評価割合	75	25	100	

成績	75	25	100
----	----	----	-----

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 I A		
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	①力学I (大日本図書)、②新課程 Let's Try Note 物理基礎 Vol.1 力学編 (東京書籍)、③改訂 Let's Try Note 物理 Vol.1 力学編 (東京書籍)						
担当教員	野澤 宏大, 池田 昭大						
到達目標							
1. MKS単位、有効数字を理解できる。 2. 物体の直線運動を式で表現することができる。 3. 運動方程式を用いた計算ができる。 4. 物体の平面運動を理解できる。 5. 力の性質・種類を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	MKS単位を理解し、有効数字を状況に応じて使い分けができる。		MKS単位、有効数字を理解できる。		MKS単位、有効数字を理解できない。		
評価項目2	物体の直線運動を式で表現できる。速度と速さ、変位と移動距離の区別ができる。		物体の直線運動を式で表現できる。		物体の直線運動を式で表現する事ができない。		
評価項目3	運動方程式を用いた計算ができる。加速度の重要性を理解できる。		運動方程式を用いた計算ができる。		運動方程式を用いた計算ができない。		
評価項目4	物体の平面運動を理解できる。ベクトルの合成・分解ができる。		物体の平面運動を理解できる。		物体の平面運動を理解できない。		
評価項目5	力の性質・種類を理解できる。3力のつりあいを理解できる。		力の性質・種類を理解できる。		力の性質・種類を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	力学の基本事項を重点的に学習し、現象に対する物理的なもの見方と考え方を身につける。微積分を用いない高校レベルの物理で、まず直線運動に関して、速度、加速度、変位、力について学び、それを平面運動に拡張する。						
授業の進め方・方法	講義形式で進め、適宜演習を行う。						
注意点	力学現象の本質をまず定性的に理解し、次に定量的、数学的に取り組むことが肝要である。授業の進捗状況に応じて問題演習を行う。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	MKS単位・有効数字	物理の単位がMKSであることが理解できる。有効数字を説明することができる。			
		2週	変位と速度	変位と速度の計算ができる。速度と速さの違いがわかる。			
		3週	加速度	加速度について説明でき、計算する事ができる。			
		4週	等加速度運動	等加速度運動の式を理解できる。			
		5週	等加速度運動	等加速度運動の式を用い、計算することができる。			
		6週	鉛直方向の運動	自由落下、鉛直投げ上げ運動の計算ができる。			
		7週	運動の法則	慣性の法則、運動の法則の説明ができる。運動方程式を説明できる。			
		8週	力のつりあい・作用反作用の法則	力のつりあいを理解できる。作用反作用の法則を理解できる。			
	2ndQ	9週	力	作用反作用の法則とつりあいの関係を理解できる。重力を説明できる。			
		10週	力	弾性力、摩擦力を説明できる。			
		11週	合成速度	平面運動の表現の仕方がわかる。速度を合成、分解することができる。			
		12週	相対速度	相対速度の計算ができる。			
		13週	放物運動	水平投射・斜方投射の計算ができる。			
		14週	力の合成・分解・つりあい	力の合成・分解、力のつりあいを理解できる。			
		15週	答案返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	20	55
専門的能力	25	0	0	0	0	5	30

分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15
---------	----	---	---	---	---	---	----

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 I
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義・実験		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「新編 化学基礎」小川佳一郎他 著 東京書籍 「ダイナミックワイド 図説化学」竹内敬人他 著 東京書籍 「ニューサポート 新編 化学基礎」東京書籍編集部				
担当教員	三原 めぐみ				
到達目標					
1. 物質と人間生活、化学とその役割について理解している。 2. 物質の成り立ちと分類・分離について理解している。 3. 元素という概念による分類、元素の確認方法や同素体の性質について理解している。 4. 状態変化と熱運動に関する概念を理解している。 5. 物質の構成粒子としての原子の構造および規則性について理解している。 6. 原子の電子配置や価電子等の概念を理解している。 7. 周期律と周期表の構成について理解している。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	物質と人間生活、化学とその役割について理解し、説明できる。	物質と人間生活、化学とその役割について理解している。	物質と人間生活、化学とその役割について理解していない。		
評価項目2	物質の成り立ちと分類・分離に関する概念を理解し、説明できる。	物質の成り立ちと分類・分離に関する概念を理解している。	物質の成り立ちと分類・分離に関する概念を理解していない。		
評価項目3	元素という概念による分類、元素の確認方法や同素体の性質について理解し、説明できる。	元素という概念による分類、元素の確認方法や同素体の性質について理解している。	元素という概念による分類、元素の確認方法や同素体の性質について理解していない。		
評価項目4	状態変化と熱運動に関する概念を理解し、説明できる。	状態変化と熱運動に関する概念を理解している。	状態変化と熱運動に関する概念を理解していない。		
評価項目5	物質の構成粒子としての原子の構造および規則性について理解し、説明できる。	物質の構成粒子としての原子の構造および規則性について理解している。	物質の構成粒子としての原子の構造および規則性について理解していない。		
評価項目6	原子の電子配置や価電子等の概念を理解し、説明できる。	原子の電子配置や価電子等の概念を理解している。	原子の電子配置や価電子等の概念を理解していない。		
評価項目7	周期律と周期表の構成について理解し、説明できる。	周期律と周期表の構成について理解している。	周期律と周期表の構成について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	化学的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な探究心を育成する。中学理科で学習する基本的な知識が必要である。また、内容によっては専門教科における基礎知識も学習する。				
授業の進め方・方法	教科書を中心に図説を活用しながら、講義形式で授業を行う。後半では実験を行う。				
注意点	予習復習をすること。「ダイナミック図説化学」は必ず持参すること。また、配布した資料等は必ず目を通すこと。中間試験を実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	化学とは何か	身のまわりの化学について説明できる。	
		2週	物質の成分	混合物と純物質について説明できる。	
		3週	物質の成分	混合物の分離と精製について説明できる。	
		4週	物質の構成元素	元素および単体と化合物について説明できる。	
		5週	物質の構成元素	同素体と元素の確認について説明できる。	
		6週	物質の三態	粒子の熱運動について説明できる。	
		7週	物質の三態	物質の三態と状態変化について説明できる。	
		8週	原子の構造	原子と原子の構造について説明できる。	
	2ndQ	9週	原子の構造	原子番号と質量数について説明できる。	
		10週	原子の構造	同位体について説明できる。	
		11週	電子配置と周期表	電子殻と電子配置について説明できる。	
		12週	電子配置と周期表	貴ガスと価電子について説明できる。	
		13週	電子配置と周期表	元素の周期表と元素の分類について説明できる	
		14週	化学実験	元素の分離・確認法	
		15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。	
		16週			
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「新編 化学基礎」小川佳一郎他 著 東京書籍 「ダイナミックワイド 図説化学」竹内敬人他 著 東京書籍 「ニューサポート 新編 化学基礎」東京書籍編集部				
担当教員	三原 めぐみ				
到達目標					
1. イオンの生成、イオン結合の仕組みやイオン化エネルギー、イオン結晶等の概念を理解している。 2. 金属結合の仕組みや金属の性質・利用について理解している。 3. 分子の生成、共有結合の仕組みや電気陰性度、結合の極性等について理解している。 4. 化学結合の多様性、化学結合と結晶の性質について理解している。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	イオンの生成、イオン結合の形成の仕組みやイオン化エネルギー、イオン結晶等の概念を理解し、説明できる。	イオンの生成、イオン結合の仕組みやイオン化エネルギー、イオン結晶等の概念を理解している。	イオンの生成、イオン結合の仕組みやイオン化エネルギー、イオン結晶等の概念を理解していない。		
評価項目2	金属結合の仕組みや金属の性質・利用について理解し、説明できる。	金属結合の仕組みや金属の性質・利用について理解している。	金属結合の仕組みや金属の性質・利用について理解していない。		
評価項目3	分子の生成、共有結合の仕組みや電気陰性度、結合の極性等について理解し、説明できる。	分子の生成、共有結合の仕組みや電気陰性度、結合の極性等について理解している。	分子の生成、共有結合の仕組みや電気陰性度、結合の極性等について理解していない。		
評価項目4	化学結合の多様性、化学結合と結晶の性質について理解し、説明できる。	化学結合の多様性、化学結合と結晶の性質について理解している。	化学結合の多様性、化学結合と結晶の性質について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	化学的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な探究心を育成する。中学理科で学習する基本的な知識が必要である。また、内容によっては専門教科における基礎知識も学習する。				
授業の進め方・方法	教科書を中心に図説等を活用しながら、講義形式で授業を行う。				
注意点	予習復習をすること。「ダイナミック図説化学」は必ず持参すること。また、配布した資料等は必ず目を通すこと。中間試験を実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イオンとイオン結合	イオンとイオンの形成について説明できる。	
		2週	イオンとイオン結合	イオンの表し方とイオンの種類およびイオン化エネルギーについて説明できる。	
		3週	イオンとイオン結合	イオン結合とイオンからなる物質の組成式について説明できる。	
		4週	イオンとイオン結合	イオン結晶とその性質について説明できる。	
		5週	金属と金属結合	金属結合と金属の性質について説明できる。	
		6週	金属と金属結合	金属とその用途について説明できる。	
		7週	金属と金属結合	金属結晶の構造について説明できる。	
		8週	分子と共有結合	分子と分子の形成について説明できる。	
	4thQ	9週	分子と共有結合	電子式と構造式について説明できる。	
		10週	分子と共有結合	分子の形と電気陰性度および分子の極性について説明できる。	
		11週	分子と共有結合	配位結合および分子間力と水素結合について説明できる。	
		12週	分子と共有結合	分子結晶と共有結合の結晶について説明できる。	
		13週	分子と共有結合	分子からなる物質の用途と高分子化合物について説明できる。	
		14週	化学結合と物質の分類	化学結合と物質の分類について説明できる。	

		15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 I B		
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	①力学I (大日本図書)、②新課程 Let's Try Note 物理基礎 Vol.1 力学編 (東京書籍)、③改訂 Let's Try Note 物理 Vol.1 力学編 (東京書籍)						
担当教員	野澤 宏大, 池田 昭大						
到達目標							
1. 力の特性を理解し、運動方程式を用いた計算ができる。 2. 力積、運動量を理解し、運動量保存則の式を扱う事ができる。 3. 仕事とエネルギーの関係を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 4. 等速円運動の性質を理解し、等速円運動の物理量を計算できる。 5. 実験を行い、結果をまとめてレポートを書くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	力の特性を理解し、運動方程式を用いた計算ができる。	力の特性を理解し、運動方程式を用いた計算ができる。	力の特性が理解できず、運動方程式を用いた計算ができない。				
評価項目2	力積、運動量を理解し、運動量保存則の式を扱う事ができ、さらに反発係数の計算もできる。	力積、運動量を理解し、運動量保存則の式を扱う事ができる。	力積、運動量を理解し、運動量保存則の式を扱う事ができない。				
評価項目3	仕事とエネルギーの関係を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算から、落下運動やばねの運動を表す物理量を求められる。	仕事とエネルギーの関係を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。	仕事とエネルギーの関係を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができない。				
評価項目4	等速円運動の性質を理解し、等速円運動の物理量を計算できる。さらに、遠心力の意味を説明できる。	等速円運動の性質を理解し、等速円運動の物理量を計算できる。	等速円運動の性質を理解し、等速円運動の物理量を計算できない。				
評価項目5	実験結果をまとめ、適切な考察を加えてレポートを書くことができる。	実験結果をまとめて、レポートを書くことができる。	実験結果をまとめることができない。レポートを書くことができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	力学の基本事項を重点的に学習し、現象に対する物理的なものの見方と考え方を身につける。微積分を用いない高校レベルの物理で、物理IAの学習内容を踏まえ、力、力積、運動量、仕事とエネルギー、および周期運動について学ぶ。座学の他に物理実験も行い、レポートの書き方を学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義形式で進め、適宜演習を行う。						
注意点	力学現象の本質をまず定性的に理解し、次に定量的、数学的に取り組むことが肝要である。授業の進捗状況に応じて問題演習を行う。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	運動方程式	合力が働く場合、2物体の運動を説明できる。			
		2週	運動方程式	斜面上や摩擦が働く場合において、運動方程式を用いた計算ができる。			
		3週	慣性力	慣性力について説明できる。			
		4週	力積と運動量	力積と運動量の関係について説明できる。			
		5週	運動量保存則 物理実験 1	運動量保存則について説明できる。			
		6週	反発係数 物理実験 2	反発係数を説明できる。			
		7週	運動量保存則と反発係数	二物体の衝突についての計算ができる。			
	4thQ	8週	仕事と仕事率 物理実験 3	仕事を説明できる。			
		9週	仕事と仕事率 物理実験 4	仕事率を説明できる			
		10週	力学的エネルギー 物理実験 5	運動エネルギーを理解できる。運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。			
		11週	力学的エネルギー	位置エネルギーを理解できる。			
		12週	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則について説明できる。			
		13週	等速円運動	等速円運動を説明できる。			
		14週	等速円運動	等速円運動の向心力、加速度等の計算ができる。			
		15週	答案返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。			
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	20	55
専門的能力	25	0	0	0	0	5	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	コンピュータリテラシ
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	30時間アカデミックOffice2021 杉本くみ子他著 実教出版 適宜、実習課題及び説明プリントを配布する。				
担当教員	堂込 一秀				
到達目標					
コンピュータの基本的な構成を学び、Windowsの基本操作や文章作成・表計算・プレゼンテーションといった主要なソフトウェアの操作法を習得する。また、ネットワークへのアクセス、メールの利用を通じて、ネットワークにおけるエチケットを理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
パソコンを利用する上での基本的な情報セキュリティ対策・インターネットのマナーについて説明できる。	パソコンを利用する上での基本的な情報セキュリティ対策・インターネットのマナーを説明でき、実践で使うことができる。	パソコンを利用する上での基本的な情報セキュリティ対策・インターネットのマナーを実践で使うことができる。	パソコンを利用する上での基本的な情報セキュリティ対策・インターネットのマナーを実践で使うことができない。		
ノイマン型コンピュータの基本的な仕組みについて、計算機とプログラムの関係を説明できる。	ノイマン型コンピュータ以外の型と比較しての基本的な仕組みについて、計算機とプログラムの関係を説明できる。	ノイマン型コンピュータの基本的な仕組みについて、計算機とプログラムの関係を説明できる。	ノイマン型コンピュータの基本的な仕組みについて、計算機とプログラムの関係を説明できない。		
ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの主要な機能を使う。	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの機能を自ら調べ、使うことができる。	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの主要な機能を状況に応じて使える。	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの主要な機能を使えない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-b					
教育方法等					
概要	コンピュータの基本的な構成を学び、Windowsの基本操作や文章作成・表計算・プレゼンテーションといった主要なソフトウェアの操作法を習得する。また、ネットワークへのアクセス、メールの利用を通じて、ネットワークにおけるエチケットを理解する。				
授業の進め方・方法	情報端末が扱えることはこれからのエンジニアに必須であるため、学生諸君には、積極的に講義に参加し、各種情報端末になれ親しむことを要望する。				
注意点	本科目は情報処理、卒業研究といった情報端末の操作を要する科目の基本となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
				<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	情報リテラシー	パソコンを利用する上での基本的な情報セキュリティ対策について説明できる。コンピュータのネットワーク形態について概略を説明できる。	
		2週	コンピュータの仕組み	ノイマン型コンピュータの基本的な仕組みについて、計算機とプログラムの関係を説明できる。	
		3週	コンピュータの仕組み	ハードウェアとソフトウェアの関係を説明できる。	
		4週	コンピュータの仕組み	OSとアプリケーションソフトの関係を説明できる。	
		5週	パソコンの基本操作	ログイン・ログアウト、ファイル操作といったパソコンにおける基本操作ができる。	
		6週	パソコンの基本操作	電子メールを作成、送受信、読むまでの一連の操作を行うことができる。	
		7週	インターネットの利用	インターネットのマナーに則ったサービスの利用ができる。	
		8週	文字入力と文書作成	キーボードを用いた文字入力、日本語の変換ができる。	
	2ndQ	9週	文字入力と文書作成	ワープロソフトの主要な機能を説明できる。ワープロソフトを用いて基本的な文書を作成できる。	
		10週	表・グラフの作成	表計算ソフトの主要な機能を説明できる。	
		11週	表・グラフの作成	表データから目的に応じた種類のグラフを作成できる。	
		12週	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトの主要機能を説明できる。	
		13週	プレゼンテーション	文字、図形、アニメーション表示などを用いた発表資料を作成できる。	
		14週	プレゼンテーション	作成したスライドを操作し、適格に表示することができる。	
		15週	まとめ	試験において間違った部分を自分の課題として把握する。	
		16週			
評価割合					
	試験	小テスト・レポート	授業態度	合計	
総合評価割合	70	30	0	100	

專門的能力	70	30	0	100
-------	----	----	---	-----

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	創作活動
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	〔教科書〕 なし 〔参考書・補助教材〕		自作教材を適宜提供		
担当教員	逆瀬川 栄一, 前園 正宜				
到達目標					
各個人特有の才能を発掘し、創造性豊かな技術者を育成すべく、知的自己啓発、好奇心および柔軟な発想能力を高揚させるための実践的教育として創作活動に取り組む					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ブレーストーミングや着想法を理解し、それを利用してアイデアを検討できる	ブレーストーミングや着想法の考え方を理解することができる	ブレーストーミングや着想法の考え方が理解できない		
評価項目2	グループワークによりアイデア出しを行い、出たアイデアを検討・整理して適切な結論にまとめることができる	グループワークによりアイデア出しを行い、出たアイデアを検討・整理することができる	グループワークによりアイデア出すことはできるが出たアイデアを検討・整理することはできない		
評価項目3	文章やポスター、プレゼンテーションツールを利用して、自分の考えを与えられた時間と条件の中で適切に表現できる	文章やポスター、プレゼンテーションツールを利用して、自分の考えを表現できる	文章やポスター、プレゼンテーションツールを利用して、自分の考えを表現できない		
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-b 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-d 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 4-a 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 4-b					
教育方法等					
概要	これからの5年間で専門科目を学習する基礎となるように、授業は興味や学習意欲が向上するように身近な例を題材に取り上げて、できるだけ易しい講義内容にする。特に与えられたテーマに関して、(1)数人のグループでアイデアを出し合う、(2)出たアイデアを適切な方向性でまとめる、(3)まとめたアイデアを他者に分かるように伝える ことの三点を身につけられるように演習を行う。				
授業の進め方・方法	テーマごとに異なる少人数グループを構成し、グループでの話し合いを行うことが前提である。他者の意見を尊重し、色々な視点からテーマに沿ったアイデアを出して話し合いを進めていく。				
注意点	自分の意見をはっきりと主張し、一方で他者の意見も尊重することが求められる。グループで協調して数多くのアイデアが出るように話し合いを進めていくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	高専で学ぶ学生としての態度とマナー	技術者として仕事をする上で必要な基本的素養を確認し、今後5年間の学校生活で注意すべき点・意識すべき点が理解できる	
		2週	着想法演習	ブレーストーミング法などのアイデア出しの方法を理解し、グループに分かれて実際に利用し、検討結果を発表できる	
		3週	グループワーク1-1	与えられたテーマについてグループで検討を行い、アイデアを出せる	
		4週	グループワーク1-2	プレゼンテーションを行い、他者に自分達の意見を適切に伝えることができる。また自分達のプレゼンテーションを振り返り、改善点を見つけられる	
		5週	グループワーク2-1	与えられたテーマについてグループで検討を行い、アイデアを出せる	
		6週	グループワーク2-2	出たアイデアを適切な形にまとめ、プレゼンテーションするための準備を行える	
		7週	グループワーク2発表会	プレゼンテーションを行い、他者に自分達の意見を適切に伝えることができる。また自分達のプレゼンテーションを振り返り、改善点を見つけられる	
		8週	発表会の振り返り	実施した発表会について振り返り、よかった点や改善点についてまとめる	
	2ndQ	9週	グループワーク3-1	与えられたテーマについてグループで検討を行い、アイデアを出せる	
		10週	グループワーク3-2	出たアイデアを適切な形にまとめ、プレゼンテーションするための準備を行える	
		11週	グループワーク3-3	出たアイデアを適切な形にまとめ、プレゼンテーションするための準備を行える	
		12週	グループワーク3-4	出たアイデアを適切な形にまとめ、プレゼンテーションするための準備を行える	
		13週	グループワーク3-5	出たアイデアを適切な形にまとめ、プレゼンテーションするための準備を行える	
		14週	グループワーク3発表会	プレゼンテーションを行い、他者に自分達の意見を適切に伝えることができる。また自分達のプレゼンテーションを振り返り、改善点を見つけられる	

		15週	前期の反省・後期に向けて	前期の講義を振り返り、ジェネリックスキルの向上を中心に反省する。	
		16週			
評価割合					
	グループの提出物	発表	取り組み姿勢	個人提出物	合計
総合評価割合	60	5	20	15	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	60	5	20	15	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電気回路 I
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「テキストブック 電気回路」, 本田 徳正 著 (日本理工出版会) / 配布する演習問題 / スライド資料				
担当教員	田中 郁昭				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電荷・電流・電位・電位差・電源・接地の概念について説明できる。</li> <li>2. 簡単な回路の直・並列接続について等価回路を求め、回路の合成抵抗を算出できる。</li> <li>3. 一般的な直・並列回路において、キルヒホッフの法則を適用できる。</li> <li>4. 直・並列回路の分圧値・分流値を回路の抵抗比より計算できる。</li> <li>5. 一般的な直・並列回路において、重ね合わせの理を適用できる。</li> <li>6. 直・並列回路の電圧値と分流値を様々な解析手法を用いて計算できる。</li> </ol>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	なし	電荷、電流、電位、電位差、電源、接地の概念について説明できる	電荷、電流、電位、電位差、電源、接地の概念を説明できない。		
評価項目2	複雑な直並列回路を等価回路で表し、回路の合成抵抗を算出できる。	簡単な直並列回路を等価回路で表し、その回路の合成抵抗を算出できる。	簡単な直並列回路を等価回路で表し、その合成抵抗を算出できない。		
評価項目3	なし	直並列回路においてキルヒホッフの法則が成り立つことを理解できる。	直並列回路においてキルヒホッフの法則が成り立つことを理解できない。		
評価項目4	複雑な直並列回路の分圧値と分流値を抵抗比から計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値と分流値を抵抗比から計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値と分流値を抵抗比から計算できない。		
評価項目5	なし	一般的な直並列回路において、重ね合わせの理が成り立つことを理解できる。	一般的な直並列回路において、重ね合わせの理が成り立つことを理解できない。		
評価項目6	複雑な直並列回路の分圧値や分流値を重ねの理から計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値や分流値を重ねの理から計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値や分流値を重ねの理から計算できない。		
評価項目7	複雑な直並列回路の分圧値や分流値を様々な回路解析手法を用いて計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値や分流値を様々な回路解析手法を用いて計算できる。	簡単な直並列回路の分圧値や分流値を計算する手法を知らない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	電気回路に関する一般知識と計算方法について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は、電気電子工学の基礎である電荷、電流、電位、電位差、電源、接地について学習する。</li> <li>・中盤は、電気回路の基本定理 (キルヒホッフの法則・重ね合わせの理) について学習する。</li> <li>・後半は、さまざまな回路解析手法 (枝路電流法・網目電流法・節点電位法) について学習する。</li> </ul>				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義30分→演習20分→採点10分→解説・質問30分を目安に授業を進める。</li> <li>・高年次で履修する「電気・電子工学の専門科目」を支える知識や計算方法に重点をおく。</li> <li>・授業中において適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な説明力を身につけるため、結論に至るまでの考え方や計算プロセスをノートにまとめる習慣をつけること。</li> <li>・配布された演習問題は、すべて解くこと (不定期でノートを提出してもらうことがあります)。</li> <li>・わからない点は、授業中に解決すること (あなたが分からないことは、周りのみんなも疑問に感じています)。</li> <li>・本科目は中間試験を実施する。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電流と電圧 (電荷・電流)	電荷・電流の概念を説明できる。	
		2週	電流と電圧 (電位・電位差・電源・接地)	電位・電位差の概念を説明できる。理想的な電源と接地の概念について説明できる。	
		3週	回路の基本定理 (抵抗とコンダクタンス)	複数の直・並列接続抵抗を等価的に合成抵抗として表し、その抵抗値を計算できる。また、開放・短絡について説明できる。	
		4週	回路の基本定理 (キルヒホッフの法則)	一般的な直・並列回路において、キルヒホッフの法則を適用できる。	
		5週	回路の基本定理 (分圧)	回路中の各抵抗器で生じる電圧を抵抗比から計算できる。	
		6週	回路の基本定理 (分流)	回路中の各抵抗器に流れる電流を抵抗比から計算できる。	
		7週	回路の基本定理 (直並列回路の電圧・電流)	簡単な直・並列回路において、未知の電流値・電圧値を計算できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	回路の基本定理 (重ね合わせの理)	一般的な直・並列回路において、重ね合せの理を適用できる。	
		10週	回路の基本定理 (重ね合わせの理)	重ね合せの理を用いて回路方程式を立て、回路各部分の電流や電圧を計算できる。	

	11週	さまざまな回路解析手法（枝路電流法）	枝路電流法を用いて回路方程式を立て、回路各部分の電流や電圧を計算できる。
	12週	さまざまな回路解析手法（網目電流法）	網目電流法を用いて回路方程式を立て、回路各部分の電流や電圧を計算できる。
	13週	さまざまな回路解析手法（節点電位法）	節点電位法を用いて回路方程式を立て、回路各部分の電流や電圧を計算できる。
	14週	総合演習	様々な回路構成に対して回路解析手法を適切に選択し、電流や電圧を計算できる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験答案の返却・解説
	16週		

評価割合

	試験	小テスト/ホームワーク	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電気回路Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「テキストブック 電気回路」、本田徳正 著、日本理工出版会				
担当教員	佐藤 正知				
到達目標					
<p>1.接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理を利用して電流源のある回路網の計算ができる。</p> <p>2.テブナンの定理やノートンの定理、ブリッジ回路、Y-Δ変換公式を理解し、これらを用いた回路網の計算、合成抵抗の計算を用いて多電源回路を単純化することができる。</p> <p>3.電力、電力量、仕事、エネルギー、仕事率、熱量の関係を理解し、計算できる。</p> <p>4.平行平板コンデンサのキャパシタンスについて理解し、合成容量計算できる。</p> <p>5.電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力の大きさを計算でき、誘導起電力の向きをレンツの法則で説明できる。</p> <p>6.正弦派交流電圧の発生原理、振幅、周波数、位相について説明できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理を利用して、どの方法でも電流源のある回路網の計算ができる。		接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理のうち、指定された方法で電流源のある回路網の計算ができる。		接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理のいずれかを利用して、電流源のある回路網の計算ができない。
評価項目2	テブナンの定理やノートンの定理、ブリッジ回路、Y-Δ変換公式を説明し、これらを用いた回路網の計算、合成抵抗の計算を用いて多電源回路を単純化することができる。		テブナンの定理やノートンの定理、ブリッジ回路、Y-Δ変換公式を用いて多電源回路を単純化することができる。		テブナンの定理やノートンの定理、ブリッジ回路、Y-Δ変換公式を用いて多電源回路を単純化することができない。
評価項目3	電力、電力量、仕事、エネルギー、仕事率、熱量の関係を説明でき、計算できる。		電力、電力量、仕事、エネルギー、仕事率、熱量を計算できる。		電力、電力量、仕事、エネルギー、仕事率、熱量を計算できない。
評価項目4	平行平板コンデンサのキャパシタンスについて説明でき、任意の回路内での合成容量計算できる。		平行平板コンデンサのキャパシタンスについて説明でき、合成容量計算できる。		平行平板コンデンサのキャパシタンスの合成容量計算できない。
評価項目5	電磁誘導の法則を説明できる。また、誘導起電力の大きさを計算でき、誘導起電力の向きをレンツの法則で説明できる。		誘導起電力の大きさを計算でき、誘導起電力の向きをレンツの法則から求められる。		誘導起電力の大きさを計算できない。誘導起電力の向きをレンツの法則から求めることができない。
評価項目6	正弦派交流電圧の発生原理、振幅、周波数、位相について説明でき、問題から振幅、周波数、位相の具体的な値を求められる。		正弦派交流電圧の発生原理、振幅、周波数、位相について説明できる。		正弦派交流電圧の発生原理、振幅、周波数、位相について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
本科(準学士課程)の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	電気・電子の基礎となる直流電気回路の回路解法と電気磁気素子の基本を理解する。				
授業の進め方・方法	高年次で履修する専門科目の修得に必要な電気・電子工学的な思考とその素養を培う。理論的な思考力・表現力を養うために、計算や回路変換の過程を明確にノートに記述する習慣をつけること。授業内で適宜小テストを行う。				
注意点	本科目は講義・演習の科目であることから、講義の中で電気基礎の内容を深めるための演習を適宜行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	多電源回路網計算の復習	接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理を利用して、多電源回路網の計算ができる。	
		2週	電流源のある回路網計算	接点電位法、網目電流法、重ね合わせの理を利用して電流源のある回路網の計算ができる。	
		3週	テブナンの定理とその応用	テブナンの定理を理解し、この手法を用いて多電源回路網の計算ができる。	
		4週	テブナンの定理とその応用	テブナンの定理を理解し、この手法を用いて多電源回路網の計算ができる。	
		5週	テブナンの定理とその応用	ノートンの定理を理解し、この手法を用いて多電源回路網の計算ができる。	
		6週	その他の回路	ブリッジ回路、Y-Δ変換公式を理解し、これらを用いた回路網の計算、合成抵抗の計算ができる。	
		7週	ジュール熱と電力	電力の定義を式等で示し説明できる。 電力、電力量、仕事、エネルギー、仕事率の関係を理解し、計算できる。 電力量と熱量の変換の計算ができる。	
	8週	中間試験			
4thQ	9週	キャパシタ	キャパシタンスとは何かを説明できる。 平行平板コンデンサのキャパシタンスを計算できる。		

	10週	キャパシタ	コンデンサを直列、並列接続した場合の合成容量を計算できる。
	11週	インダクタ	インダクタンスとは何かを説明できる。コイルに生じる磁束を右手の法則で説明できる。
	12週	インダクタ	電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力の大きさを計算できる。誘導起電力の向きをレンツの法則で説明できる。
	13週	正弦波交流の基礎	正弦派交流電圧の発生原理について説明できる。
	14週	正弦波交流の基礎	正弦派交流の振幅、周波数、位相について説明できる。
	15週	試験答案の返却・解説	これまでの授業内容の達成度を試験において確認し、試験において間違った部分を自分の課題として把握する。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報処理 I
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「新・明解C言語 入門編」 柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ				
担当教員	堂込 一秀				
到達目標					
様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語, C言語を修得する。文法の理解を目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
プログラミングの概要を理解できる。	作成するプログラムの動作と、普段使用しているコンピュータの動作について関連性を理解できる。		プログラムの作成から実行までの手順を把握し、C言語の基本的な規則に従って命令を書くことができる。		プログラムの作成から実行までの手順を把握できない。C言語の基本的な規則に従って命令を書くことができない。
簡単な出力命令を用いたプログラムを作ることができる。			printf関数の基本的な書式を身につけ、文字列や数値を画面に出力するプログラムを作成することができる。		printf関数の基本的な書式を修得していない。文字列や数値を画面に出力するプログラムを作成できない。
プログラミングにおけるデータ型の種類を把握し、2進数との関係を理解できる	C言語におけるデータ型の種類を把握した上で、整数や小数データと2進数の関係を理解できる。		C言語におけるデータ型の種類を把握できる。2進数と10進数、16進数の変換ができる。		C言語におけるデータ型の種類を把握できない。2進数と10進数、16進数の変換ができない。
変数を用いたプログラムを作ることができる。	変数の概念を理解し、変数の宣言、変数の型の違いを含む代入や演算、表示などを用いたプログラムを作ることができる。		変数の概念を理解し、変数の宣言、代入、演算、表示などを用いたプログラムを作ることができる。		変数の概念を理解できない。変数の宣言、代入、演算などを用いたプログラムを作ることができない。
プログラム実行時に入力される値を用いて演算を行うプログラムを作ることができる。	ユーザーの入力した複数の値を利用するような複雑な演算を含むプログラムを作成することができる。		scanf関数の基本的な書式を身につけ、ユーザーの入力した値を利用するプログラムを作成することができる。		scanf関数の基本的な書式が修得できない。ユーザーの入力した値を利用するプログラムを作成することができない。
条件分岐を用いたプログラムを作ることができる。	問題文から分岐構造を読み取ることができ、複雑な条件や分岐後の処理に対して適切なプログラムを作ることができる。		プログラムの分岐構造を理解し、if~else、if~else ifの書式を身につけ、分岐条件を満たす条件式を設定できる。		プログラムの分岐構造を理解していない。ifの分岐処理の書式を修得していない。問題に応じた条件式を設定できない。
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	本科目では、様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語, C言語を修得する。文法の理解を目標とする。				
授業の進め方・方法	プログラミングは、どれだけ多くのプログラムを作成したかによって、上達のスピードが変化する。そのため、本科目は例題、演習を主体とする。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。				
注意点	情報端末の基本的取り扱いができることを前提とする。本科目は2年次の「情報処理Ⅱ」、3年次の「情報処理Ⅳ」の基礎となる。疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	プログラミングの概要	<input type="checkbox"/> プログラミングの概要やプログラムとは何かを説明できる。 <input type="checkbox"/> エディタを用いてソースファイルを作成し、コンパイルして実行することができる。	
		2週	簡単な出力	<input type="checkbox"/> 最小構成のプログラムの書式や命令の実行順、基本書式を説明できる。	
		3週	簡単な出力	<input type="checkbox"/> printfの書式を理解し、画面へ文字列を表示できる。	
		4週	2進数とデータ	<input type="checkbox"/> コンピューターにおける情報データと2進数の関係を説明できる。	
		5週	2進数とデータ	<input type="checkbox"/> 10進数、2進数、16進数の関係を理解して相互に変換できる。	
		6週	2進数とデータ	<input type="checkbox"/> 負や小数のデータの2進数での表現法が説明できる。	
		7週	変数	<input type="checkbox"/> 変数の宣言や代入など初歩的な利用ができる。	
		8週	演算	<input type="checkbox"/> C言語の基本的な演算記号・優先順位・型変換を理解し、正しく数式を記述できる。	
	4thQ	9週	入力	<input type="checkbox"/> scanfの書式を正しく使い、キーボードからの入力を行うプログラムを作成できる。	
		10週	入力	<input type="checkbox"/> scanfの書式を正しく使い、キーボードからの入力を行うプログラムを作成できる。	
		11週	入力	<input type="checkbox"/> scanfの書式を正しく使い、キーボードからの入力を行うプログラムを作成できる。	

		12週	分岐構造	<input type="checkbox"/> if文を用いて、条件が成り立てば実行するという条件分岐の考え方を説明できる。 <input type="checkbox"/> 関係演算子、等値演算子、論理演算子を正しく扱うことができる。 <input type="checkbox"/> 条件式における真と偽の概念を説明できる。
		13週	分岐構造	<input type="checkbox"/> if ~ else ~ の形式を用いて、条件が成り立つか否かで、実行される内容が異なるプログラムを作成できる。
		14週	分岐構造	<input type="checkbox"/> if ~ else if ~ の形式を用いて、3つ以上に分岐するプログラムを作成できる。
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
		16週		

### 評価割合

	試験	小テスト・レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電気製図
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜、実習課題及び説明プリントを配布。製図用具				
担当教員	梶 健一				
到達目標					
製図の基礎知識を理解し、作図技術の基礎（手書きとコンピュータを用いた手法）を習得する。また、これを応用して、電気機器・電子回路などについても正確に作図する技術および図面から情報を正しく読み取る能力を身に着ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
製図において定められているルールを知っている。	製図におけるルール（円径の示し方や線の交わり方など）の間違いを指摘でき、適切に修正することができる。	製図におけるルール（円径の示し方や線の交わり方など）に従っていない表記を指摘することができる。	間違った製図におけるルール（円径の示し方や線の交わり方など）に気づくことができない。		
手書きで見本を基に図面を描くことができる。	任意の実体を適切なレイアウト（正面図の選択など）で図面に手書きで正確に描くことができる。	見本を基に必要な情報を正確に図面に手書きで描くことができる。図面に示された内容と実体を関連づけることができる。	見本を基に必要な情報を正確に手書きで図面に描くことができない。		
製図ソフトを使って見本を基に図面を描くことができる。	製図ソフトの機能を適切に使用して任意の実体を適切なレイアウト（正面図の選択など）で図面に描くことができる。	製図ソフトを使って見本を基に必要な情報を正確に図面に描くことができる。	製図ソフトを使って図面に描くことができない。		
電気機器・電子回路を作図することができる。	電気・電子回路の要素・機能を図示するための電気用記号を正しく利用して電気・電子回路を作図できる。	電気・電子回路の要素・機能を図示するための電気用記号を調べながら正しく利用して電気・電子回路を作図できる。	電気・電子回路の要素・機能を図示するための電気用記号を正しく選ぶことができない。電気・電子回路を作図できない。		
図面から情報を正しく読み取ることができる。	図面を見て、正確に実体を三次元的に説明することができる。図面における情報の過不足を指摘し、修正することができる。	図面を見て、実体の特徴を説明することができる。図面における情報の過不足に気づくことができる。	図面を見ても、実体の特徴がわからない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科（準学士課程）の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	電気機器の設計、電気・電子回路の設計について履修するための基礎技術（手書きとJw-CAD）を養う。				
授業の進め方・方法	製図実習において、単に例題を模写するのではなく、内容を理解しながら描く。				
注意点	実習課題の提出期限を厳守すること。〔授業（90分）〕×15回				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電気製図に入る前に	図面の持つ意味、約束、製図の役割について理解できる。 記号が日本工業規格(JIS)により規格化されていることが説明でき、各種製図用具を使える。	
		2週	文字の書き方	個性的でなく、規格に基づいた文字をかける。	
		3週	線の書き方	線を太さ3種類、線種4種類などで重なり方などを正しくかける。 曲線上の点を求め、それぞれの点を自在定規等で滑らかに結んで描ける。	
		4週	平面図と投影図	物体の主投影図（正面図）を選ぶことができる。	
		5週	平面図と投影図	第三角法が正面図・左右側面図・平面図・下面図・背面図から構成されることを説明できる。	
		6週	平面図と投影図	立方体や円で構成される簡単な物体の第三角図を描ける。	
		7週	平面図と投影図	物体の立体図から平面図を描ける。	
		8週	寸法記入	尺度を説明できる。 寸法の単位や寸法線、寸数値を説明できる。	
	2ndQ	9週	CADによる図面作製	汎用CADにおいて、用紙サイズの設定・直線・曲線・基本図形・文字の描画・移動・消去など基本操作を利用できる。	
		10週	CADによる図面作製	汎用CADで、簡単な部品の製作図を描ける。	
		11週	電気・電子回路の作図	電気・電子回路の要素・機能を図示するための電気用記号を正しく利用できる。	
		12週	電気・電子回路の作図	JIS規格により定められた回路素子の図記号をもちいて、簡単な電気・電子回路を作図できる。	
		13週	電気・電子回路の作図	JIS規格により定められた回路素子の図記号をもちいて、簡単な電気・電子回路を作図できる。	
		14週	電気・電子回路の作図	JIS規格により定められた回路素子の図記号をもちいて、簡単な電気・電子回路を作図できる。	

		15週	電気・電子回路の作図	JIS規格により定められた回路素子の図記号をもちいて、簡単な電気・電子回路を作図できる。	
		16週			
評価割合					
		提出図面	レポート	授業態度	合計
総合評価割合		100	0	0	100
基礎的能力		0	0	0	0
専門的能力		100	0	0	100

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電気数学 I
科目基礎情報					
科目番号	0024	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義・演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	講義プリント/電気・電子の基礎数学 (東京電機大学出版局)				
担当教員	逆瀬川 栄一				
到達目標					
1. 関数のしくみを理解する。関数とその逆関数の関係を理解する。 2. 分数関数の定義と基本的な性質を理解し、簡単な真分数式の部分分数分解ができる。 3. 三角関数と逆三角関数の定義と基本的な性質を理解し、曲線を描くことができる。逆三角関数の多価性を理解し、値を求めることができる。 4. 指数関数の定義、基本的な性質、自然対数の底について理解する。 5. 複素数と複素数平面の基本的な性質を理解し、複素数の四則演算を代数的・幾何的な考え方で求めることができる。オイラーの公式を用いて極形式と指数関数表示を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	標準的な到達レベルに加えて、定義域と値域・終域について理解する。	関数のしくみを理解する。関数とその逆関数の関係を理解する。	関数のしくみを理解できない。関数とその逆関数の関係を理解できない。		
評価項目2	標準的な到達レベルに加えて、さまざまな分数式の部分分数分解ができる。	分数関数の定義と分数関数の基本的な性質を理解する。簡単な真分数式について、未定係数法を用いた部分分数分解ができる。	分数関数の定義と分数関数の基本的な性質を理解できない。簡単な真分数式について、未定係数法を用いた部分分数分解ができない。		
評価項目3	標準的な到達レベルに加えて、三角関数を含む簡単な方程式・不等式を解くことができる。	三角関数の定義、三角関数の基本的な性質を理解する。三角関数のグラフを描くことができる。逆三角関数の多価性について理解する。	三角関数の定義、三角関数の基本的な性質を理解できない。三角関数のグラフを描くことができない。逆三角関数の多価性について理解できない。		
評価項目4	標準的な到達レベルに加えて、指数関数または対数関数を含む簡単な方程式・不等式を解くことができる。	指数関数の定義、基本的な性質、自然対数の底について理解する。	指数関数・対数関数の定義、基本的な性質、自然対数の底について理解できない。指数関数と対数関数のグラフを描くことができない。		
評価項目5	標準的な到達レベルに加えて、オイラーの公式を自由に使うことができる。	複素数と複素数平面の基本的な性質を理解し、複素数の四則演算を代数的・幾何的な考え方で求めることができる。オイラーの公式を用いて極形式と指数関数表示を求めることができる。	複素数と複素数平面の基本的な性質を理解できない。複素数の四則演算を代数的・幾何的な考え方で求めることができない。オイラーの公式を用いて極形式と指数関数表示を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-a					
教育方法等					
概要	工科の数学への導入として、初等関数、複素数と複素数平面について学習します。 具体的には、1-7週にかけて、分数関数・三角関数・逆三角関数・指数関数の定義と基本的な性質について学習します。 8-14週にかけて、複素数、および複素数平面について学習します。				
授業の進め方・方法	授業は、講義・演習の両方の形式を採りながら進めます。 自宅での演習が必須です。演習範囲は授業中に説明します。 不定期に小テストを実施します。 本科目では、中間試験を実施します。				
注意点	(1) 科目名が「電気数学」とついているのは、みなさんが電気の専門課程において数学を十分に活用できるようになることを意図しています。 (2) 解らない点はなるべく授業中に質問してください。あなたが難しいと感じた点は、他の人も同じように難しいと感じている可能性が高いです。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、関数・逆関数	関数のしくみを理解する。関数とその逆関数の関係を理解する。	
		2週	分数関数	分数関数の定義と分数関数の基本的な性質を理解する。真分数式とその部分分数分解について理解する。	
		3週	三角関数と逆三角関数	角の大きさを弧度法で表すことができる。三角関数の定義、三角関数の基本的な性質を理解する。	
		4週	三角関数と逆三角関数	三角関数のグラフを描くことができる。	
		5週	三角関数と逆三角関数	逆三角関数の多価性について理解する。	
		6週	指数関数	自然対数の底について理解する。	
		7週	指数関数	指数関数の定義の基本的な性質について理解する。	
		8週	複素数と複素数平面	複素数の定義 (代数的演算) について理解する。	
	4thQ	9週	複素数と複素数平面	共役複素数について理解する。	
		10週	複素数と複素数平面	複素数平面の考え方を理解する。	

	11週	複素数と複素数平面	複素数の絶対値と偏角について理解する。
	12週	複素数と複素数平面	オイラーの公式について理解し、極形式と指数関数表示を求める。
	13週	複素数と複素数平面	複素数平面上における複素数の幾何的演算について理解する。ド・モアブルの定理について理解する。
	14週	複素数と複素数平面	複素数の代数演算（四則演算、べき、べき根）をいろいろな場合について求める。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
	16週		

#### 評価割合

	試験	小テスト	演習	合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	60	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	倫理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	2021		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	【教科書】 『倫理』 (竹内整一 ほか17名、東京書籍) 【参考書・補助教材】 必要な資料や文献は適宜プリントして配布する。						
担当教員	町 泰樹						
到達目標							
【本科目の目標】 前半では、キリスト教・イスラーム・仏教といった世界宗教に関する基本事項を理解する。また、儒家や道家を中心とした古代中国の思想に関する基本事項を理解する。それによって、自己を客観的にとらえ、自己の生き方を模索するための自覚的態度を養う。後半では、ヨーロッパにおける近代化・民主主義化に寄与した思想に関する基本事項を理解する。これによって、自らもその一員として参画する社会について、どのようなあり方が望ましいのかを考える。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
1. ユダヤ・キリスト教、イスラム教、などを理解できる。	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの宗教に関連した諸概念について、自分の言葉で説明できる。	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの宗教に関連した諸概念に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの宗教に関連した諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
2. 儒家や道家を中心とした中国思想を理解できる。	中国思想に関する諸概念について、自分の言葉で説明できる。	中国思想に関する諸概念に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	中国思想に関する諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
3. 近代から現代までの各種科学観について理解できる。	近代から現代までの科学観について、自分の言葉で説明できる。	近代から現代までの科学観に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	近代から現代までの科学観に関する諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
4. 民主主義の成立に関わる社会思想を理解できる。	民主主義の成立に関わる社会思想に関する諸概念について、自分の言葉で説明できる。	民主主義の成立に関わる社会思想に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	民主主義の成立に関わる社会思想に関する諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【本科目の位置付け】 1年次の「世界史」を基礎としつつ、スタンダードな倫理思想史を学び、下記の授業項目にそって個々の問題を考察・検討していく。3年次の「政治・経済」、4年次の「倫理学」「哲学」に関連する基礎知識として位置づける。						
授業の進め方・方法	本科目は、講義形式で授業を進行する。適宜、レポート課題を課す。授業で学んだ事項に関する現実社会への適用等、主体的な学びの姿勢を發揮してほしい。						
注意点	【学習上の留意点】 単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、60分以上の自学自習を行うこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	旧約聖書の世界	旧約聖書の内容を知り、ユダヤ教について理解する。			
		2週	キリスト教	キリスト教について理解する。			
		3週	キリスト教の展開	キリスト教が展開していく過程を理解する。			
		4週	イスラーム	イスラームについて理解する。			
		5週	仏教以前のインド思想	仏教以前のインド思想として、ウパニシャッド哲学における死生観やジャイナ教の教えについて理解する。			
		6週	仏陀の教え	原始仏教について理解する。			
		7週	孔子の教え	孔子の思想について理解する。			
		8週	孟子の教え	孟子の思想について理解する。			
	4thQ	9週	礼治主義と法家思想	礼治主義と法家思想について理解する。			
		10週	老荘思想	老荘思想について理解できる。			
		11週	ルネサンスと宗教改革および近代哲学の黎明	ルネサンスと宗教改革およびベーコンの経験論とデカルトの合理論について学習し、それらによって世俗化が進んだことを理解する。あわせて、近代から現代にいたる様々な科学観について理解する。			
		12週	社会契約説 (1) ホブズ・ロック	ホブズ・ロック・ルソーの社会契約説について理解する。			
		13週	社会契約説 (2) ルソー				
		14週	問題演習の時間	前期の学習内容について、演習問題をもとに復習する。(非評価項目)			
		15週	後期期末試験の答案返却・解説	これまでの達成度を確認する。試験において間違えた部分を理解できる。(非評価項目)			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国語表現	
科目基礎情報						
科目番号	2022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	精選 論理国語 (明治書院) / 新国語便覧 (第一学習社) / 常用漢字ダブルクリア四訂版 (尚文出版) / 各種辞書					
担当教員	田中 智樹					
到達目標						
論理的な文章を読解する能力を培うとともに、ものの見方、考え方を深め、批判的・多角的に文章を理解し、また自分の考えを進んで表現する態度を育てる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	文章に使用される語句の意味と働きを正しく理解した上で、それらを説明することができ、自らに活用することができる。	文章に使用される語句の意味を理解し、文脈において、それらの効果、働きを理解することができる。	文章に使用される語句の知識が不十分であり、作品の読解が深まらず、内容を説明することができない。			
評価項目2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	文章の読解を通して、筆者の視点や主張を理解し、自らの視点から批評することができる。	文章の読解を通して、筆者の視点や主張を理解し、文章を多角的にとらえることができる	文章の読解を通して、筆者の視点や主張を理解することができず、多様な考え方に対する把握が不十分である。			
評価項目3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に積極的に関わることができる。	言葉がもつ価値を理解し、我が国の言葉を通して他者や社会に関わることができる。	言葉がもつ価値をよく理解できておらず、我が国の言葉を通して他者や社会に関わることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1年次の「現代の国語」で身に付けた、現代文や言語の既修事項を踏まえて、深い教養を身につけ、よりよい社会生活を送るために、文章を読んで考える力と、それを国語で表現する力を伸ばす科目である。3年次の「論理国語」「文学国語」、4年次の「日本語表現」へと発展する。					
授業の進め方・方法	論理的に自分の主張を展開する方法を学び、それぞれの文章の特徴を的確に捉え、作品理解をさらに深めていく。また文章作法の習得にも力を入れ、読解力だけでなく、語彙力、表現力の習得を目指す。また、必要に応じて国語便覧や『常用漢字ダブルクリア』などのテキストを用い、特に後者については定期的に小テストを行うことで知識の定着を試みる。					
注意点	教材の中の様々な問題について自分の意見をもち、的確に表現できるようにする。常用漢字、重要語句を確実に修得する。また、授業に積極的に関わり、教師からの質問にも進んで答えるよう心がける。また、定期試験だけでなく日頃の学習活動を評価するため、小テストや提出物の評価が大きくなることに留意する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	なぜ科学を学ぶのか	論理的な文章を読み、その表現の特徴から、内容を評価すし、文章のテーマを理解することができる。			
	2週	なぜ科学を学ぶのか	推論の仕方について理解を深め使うことができる。			
	3週	なぜ科学を学ぶのか	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。			
	4週	なぜ科学を学ぶのか	論理的な文章を評価する活動を通して、進んで推論について理解を深め、自分の考えを踏まえ文章を評価することができる。			
	5週	論理の窓「批判的に読む」 読むこと3「多角的に評価しよう」	「なぜ科学を学ぶのか」の文章をとおして、批判的な文章の読み方を学び、論理的に自分の考えを表現できる。			
	6週	消えゆく言語・方言を守るには	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。			
	7週	消えゆく言語・方言を守るには	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。			
	8週	消えゆく言語・方言を守るには	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。			
	2ndQ	9週	書くこと2「多角的に吟味し論をかためよう」	現代日本語の特徴について、地域性・多様性という観点から、多角的にまとめることができる。		
		10週	「間」の感覚	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。		
		11週	「間」の感覚	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。		

		12週	「間」の感覚	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。
		13週	「間」の感覚	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
		14週	書くこと2「さまざまな立場を想定して論を展開させよう」	日本文化と世界の文化の比較をとおして、日本人のものの考え方や日本文化の特徴を説明することができる。
		15週	試験答案の返却・解説	
		16週		

評価割合

	試験	提出物レポート	小テスト	読書ノート	合計
総合評価割合	40	10	35	15	100
基礎的能力	40	10	35	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	倫理 I		
科目基礎情報							
科目番号	2024		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	【教科書】 『倫理』 (竹内整一 ほか17名、東京書籍) 【参考書・補助教材】 必要な資料や文献は適宜プリントして配布する。						
担当教員	町 泰樹						
到達目標							
〔本科目の目標〕 青年期の特質と課題を理解すると同時に、ギリシア哲学の基本事項を理解する。それによって、自己を客観的にとらえ、自己の生き方を模索するための自覚的態度を養うことが本科目の目標である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
1. 人間の特質を理解できる。	人間の特質を示す諸概念について、自分の言葉で説明できる。	人間の特質を示す諸概念に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	人間の特質を示す諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
2. 心理的離乳やモラトリアムといった青年期特有の問題について理解できる。	青年期特有の問題を示す諸概念について、自分の言葉で説明できる。	青年期特有の問題を示す諸概念に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	青年期特有の問題を示す諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
3. アイデンティティや自己実現の重要性を理解できる。	アイデンティティや自己実現に関する諸概念について、自分の言葉で説明できる。	アイデンティティや自己実現に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	アイデンティティや自己実現に関する諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
4. 自然哲学やソフィストの特質を理解できる。	自然哲学やソフィストに関する諸概念について、自分の言葉で説明できる。	自然哲学やソフィストに関する諸概念に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	自然哲学やソフィストに関する諸概念について、一問一答式で答えることができない。				
5. ギリシア・ヘレニズム・ローマの特質を理解できる。	ギリシア・ヘレニズム・ローマの特質について、自分の言葉で説明できる。	ギリシア・ヘレニズム・ローマの特質に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。	ギリシア・ヘレニズム・ローマの特質に関して、一問一答式で答えることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	〔本科目の位置付け〕 1年次の「世界史」を基礎としつつ、スタンダードな倫理思想史を学び、下記の授業項目にそって個々の問題を考察・検討していく。3年次の「政治・経済」、4年次の「倫理学」「哲学」に関連する基礎知識として位置づける。						
授業の進め方・方法	本科目は、講義形式で授業を進行する。適宜、レポート課題を課す。授業で学んだ事項に関する現実社会への適用等、主体的な学びの姿勢を発揮してほしい。						
注意点	〔学習上の留意点〕 単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、60分以上の自学自習を行うこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	人間とは何か	人間の特質を理解できる。			
		2週	青年期の課題と自己形成 (1)	心理的離乳やモラトリアムといった青年期特有の問題について理解できる。			
		3週	青年期の課題と自己形成 (2)				
		4週	青年期の課題と自己形成 (3)	アイデンティティや自己実現の重要性を理解できる。			
		5週	青年期の課題と自己形成 (4)				
		6週	ギリシャ神話の世界	古代世界における神話の役割について理解する。			
		7週	自然哲学 (1)	ポリスや自然哲学の特質を理解する。			
	8週	自然哲学 (2)					
	2ndQ	9週	ソフィストとソクラテス	ソクラテスの活動を通して、ソクラテスの基本的な考えやソフィストの特質を理解する。			
		10週	プラトン	プラトン哲学の概要について理解する。			
		11週	アリストテレス	アリストテレス哲学の概要について理解する。			
		12週	ヘレニズムの思想 (1)	エピクロスやストアのゼノンの学習を通して、ヘレニズムの思想について理解する。			
		13週	ヘレニズムの思想 (2)				
		14週	問題演習の時間	前期の学習内容について、演習問題をもとに復習する。(非評価項目)			
		15週	前期期末試験の答案返却・解説	これまでの達成度を確認する。試験において間違えた部分を理解できる。(非評価項目)			
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100

基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	リベラルアーツ I
科目基礎情報				
科目番号	2025	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	なし			
担当教員	逆瀬川 栄一,熊 華磊,松田 信彦,内田 一平,篠原 学			
到達目標				
1. 卒業インタビューを行い、自分が行ってみたい研究、学びたい内容を説明できる。 2. アート鑑賞において自分なりにモノを見ることができ、他者の意見を認めることができる。 3. 加速度センサを用いたモノづくりを行うことができる。 4. 地域の課題について理解し解決方法を提案することができる。 5. プレゼンスキルを習得し、日本語で自分の伝えたい事柄を効果的に伝えることができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	教員にマナーをもってインタビューすることができる。自分が行ってみたい研究、学びたい内容、将来行ってみたい仕事を説明できる。	卒業インタビューを行い、自分が行ってみたい研究、学びたい内容を説明できる。	卒業インタビューを行い、自分が行ってみたい研究、学びたい内容を説明できない。	
評価項目2	アート鑑賞において自分なりのモノを見て発言ができ、相手の意見を認めることができる。	アート鑑賞において自分なりにモノを見ることができ、他者の意見を認めることができる。	アート鑑賞において自分なりにモノを見ることができ、他者の意見を認めることができない。	
評価項目3	加速度センサを応用したモノづくりができる。	加速度センサを用いたモノづくりを行うことができる。	加速度センサを用いたモノづくりを行うことができない。	
評価項目4	地域の課題について理解し、具体的な解決方法を動画で提案することができる。	地域の課題について理解し解決方法をPPTで提案することができる。	地域の課題について理解し解決方法を提案することができない。	
評価項目5	プレゼンスキルを習得し、日本語で自分の伝えたい事柄を効果的に伝えることができる。	プレゼンスキルを習得し、日本語で自分の伝えたい事柄を伝えることができる。	プレゼンスキルを習得し、日本語で自分の伝えたい事柄を伝えることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	この授業は『答えがない課題』を扱う。言葉の定義として、すでにある技術の知識を学んだり、既存の製品の設計方法や、誰かが解いたことのある課題を解くことを『答えがある課題』、自分が学んだ知識、計算法やスキルを応用し、新たな問題の解決に取り組むことを『答えがない課題』と呼ぶ。鹿児島高専が育てるエンジニアは、『未来の技術をつくる人』である。未来は現在をベースに成り立つため、現在のモノづくり技術である、答えがある技術は必須である。一方、未来をつくるためには、答えがある技術だけでなく、今の社会にないもので、社会の役に立つものを自らの視点で探し、形にする必要がある。そのため、この授業では答えがない課題に取り組み、解決方法を提案し、それを発表する能力を養うため、5つのテーマについて取り組む。			
授業の進め方・方法	この授業はオムニバス形式で実施し、毎週異なるテーマについて、4人程度のグループで取り組む。授業は独創性、多様性を養うため、混合クラス形式とする。1つ目の研究インタビューでは、教員に研究についてインタビューすることで、自分が行ってみたい研究、自分が学びたい分野、将来行ってみたい仕事を考える。2つ目のアート鑑賞では絵画と音楽を鑑賞することで、自分なりのモノの見方・独創性と多様性を養う。特に音楽では自分が今興味がある楽曲についてディスカッションを行うことで自分の幸せや友情、生き方について考える。3つ目のモノづくりでは、加速度センサを使った実際のモノづくりを体験し、高学年でのPBLの基礎とする。4つ目の霧島チャレンジコンテストでは、霧島市の課題について理解し、その解決方法を提案することで、地域に貢献する能力を養成する。5つ目のプレゼンスキルでは、英語で自分の提案を効果的に伝えるスキルを身につける。第1回目はオリエンテーションで、第2回～第11回は各テーマの活動、第13、14回目に発表である。			
注意点	この授業は答えがない課題を扱い、正解はないため、グループディスカッションでは自分の意見を自由に発言してよい。また、自分の意見と同様に相手の意見も尊重し、共同で課題解決のアイデアを生み出すように努めること。各テーマは2週で1セットとなっている。下記の授業計画では、1/2週目が活動、2/2週目はまとめとなっているが、1/2回も2/2回も活動を行う場合がある。毎回の授業で振り返りとワークシートの記入と提出を行うこと。ワークシートは出席と評価に含まれるため必ず提出すること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業概要の説明、グループ分け、研究インタビューの希望調査、アート鑑賞で扱う楽曲を決定。自己評価1
		2週	テーマ①の活動1/2	以下の5つのテーマについてクラスごとに取り組む。 ①研究インタビュー②アート鑑賞③ロケット製作④霧チャレ⑤プレゼンスキル
		3週	テーマ①の活動2/2	先週の活動をまとめ、プレゼンの準備を行う。
		4週	テーマ②の活動1/2	以下の5つのテーマについてクラスごとに取り組む。 ①研究インタビュー②アート鑑賞③ロケット製作④霧チャレ⑤プレゼンスキル
		5週	テーマ②の活動2/2	先週の活動をまとめ、プレゼンの準備を行う。
		6週	テーマ③の活動1/2	以下の5つのテーマについてクラスごとに取り組む。 ①研究インタビュー②アート鑑賞③ロケット製作④霧チャレ⑤プレゼンスキル
		7週	テーマ③の活動2/2	先週の活動をまとめ、プレゼンの準備を行う。

2ndQ	8週	テーマ④の活動1/2	以下の5つのテーマについてクラスごとに取り組む。 ①研究インタビュー②アート鑑賞③ロケット製作④霧チャレ⑤プレゼンスキル, 自己評価2
	9週	テーマ④の活動2/2	先週の活動をまとめ, プレゼンの準備を行う。
	10週	テーマ⑤の活動1/2	以下の5つのテーマについてクラスごとに取り組む。 ①研究インタビュー②アート鑑賞③ロケット製作④霧チャレ⑤プレゼンスキル
	11週	テーマ⑤の活動2/2	先週の活動をまとめ, プレゼンの準備を行う。
	12週	プレゼン準備	プレゼン準備, 発表テーマの決定
	13週	発表会	4テーマのうちの1つ目の発表会
	14週	発表会	4テーマのうちの2つ目の発表会
	15週	結果の開示・解説	自分たちのグループの結果を把握し分析する(非評価項目)。自己評価3
16週			

#### 評価割合

	試験	発表	提出物	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	45	0	0	15	100
基礎的能力	0	40	45	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	微分積分 1
科目基礎情報					
科目番号	2026		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	「新基礎数学 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫他著 大日本図書、「新微分積分 1 改訂版」高遠節夫 他著、大日本図書/「新微分積分 1 問題集 改訂版」高遠節夫 他著、大日本図書、「新編 高専の数学 2 問題集 (第 2 版)」田代嘉宏 編、森北出版、「新編 高専の数学 3 問題集 (第 2 版)」田代嘉宏 編、森北出版				
担当教員	嶋根 紀仁,熊谷 博,松浦 將國				
到達目標					
(1) 場合の数、順列、組合せ、二項定理、数列についての基礎知識を習得する。 (2) 関数の極限を学び、導関数の定義を理解する。 (3) 微分法の計算力を身につける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
場合の数	場合の数や二項定理を用いて、問題を解くことができる。	順列、階乗、組合せを説明し、値を求めることができる。場合の数の基本的な問題を解くことができる。二項定理が説明でき、展開式の係数を求めることができる。	表や樹形図を用いて場合の数を求めることができない。積の法則、和の法則が説明できない。		
数列	漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。数学的帰納法が説明できる。数列を用いて、問題を解くことができる。	等差数列・等比数列の一般項や数列の和を求めることができる。総和記号を用いた基本的な数列の和を求めることができる。	数列の用語・記号が説明できない。総和記号の性質が説明できない。		
関数の極限値を求めることができる。	分母・分子の有理化や、指数関数を含む式など、多少複雑な関数の極限値でも求めることができる。	簡単な関数の極限値を求めることができる。	簡単な関数の極限値を求めることができない。		
関数の導関数を求めることができる。	積の微分、商の微分、合成関数の微分が確実にでき、様々な関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の微分や、積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。	基本的な関数の微分や、積の微分、商の微分、合成関数の微分が確実にできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学基礎 A 1～B 2 の知識を必要とする。 (2) 場合の数、順列、組合せ、二項定理と数列は、高専数学の基礎科目として位置づけられる。 (3) 微分法は、工学および自然科学の重要な基礎として位置づけられる。				
授業の進め方・方法	前半に場合の数、順列、組合せ、二項定理と数列を、後半に関数の極限と微分を講義形式で行う。中間試験を実施する。				
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題をノートに解いておくこと。 (2) 毎日 30 分以上問題を解くこと。授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から問題集や教科書の章末問題などをノートに解く習慣をつけること。 (4) 問題をノートに解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	場合の数と順列	積の法則と和の法則が理解できる。簡単な順列の計算ができる。	
		2週	組合せ	基本的な組合せの計算ができる。	
		3週	順列の計算、二項定理	基本的な順列の計算ができる。二項定理が使える。	
		4週	等差数列	等差数列の一般項と和の公式が使える。	
		5週	等比数列	等比数列の一般項と和の公式が使える。	
		6週	数列の和	和の記号Σの公式を用いて問題が解ける。	
		7週	漸化式	漸化式の定義を説明できる。	
	2ndQ	8週	関数の極限と導関数	関数の極限値を求めることができる。無限大を説明できる。平均変化率と微分係数の定義が説明できる。	
		9週	関数の極限と導関数	導関数の定義が説明でき、整関数の微分ができる。積の微分ができる。商の微分ができる。	
		10週	関数の極限と導関数	三角関数を含む式の極限値が計算できる。三角関数の微分ができる。自然対数の底eの定義に基づいて極限値の計算ができる。	
		11週	関数の極限と導関数	指数関数の微分ができる。合成関数の微分ができる。	
		12週	いろいろな関数の導関数	合成関数の微分ができる。対数関数の微分ができる。対数微分法で計算ができる。	

	13週	いろいろな関数の導関数	逆三角関数の値を求めることができる。 逆三角関数の微分ができる。
	14週	いろいろな関数の導関数	右極限・左極限が説明できる。 連続関数の定義と性質が説明できる。 中間値の定理が説明できる。
	15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。 簡単な不定積分の計算ができる。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・課題等	合計
総合評価割合	75	25	100
成績	75	25	100

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	微分積分 2
科目基礎情報					
科目番号	2027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	「新微分積分 1 改訂版」高遠節夫 (ほか) 著、大日本図書 / 「新微分積分 1 問題集 改訂版」高遠節夫 (ほか) 著、大日本図書、 「新編 高専の数学 2 問題集 (第 2 版)」田代嘉宏 編、森北出版、 「新編 高専の数学 3 問題集 (第 2 版)」田代嘉宏 編、森北出版				
担当教員	嶋根 紀仁, 熊谷 博, 松浦 将國				
到達目標					
(1) 微分法の応用ができる。 (2) 不定積分ができる。 (3) 定積分の計算ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
関数の極限値を求めることができる。	分母・分子の有理化や、指数関数を含む式など、多少複雑な関数の極限値でも求めることができる。	簡単な関数の極限値を求めることができる。	簡単な関数の極限値を求めることができない。		
関数の導関数を求めることができる。	積の微分、商の微分、合成関数の微分が確実にでき、様々な関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の微分や、積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。	曲線の接線を求めることができない。		
不定積分の定義が説明でき、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	不定積分の定義が説明でき、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	基本的な関数の不定積分を求めることができる。	基本的な関数の不定積分を求めることができない。		
定積分の定義が説明でき、基本的な関数の定積分の値を求めることができる。	定積分の定義が説明でき、基本的な関数の定積分の値を求めることができる。	基本的な関数の定積分の値を求めることができる。	基本的な関数の定積分の値を求めることができない。		
微分積分法の基本定理が説明できる。	微分積分法の基本定理が説明でき、基本的な応用問題が解ける。	微分積分法の基本定理が説明できる。	微分積分法の基本定理が説明できない。		
分数関数、無理関数、三角関数を含むいろいろな関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。	分数関数、無理関数、三角関数を含むいろいろな関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。	分数関数、無理関数、三角関数を含む簡単な関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。	分数関数、無理関数、三角関数などを含む関数の不定積分や定積分の値を求めることができない。		
置換積分法や部分積分法により不定積分や定積分の値を求めることができる。	置換積分法や部分積分法により様々な関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。	置換積分法や部分積分法により簡単な関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。	置換積分法や部分積分法により不定積分や定積分の値を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学基礎 A 1～B 2、微分積分 1 の知識を必要とする。 (2) 微分法と積分法は、工学および自然科学の重要な基礎として位置づけられる。				
授業の進め方・方法	微分の応用と積分を講義形式で行う。中間試験を実施する。				
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題をノートに解いておくこと。 (2) 毎日 30 分以上問題を解くこと。授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみる。 (3) 日頃から問題集や教科書の章末問題などをノートに解く習慣をつけること。 (4) 問題をノートに解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	関数の変動	曲線の接線を求めることができる。 曲線の法線を求めることができる。 平均値の定理を説明することができる。	
		2週	関数の変動	増減表を書いて関数の増減を調べ、グラフをかくことができる。 関数の極値を求めることができる。	
		3週	関数の変動	関数の増減を調べ、最大値・最小値が求められる。 関数の増減を調べ、不等式の証明ができる。	
		4週	いろいろな応用	不定形の極限を求めることができる。 高次導関数を求めることができる。 ライプニッツの公式を使うことができる。	
		5週	いろいろな応用	曲線の凹凸や変曲点を調べ、グラフの概形を描くことができる。 漸近線を求めることができる。	
		6週	いろいろな応用	媒介変数表示の微分ができる。 速度と加速度を求めることができる。	
		7週	いろいろな応用	ロルの定理と平均値の定理が説明できる。 ロピタルが説明できる。	
	8週	不定積分と定積分	不定積分の定義が説明できる。 基本的な関数の不定積分を求めることができる。		
4thQ	9週	不定積分と定積分	定積分の定義が説明でき、簡単な定積分の計算ができる。 微分積分法の基本定理が説明できる。 基本的な関数の定積分を求めることができる。		

	10週	不定積分と定積分	いろいろな関数の不定積分を求めることができる。
	11週	積分の計算	置換積分法により不定積分を求めることができる。 置換積分法により定積分を求めることができる。
	12週	積分の計算	部分積分法により不定積分を求めることができる。 部分積分法により定積分を求めることができる。
	13週	積分の計算	部分分数分解により、分数関数の不定積分を求めることができる。 置換積分法により、三角関数を含む式の不定積分を求めることができる。
	14週	積分の計算	分数関数、無理関数、三角関数を含むいろいろな関数の定積分を求めることができる。
	15週	試験問題の解説・区分求積法	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。 区分求積法により、極限值を求めることができる。 定積分を用いて不等式の証明ができる。 台形公式を説明することができる。
	16週		

評価割合			
	試験	小テスト・課題等	合計
総合評価割合	75	25	100
成績	75	25	100

鹿児島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	線形代数 1
科目基礎情報				
科目番号	2028	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	「新線形代数 改訂版」 高遠節夫ほか著 大日本図書 / 「新線形代数問題集 改訂版」 高遠節夫ほか著 大日本図書、 「新編 高専の数学2 問題集 (第2版)」 田代嘉宏編 森北出版			
担当教員	熊谷 博, 橋松 祐介, 山本 康平			
到達目標				
<p>(1) 平面のベクトルについて、ベクトルの和、差、内積などの基本事項を学び、平面上の直線や円など図形への基本的な応用を目標とする。</p> <p>(2) 平面ベクトルの拡張として、空間のベクトルを学び、空間内の直線、平面、球など図形への基本的な応用を目標とする。</p> <p>(3) 行列や逆行列についての基本事項を学び、連立1次方程式への基本的な応用を目標とする。</p> <p>(4) 行列式についての基本事項を学び、行列、連立1次方程式、ベクトルへの基本的な応用を目標とする。</p>				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
平面のベクトルの演算と、図形への応用ができる。	平面のベクトルを駆使して、図形の特徴を求めることができる。 線形独立・従属を説明できる。	平面のベクトルの演算ができ、図形の方程式を求め、性質を説明できる。	平面のベクトルの演算ができ、図形の方程式を求め、性質を説明することができない	
空間のベクトルの演算と、図形への応用ができる。	空間のベクトルを駆使して、図形の特徴を求めることができる。 線形独立・従属を説明できる。	空間のベクトルの演算ができ、図形の方程式を求め、性質を説明できる。	空間のベクトルの演算ができ、図形の方程式を求め、性質を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	(1) 数学基礎 A 1～B 2の知識を前提とする。 (2) ベクトルは数学・自然科学および専門科目の基礎として多くの分野で利用されている。			
授業の進め方・方法	ベクトルの授業を講義形式で行う。中間試験を実施する。			
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から問題集や教科書の問題などを解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ベクトルとベクトルの演算	ベクトルについて説明できる。 ベクトルの和・差、数との積を計算できる。
		2週	ベクトルの成分	ベクトルの成分と大きさが求められる。
		3週	ベクトルの内積	ベクトルの内積の性質が説明でき計算ができる。 2つのベクトルのなす角が求められる。
		4週	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行と垂直が説明できる。
		5週	ベクトルの図形への応用	位置ベクトルについて説明できる。
		6週	直線のベクトル方程式	直線のベクトル方程式について説明できる。 点と直線との距離が求められる。
		7週	平面のベクトルの線形独立・線形従属	ベクトルの線形独立・線形従属について説明できる。
		8週	空間座標	空間における2点間の距離が求められる。
	2ndQ	9週	空間のベクトルの成分	空間のベクトルの成分と大きさが求められる。
		10週	空間のベクトルの内積	空間のベクトルの内積の性質について説明できる。 2つの空間のベクトルのなす角が求められる。
		11週	直線の方程式	空間の直線の方程式について説明できる。
		12週	平面の方程式	平面の方程式について説明できる。 点と平面との距離が求められる。
		13週	球の方程式	球の方程式について説明できる。
		14週	空間のベクトルの線形独立・線形従属	空間のベクトルの線形独立・線形従属について説明できる。
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。
		16週		
評価割合				
	試験	小テスト・課題等	合計	
総合評価割合	75	25	100	
成績	75	25	100	

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	線形代数2
科目基礎情報				
科目番号	2029	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	「新線形代数」 高遠節夫ほか著 大日本図書 / 「新線形代数問題集」 高遠節夫ほか著 大日本図書、「新編 高専の数学2 問題集 (第2版)」 田代嘉宏編 森北出版			
担当教員	熊谷 博, 橋松 祐介, 山本 康平			
到達目標				
(1) 行列や逆行列についての基本事項を学び、連立1次方程式への基本的な応用を目標とする。 (2) 行列式についての基本事項を学び、行列、連立1次方程式、ベクトルへの基本的な応用を目標とする。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
行列の演算ができ、逆行列を求めることができる。	行列の逆行列を求めることができ、逆行列が存在しない場合の解を、階数を使って説明できる。	行列の演算ができ、その逆行列を求めることができ、さらに連立方程式も解ける。	行列の演算ができ、その逆行列を求めることができない。	
行列式の計算ができ、連立方程式が解ける。	行列式の計算と応用ができ、その図形的意味と線形独立の関係を説明でき、外積計算ができる。	行列式の計算ができ、クラメルの公式により、連立方程式が解ける。	行列式の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	(1) 数学基礎A 1～B 2および線形代数1の知識を前提とする。 (2) 行列・行列式は数学・自然科学および専門科目の基礎として多くの分野で利用されている。			
授業の進め方・方法	行列と行列式の授業を講義形式で行う。中間試験を実施する。			
注意点	(1) 予習として、教科書にある新しい言葉や記号を確認しておき、例や例題を解いておくこと。 (2) 授業中に先生が解いた問題でも、もう一度自力で解いてみること。 (3) 日頃から問題集や教科書の問題などを解く習慣をつけること。 (4) 問題を解くときは、メモ書きではなく、試験の答案のつもりで正確に書くようにすること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	行列の和・差、数との積	行列の和・差、数との積を計算できる。
		2週	行列の積	行列の積を計算できる。 零因子について説明できる。
		3週	転置行列	転置行列、対称行列、交代行列について説明できる。
		4週	逆行列	正則行列について説明できる。 2次の正則行列の逆行列が求められる。
		5週	消去法	消去法により連立1次方程式を解くことができる。
		6週	逆行列と連立1次方程式	n次の正則行列の逆行列が求められる。 逆行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。
		7週	行列の階数	行列の階数が求められる。 連立1次方程式が解を持つ条件について説明できる。
		8週	行列式の定義	2次・3次の行列式の計算ができる。 行列式の定義を説明できる。
	4thQ	9週	行列式の性質	行列式の性質を説明でき、行列式の計算ができる。
		10週	行列の積の行列式	行列の積の行列式が求められる。
		11週	行列式の展開	行列式の展開ができる。
		12週	行列式と逆行列	余因子行列について説明できる。
		13週	連立1次方程式と行列式	クラメルの公式について説明できる。 連立1次方程式が零ベクトル以外の解を持つための条件を説明できる。 空間のベクトルが線形独立であるための条件を説明できる。
		14週	行列式の図形的意味、外積	行列式の図形的意味を説明できる。 空間のベクトルの外積を求めることができる。
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。
		16週		
評価割合				
		試験	小テスト・課題等	合計
総合評価割合		75	25	100
成績		75	25	100

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	物理ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	2030		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	①熱・波動 (大日本図書)、②電磁気・原子 (大日本図書)、③力学I (大日本図書)、④新課程 ニューアチーブ物理 (東京書籍)、⑤新課程 Let's Try Note 物理基礎 Vol.2 熱・波・電磁気編 (東京書籍)				
担当教員	篠原 学, 一般 未定				
到達目標					
1. 熱量保存則が理解できる 2. 理想気体の性質を理解できる 3. 単振動の性質を理解できる 4. 波動の一般的性質を理解できる 5. 音波の性質を理解できる 6. 光波の性質を理解できる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	比熱・熱容量の違いおよび潜熱が理解でき、これらを含めた熱量保存則の計算ができる。		比熱・熱容量の違いが理解でき、熱量保存式の計算ができる。		熱量保存則の計算ができない。
評価項目2	理想気体の状態方程式、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を理解し、適用できる。		理想気体の状態方程式、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を理解できる。		ボイル・シャルルの法則を理解できない。
評価項目3	単振動の性質が理解でき、等速円運動との関係も理解できる。		単振動の性質が理解できる。		ばね振動の運動を想像できない。
評価項目4	波動の一般的性質(波の基本式、反射・屈折・回折・干渉)を理解できる。単振動と波動の関係が理解できる。		波の基本式が理解できる。反射・屈折の法則が理解できる。		波の基本式が理解できない。反射・屈折の法則が理解できない。
評価項目5	弦の固有振動、気柱の固有振動、音のドップラー効果の理屈を理解し、その計算ができる。		音の三要素が理解できる。音のドップラー効果の理屈を理解し、その計算ができる。		音の三要素がわからない。音のドップラー効果の理屈が理解できない。
評価項目6	絶対屈折率・全反射が理解できる。偏光・スペクトルを説明できる。レンズの式が理解できる。		絶対屈折率・全反射が理解できる。レンズの式が理解できる。		絶対屈折率・全反射が理解できない。レンズの式が理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
本科(準学士課程)の学習・教育到達目標 3-a					
教育方法等					
概要	1年次に学習した物理の力学分野および数学を活用して、自然現象の本質を抽出する物理的なもの見方や考えかたを身につける。高校レベルの物理であり、力学、熱・波動および電磁気現象について学習する。上級学年で物理学や専門科目を学習する際の重要な基礎となる。				
授業の進め方・方法	講義形式で進め、適宜演習を行う。物理実験を実施する。				
注意点	様々な物理現象の本質をまず定性的に理解し、次に定量的・数学的に取り組むことが肝要である。授業の進捗状況に応じて、実験を行うと共に演習として適宜平常テストを課す。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	熱運動・熱容量	セ氏温度、絶対温度を説明できる。熱平衡・比熱・熱容量を説明できる。	
		2週	熱量保存則・熱膨張	熱量保存則を説明でき、潜熱を理解できる。熱膨張の計算ができる。	
		3週	気体の圧力・ボイル・シャルルの法則	圧力の定義を説明できる。ボイル・シャルルの法則(理想気体の状態方程式)を説明できる。	
		4週	単振動・物理実験	単振動の性質を説明できる。	
		5週	波・物理実験	波の基本式を説明できる。	
		6週	波・物理実験	横波と縦波の違いを説明できる。	
		7週	波	波の重ね合わせの原理を理解できる。反射の法則・屈折の法則を理解できる。	
	8週	波	回折・干渉(強めあう条件・弱めあう条件)を理解できる。		
	2ndQ	9週	音波	音波の性質(音の三要素・反射・屈折・干渉・回折)を理解できる。うなりを説明できる。	
		10週	音波・物理実験	弦の固有振動が理解できる。	
		11週	音波・物理実験	管の固有振動(開管と閉管の違い)が理解できる。	
		12週	光・物理実験	音のドップラー効果を説明できる。	
13週		光	光波の性質や全反射を説明できる。偏光、スペクトル、散乱を説明できる。		

		14週	光	実像と虚像の違いを知り、レンズの公式を応用できる。
		15週	答案返却・解説	
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	20	55
専門的能力	25	0	0	0	0	5	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	物理ⅡB		
科目基礎情報							
科目番号	2031		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	①電磁気・原子 (大日本図書)、②新課程 ニューアチーブ物理 (東京書籍)、③新課程 Let's Try Note 物理基礎 Vol.2 熱・波・電磁気編 (東京書籍)						
担当教員	篠原 学, 一般 未定						
到達目標							
1. 電界の性質を理解できる。 2. コンデンサーの性質を理解できる。 3. 直流回路を理解できる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	電界中の電荷の運動が理解できる。重力加速度と電界の類似性を説明できる。ガウスの法則を説明できる。		電界中の電荷の運動が理解できる。重力加速度と電界の類似性を理解できる。		静電気力、および静電気力がする仕事が理解できない。		
評価項目2	静電誘導・誘電分極が理解できる。コンデンサーの性質が理解でき、合成容量や静電エネルギーが計算できる。		導体・不導体の違いを理解できる。コンデンサーの性質が理解できる。		コンデンサーの性質が理解できない。		
評価項目3	電流と自由電子の運動の関係を理解できる。抵抗の性質を理解できる。電池の起電力と内部抵抗を理解できる。キルヒホッフの法則が理解できる。		電流・抵抗の性質を理解できる。キルヒホッフの法則の式を立てることができる。		オームの法則が理解できない。起電力と電圧降下が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	これまでに学習した物理および数学を活用して、自然現象の本質を抽出する物理的なもの見方や考えかたを身につける。高校レベルの物理であり、電気現象について学習する。上級学年で物理学や専門科目を学習する際の重要な基礎となる。						
授業の進め方・方法	講義形式で進め、適宜演習を行う。						
注意点	様々な物理現象の本質をまず定性的に理解し、次に定量的・数学的に取り組むことが肝要である。授業の進捗状況に応じて、実験を行うと共に演習として適宜平常テストを課す。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	電界	電荷の正負が理解できる。クーロンの法則の計算ができる。			
		2週	電界	静電気力・電界の性質を説明できる。電界の重ね合わせが理解できる。			
		3週	電界	電気力線の性質を説明できる。ガウスの法則が説明できる。静電気力の仕事・位置エネルギーを理解できる(電力との類似性)。			
		4週	電界	電位・電位差を説明できる。			
		5週	電界	等電位面と電気力線の関係を説明できる。			
		6週	電界	点電荷の周りの電位を計算できる。			
		7週	電界	静電誘導・誘電分極を説明できる。			
		8週	コンデンサー	コンデンサーの性質を理解できる。コンデンサーの電気量を計算できる。			
	4thQ	9週	コンデンサー	誘電率・比誘電率が理解できる。並列接続の合成容量を計算できる。			
		10週	コンデンサー	直列接続の合成容量を計算できる。静電エネルギーが計算できる。			
		11週	電流	電流と自由電子の運動の関係を理解できる。オームの法則、抵抗の性質と抵抗率を説明できる。			
		12週	電流	電力・電力量を説明できる。ジュール熱を説明できる。起電力と電圧降下を説明できる。			
		13週	電流	電池の起電力と内部抵抗を理解できる。直列・並列接続の合成抵抗を計算できる。			
		14週	電流	キルヒホッフの法則を用いて回路の計算ができる。			
		15週	答案返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	20	55
専門的能力	25	0	0	0	0	5	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	化学Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	2032		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	[教科書]「改訂 新編化学基礎」 竹内 敬人 他 著 東京書籍					
担当教員	瀬田 諭					
到達目標						
化学的な事象・現象についての説明及び観察・実験を行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育てる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 原子の相対質量, 原子量・分子量・式量, 物質質量(mol数)とアボガド数及び溶液の濃度について理解し, 計算できる。	原子の相対質量, 原子量・分子量・式量, 物質質量(mol数)とアボガド数及び溶液の濃度について理解し, 計算できる。	原子の相対質量, 原子量・分子量・式量, 物質質量(mol数)とアボガド数及び溶液の濃度について理解している。	原子の相対質量, 原子量・分子量・式量, 物質質量(mol数)とアボガド数及び溶液の濃度について理解していない。			
評価項目2 化学反応式を作ることができ, 化学反応の表す量的関係を理解し, 計算できる。	化学反応式を作ることができ, 化学反応の表す量的関係を理解し, 計算できる。	化学反応式を作ることができ, 化学反応の表す量的関係を理解している。	化学反応式を作ることができず, 化学反応の表す量的関係を理解していない。			
評価項目3 「アレニウスの理論」と「ブレンステッドの理論」による酸・塩基の定義と酸・塩基の価数について説明でき, 酸・塩基の強さの電離度を理解し, 強酸, 強塩基, 弱酸弱塩基を区別できる。	「アレニウスの理論」と「ブレンステッドの理論」による酸・塩基の定義と酸・塩基の価数について説明でき, 酸・塩基の強さの電離度を理解し, 強酸, 強塩基, 弱酸弱塩基を区別できる。	「アレニウスの理論」による酸・塩基の定義と酸・塩基の価数について説明でき, 酸・塩基の強さの電離度を理解している。	「アレニウスの理論」による酸・塩基の定義と酸・塩基の価数について説明できず, 酸・塩基の強さの電離度を理解していない。			
評価項目4 水のイオン積が $[H^+] \times [OH^-] = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/l) <sup>2</sup> であることを説明でき, 水素イオン指数pHについて $pH = -\log 10 [H^+]$ であることを理解し, 計算でき, pHの測定で, 指示薬, 万能pH試験紙等を例示できる。	水のイオン積が $[H^+] \times [OH^-] = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/l) <sup>2</sup> であることを説明でき, 水素イオン指数pHについて $pH = -\log 10 [H^+]$ であることを理解し, 計算でき, pHの測定で, 指示薬, 万能pH試験紙等を例示できる。	水のイオン積が $[H^+] \times [OH^-] = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/l) <sup>2</sup> であることを説明でき, 水素イオン指数pHについて $pH = -\log 10 [H^+]$ であることを理解している。	水のイオン積が $[H^+] \times [OH^-] = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/l) <sup>2</sup> であることを説明できず, 水素イオン指数pHについて $pH = -\log 10 [H^+]$ であることを理解していない。			
評価項目5 中和反応の本質が $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ で, 中和反応で水と共に塩が生じること, 塩の種類を正塩, 酸性塩, 塩基性塩に分類できること, 塩の加水分解において, 弱酸, 弱塩基から生じた塩について説明できる。	中和反応の本質が $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ で, 中和反応で水と共に塩が生じること, 塩の種類を正塩, 酸性塩, 塩基性塩に分類できること, 塩の加水分解において, 弱酸, 弱塩基から生じた塩について説明できる。	中和反応の本質が $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ で, 中和反応で水と共に塩が生じること, 塩の種類を正塩, 酸性塩, 塩基性塩に分類できることを説明できる。	中和反応の本質が $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ で, 中和反応で水と共に塩が生じること, 塩の種類を正塩, 酸性塩, 塩基性塩に分類できない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	2年次の化学についても, 1年次の化学Ⅰ及びⅡと同じように基礎的な内容であるが, これから各専門学科で履修する専門分野の講義の基礎となる。					
授業の進め方・方法	講義の内容をよく理解するために, 毎回, 予習や演習問題等の課題を含む復習として, 80分以上の自学自習が必要である。化学Ⅰ及びⅡ(教科書)を基に, 基礎化学の中で特に重要である以下に示した内容について解説すると共に, pHの測定等については演示実験を行う。その他, 化学に関する理解を深めるため, 資料(プリント)等を用い説明を行う。また, 授業の初めと終わりには前回の授業の復習問題と今回の授業の確認問題を行う。					
注意点	2年次の化学については, 1年次の化学の内容をもとに講義を進めていくので, 1年次の重要事項についてはよく理解しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	物質の最小単位	身の回りの物質が原子や分子で構成されていることを理解する。また物質の種類の違いが何によって決まるのかを理解する。		
		2週	物質の質量の決定方法	原子量, 分子量, 式量の違いを説明できるようになる。加えてこれらの物理量を算出できるようになる(胴体質量を含む)。		
		3週	物質量とアボガド数	ミクロな世界とマクロな世界がアボガド数によって繋がっていることを理解する。そしてそのアボガド数から物質量, 質量, 体積へと変換できるようになる。		
		4週	溶液中の注目物質の濃度	溶質と溶媒の区別をつけられるようになる。そして質量パーセント濃度とモル濃度を計算できるようになる。		
		5週	化学反応式の作り方と密度	化学反応式において生成系と反応系を理解する。また質量保存の法則を理解し, 化学反応式の係数を合わせられるようになる。密度の概念を学び, 計算できるようになる。		
		6週	化学反応式の係数の意味	化学反応式の係数が物質量と関係づけられることを学ぶ。また反応系と生成系の生成系の量的関係を理解し, 予測できるようになる。		
		7週	化学平衡	ルシャトリエの原理から現象の変化がどのように進むのかを予測できるようになる。またそれに関連して濃度効果, 温度効果, 圧力効果を説明できるようになる。		

2ndQ	8週	前半のまとめと復習(グループ学習) 中間テスト期間に中間テストを実施する。	第1-7週までの授業内容を全て説明できるようにする。 個人でわからない部分は学生間の教え合いによって理解できるようにする。
	9週	中間試験答案の返却・解説。	各試験において間違った部分を自分の課題として把握し、記録する。
	10週	ブレンステッド・ローリーの酸塩基の定義	酸と塩基についてアレニウスの定義とブレンステッド・ローリーの定義の違いを説明できるようにする。またその定義を利用して様々な物質を酸と塩基に分類する。
	11週	水素イオン濃度	水素イオン濃度をpHで表現できるようにする。またpHを利用して水溶液を酸と延期に分類できるようにする。
	12週	中和反応と副産物の影響による液性の変化	酸と塩基の量的に関係によって中和反応が生じることを理解する。またその際に生成した塩の種類によって変化する液性を予測できるようにする。
	13週	中和滴定と緩衝液	中和反応における数値計算をできるようにする。また滴定曲線の特徴を理解する。
	14週	全体のまとめと復習(グループ学習) 期末テスト期間に期末テストを実施する。	第1-13週までの授業内容を全て説明できるようにする。 個人でわからない部分は学生間の教え合いによって理解できるようにする。
	15週	期末試験答案の返却・解説。	各試験において間違った部分を自分の課題として把握し、記録する。
	16週		

評価割合

	試験	出席・態度	課題	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	自然科学
科目基礎情報					
科目番号	2034		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「高等学校 新生物基礎」古里勝利他 著 第一学習社 「新課程版 スクエア最新図説生物」古里勝利他 著 第一学習社 「新課程版 ネオバルノート 生物基礎」第一学習社編集部 「高等学校 地学基礎」西村祐祐二郎他 著 第一学習社 「新課程版 スクエア 最新図説 地学」西村祐祐二郎他 著 第一学習社 「新課程版 ネオバルノート 地学基礎」第一学習社編集部				
担当教員	三原 めぐみ, 澁田 諭				
到達目標					
<p>1. 地球上の生物の共通性、多様性と進化の関係、生命活動に必要なエネルギーと代謝について説明できる。</p> <p>2. 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴、遺伝情報の複製やタンパク質が合成される仕組みについて説明できる。</p> <p>3. 体内環境が維持されていることとともに、自律神経やホルモンが調節に関わっている仕組み、免疫とそれに関わる細胞の働きについて説明できる。</p> <p>4. 生態系の構成要素、生態系ピラミッド、生態系における物質の循環とエネルギーについて説明できる。</p> <p>5. 地球の形や特徴について理解している。</p> <p>6. 地球内部に層構造があり、その状態や構成物質が異なることを理解している。</p> <p>7. 火山活動と地震発生のしくみ・原因をプレート運動と関連付けて理解している。</p> <p>8. 大気の大循環や海水の移動、地球の熱収支について理解している。</p> <p>9. 日本の自然環境や地球規模の自然環境の変化が人間生活と深く関わっていることを理解している。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	地球上の生物の共通性、多様性と進化の関係、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解し、説明できる。		地球上の生物の共通性、多様性と進化の関係、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解している。		地球上の生物の共通性、多様性と進化の関係、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解していない。
評価項目2	遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴、遺伝情報の複製やタンパク質が合成される仕組みについて理解し、説明できる。		遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴、遺伝情報の複製やタンパク質が合成される仕組みについて理解している。		遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴、遺伝情報の複製やタンパク質が合成される仕組みについて理解していない。
評価項目3	体内環境が維持されていることとともに、自律神経やホルモンが調節に関わっている仕組み、免疫とそれに関わる細胞の働きについて理解し、説明できる。		体内環境が維持されていることとともに、自律神経やホルモンが調節に関わっている仕組み、免疫とそれに関わる細胞の働きについて理解している。		体内環境が維持されていることとともに、自律神経やホルモンが調節に関わっている仕組み、免疫とそれに関わる細胞の働きについて理解していない。
評価項目4	生態系の構成要素、生態系ピラミッド、生態系における物質の循環とエネルギーについて理解し、説明できる。		生態系の構成要素、生態系ピラミッド、生態系における物質の循環とエネルギーについて理解している。		生態系の構成要素、生態系ピラミッド、生態系における物質の循環とエネルギーについて理解していない。
評価項目5	地球の形や特徴について理解し、説明できる。		地球の形や特徴について理解している。		地球の形や特徴について理解していない。
評価項目6	地球内部に層構造があり、その状態や構成物質が異なることを理解し、説明できる。		地球内部に層構造があり、その状態や構成物質が異なることを理解している。		地球内部に層構造があり、その状態や構成物質が異なることを理解していない。
評価項目7	火山活動と地震発生のしくみ・原因をプレート運動と関連付けて理解し、説明できる。		火山活動と地震発生のしくみ・原因をプレート運動と関連付けて理解している。		火山活動と地震発生のしくみ・原因をプレート運動と関連付けて理解していない。
評価項目8	大気の大循環や海水の移動、地球の熱収支について理解し、説明できる。		大気の大循環や海水の移動、地球の熱収支について理解している。		大気の大循環や海水の移動、地球の熱収支について理解していない。
評価項目9	日本の自然環境や地球規模の自然環境の変化が人間生活と深く関わっていることを理解し、説明できる。		日本の自然環境や地球規模の自然環境の変化が人間生活と深く関わっていることを理解している。		日本の自然環境や地球規模の自然環境の変化が人間生活と深く関わっていることを理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	生物とそれを取り巻く地球環境を中心に、自然の事物・現象について理解し、人間と自然とのかかわりについて考え、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。自然、環境、科学技術に対する興味・関心を高め、ライフサイエンス、アースサイエンスの立場から「ものづくり」で必要となる環境への配慮ができる知識や考え方を学習する。				
授業の進め方・方法	教科書を中心に図説等を活用しながら、講義形式で授業を行う。				
注意点	予習復習をすること。図説は必ず持参すること。また、配布した資料等は必ず目を通すこと。中間試験を実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生物の共通性と進化の流れ	地球上の生物の定義を理解し、共通性を説明できるようになる。またその共通性を基盤とし、種々の生物がどのように個性を獲得してきたかを理解する。	
		2週	細胞内に存在する様々な器官とエネルギーの重要性	細胞内にはどのような器官が存在しているのかを理解する。そして細胞が活動するためのエネルギーの重要性を認識する。	

後期	2ndQ	3週	生命活動におけるエネルギーの貯蔵・抽出と酵素の役割	細胞内におけるエネルギーの貯蔵・抽出メカニズムと酵素がエネルギー変化に与える影響力を説明できるようになる。	
		4週	呼吸の役割と遺伝子の構造と複製	エネルギー利用について呼吸の役割を理解する。また遺伝子の構造をヌクレオチドレベルから理解し、DNA複製のメカニズムを説明できるようになる。	
		5週	タンパク質の構造と合成	タンパク質の階層構造とセントラルドグマの流れを説明できるようになる。それに加えて遺伝暗号表から生成するタンパク質の構造を予測できる力を身につける。	
		6週	細胞と遺伝子の働き、体内環境と血液	親から子へのゲノムの引き継ぎとそのゲノムの分化・発現を説明できるようになる。また血液の止血におけるメカニズムを説明できるようになる。	
		7週	ヘモグロビン-酸素間結合に影響を与える外的要因と体内環境を維持する臓器	ヘモグロビンと酸素の間の結合が外的要因によってどのように変化するかを酸素解離曲線を通じて説明できるようになる。また体内に存在する様々な臓器がどのように生命活動に関わっているのかを理解する。	
		8週	前半のまとめと復習(グループ学習) 中間テスト期間に中間テストを実施する。	第1-7週までの授業内容を全て説明できるようにする。個人でわからない部分は学生間の教え合いによって理解できるようになる。	
		9週	中間試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握し、記録する。	
		10週	神経系とホルモン	情報伝達の手段としての神経とホルモンの役割や特徴を説明できるようになる。	
	11週	ホルモンの働きと免疫	具体的な現象(血糖濃度調節)を例にしてホルモンの働きを説明できるようになる。また体外からの侵入者について免疫のメカニズムを自然免疫及び獲得免疫の観点から説明できるようになる。		
	12週	植生の多様性と遷移	植生を決定づける要因とその変化の流れを説明できるようになる。		
	13週	バイオームと生態系	バイオームの成立条件を降水量と気温の観点から理解できるようになる。また植生、バイオーム、生態系の違いを正しく理解し、食物連鎖の関係性やバランスの重要性を説明できるようになる。		
	14週	全体のまとめと復習(グループ学習) 期末テスト期間に期末テストを実施する。	第1-13週までの授業内容を全て説明できるようにする。個人でわからない部分は学生間の教え合いによって理解できるようになる。		
	15週	期末試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握し、記録する。		
	16週				
	後期	3rdQ	1週	太陽系と地球の誕生	太陽系の誕生と生命の惑星・地球について説明できる。
			2週	地球のすがた	地球の概観について説明できる。
3週			地球のすがた	プレート運動について説明できる。	
4週			地球の活動	地震の発生と分布、地震波の伝わり方について説明できる。	
5週			地球の活動	日本付近で発生する地震と地震災害について説明できる。	
6週			地球の活動	火山の分布と火山の形成について説明できる。	
7週			地球の活動	火山の噴火と地形、火山災害について説明できる。	
8週			大気と海洋	大気構成と特徴について説明できる。	
4thQ		9週	大気と海洋	太陽放射と地球放射、地球のエネルギー収支について説明できる。	
		10週	大気と海洋	風と大気の大循環について説明できる。	
		11週	大気と海洋	海洋の構造と海洋の大循環について説明できる。	
		12週	大気と海洋	エルニーニョ現象とラニーニャ現象について説明できる。	
		13週	地球の環境	地球温暖化とオゾン層の変化について説明できる。	
		14週	地球の環境	日本の自然環境について説明できる。	
		15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する。	
		16週			

評価割合

	試験	その他	合計
総合評価割合	140	60	200
基礎的能力(前期)	70	30	100
基礎的能力(後期)	70	30	100

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	保健体育Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	2035		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	保健体育理論『学生の健康科学』伊藤道郎他(鈴木製本所)、体育実技『アクティブスポーツ』長谷川聖修他(大修館書店)				
担当教員	北園 裕一, 堂園 一, 松尾 美穂子				
到達目標					
運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め、これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と、健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	各種目の基礎的な技術を習得することができる。また、その修得した技術を、普段のスポーツ活動に活かすことができる。	各種目の基礎的な技術を習得することができる。	各種目の基礎的な技術を習得することができない。		
評価項目2	自ら進んで積極的にスポーツ活動へ参加することができる。	積極的にスポーツ活動へ参加することができる。	積極的にスポーツ活動へ参加することができない。		
評価項目3	薬と健康、感染症予防に関する諸問題を理解及び解決することができる。	薬と健康、感染症予防に関する諸問題を理解することができる。	薬と健康、感染症予防に関する諸問題を理解することができない。		
評価項目4	スポーツ活動を通す中で、様々なケースを想像し、相手の立場に応じた行動をとることができる。	スポーツ活動を通す中で、相手の立場に応じた行動をとることができる。	スポーツ活動を通す中で、相手の立場に応じた行動をとることができない。		
評価項目5	自分の安全だけではなく集団の安全も留意しながら楽しくスポーツ活動を実践することができる。	自分の安全を留意しながらスポーツ活動を実践することができる。	自分の安全を留意しながらスポーツ活動を実践することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め、これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と、健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。また、体育・スポーツ活動の実践を通して、相手の立場に立ってものを考え、グローバルに活躍できる人間性の育成する。				
授業の進め方・方法	体育実技については本校体育施設を利用して行う。各種目で基本的な技術を身につけ、かんたんなルールやゲームの進め方を学ぶ。				
注意点	教科書「学生の健康科学」及び参考書「アクティブスポーツ」の授業に関連するところを読み理解すること。実技においては、教材(運動場・体育館)を考えて正しい服装と、体育用具等の管理、安全に十分留意すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	高専5年間の体育授業のガイダンスを理解することができる。AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方法と一次救命処置が理解できる。	
		2週	スポーツテスト(屋外)	運動能力テストと体力診断テストを実施し、自己評価ができる。	
		3週	バレーボール、ソフトテニス、バドミントン(女子)	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。	
		4週	バレーボール、ソフトテニス、バドミントン(女子)	同上	
		5週	バレーボール、ソフトテニス、バドミントン(女子)	同上	
		6週	バレーボール、ソフトテニス、バレーボール(女子)	同上	
		7週	陸上競技、バレーボール、バレーボール(女子)	同上	
		8週	陸上競技、バレーボール、バレーボール(女子)	同上	
	2ndQ	9週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バレーボール、水泳(女子)	各種目については基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。水泳に関しては基本的な泳ぎ方を学び、安全に準分留意できる。	
		10週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バレーボール、水泳(女子)	同上	
		11週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、バレーボール、水泳(女子)	同上	
		12週	水泳、陸上競技、ダンス(女子)	同上	
		13週	水泳、陸上競技、ダンス(女子)	同上	
		14週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、水泳、ダンス(女子)	同上	
		15週	卓球・バドミントン・ソフトボール等、水泳、ダンス(女子)	同上	
		16週	予備日	予備日	
後期	3rdQ	1週	スポーツテスト(屋外) ※天候によって変更あり。	運動能力テストと体力診断テストを実施し、自己評価ができる。	

		2週	ソフトテニス、サッカー、卓球（女子）	基本的な技術を身につけ、各チームで協力してゲームができる。
		3週	ソフトテニス、サッカー、卓球（女子）	同上
		4週	ソフトテニス、サッカー、卓球（女子）	同上
		5週	ソフトテニス、サッカー、卓球（女子）	同上
		6週	ソフトテニス、サッカー、卓球（女子）	同上
		7週	バスケットボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、テニス（女子）	同上
		8週	バスケットボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、テニス（女子）	同上
		4thQ	9週	バスケットボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、テニス（女子）
	10週		バスケットボール、卓球・バドミントン・ソフトボール等、テニス（女子）	同上
	11週		サッカー、バスケットボール、バスケットボール（女子）	同上
	12週		サッカー、バスケットボール、バスケットボール（女子）	同上
	13週		サッカー、バスケットボール、バスケットボール（女子）	同上
	14週		サッカー、バスケットボール、バスケットボール（女子）	同上
	15週		サッカー、バスケットボール、バスケットボール（女子）	同上
	16週		予備日	予備日

評価割合

	各種評価	合計
総合評価割合	100	100
技能	60	60
スポーツテスト	30	30
レポート	10	10

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	2037		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	〔教科書〕 Flex English Communication I, II (増進堂), 〔参考書・補助教材〕 Flex English Communication I, II ワークブック [スタンダード] (増進堂), 夢をかなえる英単語 新ユメタン (1) (アルク), 総合英語be 4th Edition English Grammar 46, コンバースコース英和辞典(研究社), Oxford Reading Club (Oxford University Press)				
担当教員	坂元 真理子, 飯屋 衣里, 國谷 徹				
到達目標					
1年生までに学修した基礎を踏まえ、英語を聞く・読む・話す・書く能力をさらに伸ばす。英語を通じて、他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。英語を通じて、自分の周りの社会や科学技術、異文化理解などをめぐる諸問題に関心を持つ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
聞くこと	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報がある程度聞き取り、要点を大まかに把握することができる。	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報を聞き取ったり、要点を把握したりすることができない。		
読むこと	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、仮定法や分詞構文などを含むある程度複雑な文構造を正確に理解し、内容を把握し要約することができる。	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、基本的な文構造であれば理解でき、内容を大まかに把握することができる。	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、基本的な文構造を理解し、内容を把握することができない。		
話すこと (やり取り)	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して自分の考えや気持ちを話し、伝え合うやり取りを2-3往復程度続けることができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して自分の考えや気持ちを話し、伝え合うやり取りを1-2往復程度続けることができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを話したり、伝え合うやり取りを行ったりすることができない。		
話すこと (発表)	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して、自分の考えや気持ちを4-5文程度の文章に整理してまとめ、論理的に話すことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して、自分の考えや気持ちを2-3文程度の文章にまとめ、話すことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを文章にまとめ、話すことができない。		
書くこと	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して、自分の考えや気持ちを4-5文程度の論理的な文章に整理してまとめ、書くことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して、自分の考えや気持ちを2-3文程度の文章にまとめ、書くことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを文章にまとめ、書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと、の5つの領域において、1年生までに学修した基礎的な能力を再確認するとともに、語彙・文法・表現などにおけるより発展的・応用的な知識を習得し、これらを実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる能力を身につける。あわせて、教科書の内容を中心に日常的・社会的な様々な話題について、その概要や要点を把握し説明できる能力を育成するとともに、これらの問題に主体的に関心を持ち、それらに対する自分の意見を英語で積極的に表明したり伝え合おうとする態度を養う。				
授業の進め方・方法	奇数レッスンと偶数レッスンとを並行して進める。予習すべき内容や毎時の課題についてはその都度指示する。また、英単語の小テストを定期的実施する。また、本科目では中間試験を実施する。				
注意点	毎回の授業中の活動(聞く・読む・話す・書く)に積極的に参加するとともに、予習・復習・課題に欠かさず取り組むこと。実際に英語を使用する場面を想定しながら学習に取り組むことにより、実践的な英語力の向上に努めることを期待する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション	本科目の目標、評価、授業の進め方、自宅学習の仕方等について理解する。		
	2週	Flex English Communication I Lesson 09 Part 1 / Lesson 10 Part 1	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	3週	Lesson 09 Part 2 / Lesson 10 Part 2	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	4週	Lesson 09 Part 3 / Lesson 10 Part 3	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	5週	Lesson 09 Part 4 / Lesson 10 Part 4	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		

2ndQ	6週	Lesson 09 / 10 Comprehension, Grammar & Exercises	本文の内容を要約して説明することができる。本課で学習した文法事項を、場面に応じて正しく使用することができる。
	7週	Lesson 09 / 10 Final Task	本課で学習した内容に関するグループワークに取り組み、自分の意見を英語で話すことができる。
	8週	Flex English Communication II Lesson 01 Part 1 / Lesson 02 Part 1	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	9週	Lesson 01 Part 2 / Lesson 02 Part 2	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	10週	Lesson 01 Part 3 / Lesson 02 Part 3	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	11週	Lesson 01 Part 4 / Lesson 02 Part 4	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	12週	Lesson 01 / 02 Comprehension, Grammar & Exercises	本文の内容を要約して説明することができる。本課で学習した文法事項を、場面に応じて正しく使用することができる。
	13週	Lesson 01 / 02 Final Task	本課で学習した内容に関するグループワークに取り組み、自分の意見を英語で話すことができる。
	14週	Wrap Up	本科目で学習した内容を復習し、本文の内容を要約して説明したり、既習の文法事項を使った文を作ったりできる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において誤った部分を解き直して正答することができる。
16週			

評価割合

	試験	小テスト	平常点	合計
総合評価割合	60	10	30	100
目標達成度	60	10	30	100

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	2038		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	〔教科書〕 Flex English Communication II (東京書籍), 〔参考書・補助教材〕 Flex English Communication II ワークブック [スタンダード] (東京書籍), 夢をかなえる英単語 新ユメタン (1) (アルク), 総合英語be 4th Edition, 総合英語be 4th Edition English Grammar 46, コンパスローズ英和辞典(研究社), Oxford Reading Club (Oxford University Press)				
担当教員	坂元 真理子, 飯屋 衣里, 國谷 徹				
到達目標					
前期の英語ⅡAに引き続き、英語を聞く・読む・話す・書く能力をさらに伸ばす。英語を通じて、他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。英語を通じて、自分の周りの社会や科学技術、異文化理解などをめぐる諸問題に関心を持つ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
聞くこと	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができる。	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報をある程度聞き取り、要点を大まかに把握することができる。	日常的・社会的な話題に関する、100-200語程度のまとまりのある文章を聞いて、必要な情報を聞き取ったり、要点を把握したりすることができない。		
読むこと	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、仮定法や分詞構文などを含むある程度複雑な文構造を正確に理解し、内容を把握し要約することができる。	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、基本的な文構造であれば理解でき、内容を大まかに把握することができる。	日常的・社会的な様々な話題に関する文章を読んで、基本的な文構造を理解し、内容を把握することができない。		
話すこと (やり取り)	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して自分の考えや気持ちを話し、伝え合うやり取りを2-3往復程度続けることができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して自分の考えや気持ちを話し、伝え合うやり取りを1-2往復程度続けることができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを話したり、伝え合うやり取りを行ったりすることができない。		
話すこと (発表)	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して、自分の考えや気持ちを4-5文程度の文章に整理してまとめ、論理的に話すことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して、自分の考えや気持ちを2-3文程度の文章にまとめ、話すことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを文章にまとめ、話すことができない。		
書くこと	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を適切に活用して、自分の考えや気持ちを4-5文程度の論理的な文章に整理してまとめ、書くことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現をある程度適切に活用して、自分の考えや気持ちを2-3文程度の文章にまとめ、書くことができる。	日常的・社会的な様々な話題について、教科書の内容を踏まえながら、基礎的な英語表現を活用して自分の考えや気持ちを文章にまとめ、書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと、の5つの領域において、1年生までに学修した基礎的な能力を再確認するとともに、語彙・文法・表現などにおけるより発展的・応用的な知識を習得し、これらを実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる能力を身につける。あわせて、教科書の内容を中心に日常的・社会的な様々な話題について、その概要や要点を把握し説明できる能力を育成するとともに、これらの問題に主体的に関心を持ち、それらに対する自分の意見を英語で積極的に表明したり伝え合おうとする態度を養う。				
授業の進め方・方法	奇数レッスンと偶数レッスンとを並行して進める。予習すべき内容や毎時の課題についてはその都度指示する。また、英単語の小テストを定期的実施する。また、本科目では中間試験を実施する。				
注意点	毎回の授業中の活動(聞く・読む・話す・書く)に積極的に参加するとともに、予習・復習・課題に欠かさず取り組むこと。実際に英語を使用する場面を想定しながら学習に取り組むことにより、実践的な英語力の向上に努めることを期待する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	本科目の目標、評価、授業の進め方、自宅学習の仕方等について理解する	
	2週	Flex English Communication II Lesson 03 Part 1 / Lesson 04 Part 1	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	3週	Lesson 03 Part 2 / Lesson 04 Part 2	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	4週	Lesson 03 Part 3 / Lesson 04 Part 3	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		
	5週	Lesson 03 Part 4 / Lesson 04 Part 4	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。		

4thQ	6週	Lesson 03 / 04 Comprehension, Grammar & Exercises	本文の内容を要約して説明することができる。本課で学習した文法事項を、場面に応じて正しく使用することができる。
	7週	Lesson 03 / 04 Final Task	本課で学習した内容に関するグループワークに取り組み、自分の意見を英語で話すことができる。
	8週	Lesson 05 Part 1 / Lesson 06 Part 1	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	9週	Lesson 05 Part 2 / Lesson 06 Part 2	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	10週	Lesson 05 Part 3 / Lesson 06 Part 3	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	11週	Lesson 05 Part 4 / Lesson 06 Part 4	教科書本文を聞いたり読んだりして、文構造を正しく把握するとともに、内容に関する質問に英語で答えることができる。
	12週	Lesson 05 / 06 Comprehension, Grammar & Exercises	本文の内容を要約して説明することができる。本課で学習した文法事項を、場面に応じて正しく使用することができる。
	13週	Lesson 05 / 06 Final Task	本課で学習した内容に関するグループワークに取り組み、自分の意見を英語で話すことができる。
	14週	Wrap Up	本科目で学習した内容を復習し、本文の内容を要約して説明したり、既習の文法事項を使った文を作ったりできる。
15週	試験答案の返却・解説	試験において誤った部分を解き直して正答することができる。	
16週			

評価割合

	試験	小テスト	平常点	合計
総合評価割合	60	10	30	100
目標達成度	60	10	30	100

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語論理・表現基礎
科目基礎情報				
科目番号	2039	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	English Locomotion: 参加して学ぶ総合英語 (成美堂), コンパスローズ英和辞典(研究社)			
担当教員	坂元 真理子, 鞍掛 哲治, 國谷 徹, 嵯峨原 昭次			
到達目標				
1. 身近な話題を扱った短い英文を読んだり聞いたりして概要をつかむことができる。 2. 既習の基礎的な文法事項を理解し、それを使って英語でやり取りすることができる。 3. 既習の基礎的な文法事項を理解し、それを使って英語で簡単なスピーチができる。 4. 既習の基礎的な文法事項を理解し、それを使って簡単な英作文ができる。 5. 視線やジェスチャーも含め、他者とコミュニケーションするための基本的なスキルを身につける。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
読むこと	教科書の文を通読して短時間で必要な情報を見つけ出し、質問に答えられる。	教科書の文を通読して必要な情報がある程度見つけ出すことができる。	教科書の文を通読して必要な情報を見つげ出すことができない。	
聞くこと	教科書のリスニング課題を聞き取り、質問に答えられる。	教科書のリスニング課題を部分的に聞き取り、質問にある程度答えることができる。	教科書のリスニング課題を聞き取り、質問に答えられない。	
話すこと (やり取り)	教科書のテーマに関連する話題について、ペアで2-3往復以上の会話を続けられる。	教科書のテーマに関連する話題について、ペアで質問と答えのやり取りができる。	教科書のテーマに関連する話題について、ペアで会話をするのができない。	
話すこと (発表)	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめて1分程度のスピーチができる。	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめて30秒程度のスピーチができる。	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめてスピーチすることができない。	
書くこと	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめて200語程度の英作文が書ける。	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめて150語程度の英作文が書ける。	教科書のテーマに関連する話題について、自分の考えをまとめて英作文を書くことができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な文法事項を再確認し、それらを使って簡単な英語を話す・書く活動に取り組む。</li> <li>・話す・書く活動を数多く繰り返すことを通して、日本語とは異なる英語の論理や文の組み立て方に慣れ親しむ。</li> <li>・ペアワークを通して、視線やジェスチャー、聞く力なども含めたコミュニケーション能力の基礎を身につける。</li> </ul>			
授業の進め方・方法	リーディング・リスニングで教科書の各課ごとのテーマを理解したのち、そのテーマについて基礎的な文法事項を使ってやり取りや発表、英作文等の活動を行う。なお、本科目での学習は4年次に開講される英語表現へと引き継がれる。			
注意点	必要に応じて和英辞典を持参すること。 話す・書く力を伸ばすことが目的であるので、意欲を持って積極的に授業活動に参加することが望ましい。不十分な英語であっても、何とかして伝えようとする努力をすること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション Unit1: はじめまして!	本科目の目標、授業の進め方等について理解する。誰かを紹介する表現を学び、使ってみる。
		2週	Unit2: レシピを見よう	命令文を使った会話ができるようになる。レシピを考えて英語で書いてみる。
		3週	Unit3: いつも何しているの?	頻度の副詞を使って自分の日常生活を表現する。互いの日常生活について伝え合う。
		4週	Unit4: 何を持って行きますか?	可算名詞・不可算名詞の使い分けを身につける。互いの持ち物についてたずね合う。
		5週	Unit5: あなたの理想の部屋は?	位置関係を表す前置詞の使い方を身につける。理想の部屋の間取りを考え、伝え合う。
		6週	Unit6: 目指そう! 健康生活	助動詞の使い方を身につける。助動詞を使って相手にアドバイスをしあう。
		7週	Unit7: 旅に出よう	動名詞と不定詞の使い方を身につける。地元のおすすめスポットについて伝え合う。
		8週	Unit8: パーティーを開こう!	現在分詞を使った表現を身につける。いま何をしているかを伝え合う。
	4thQ	9週	Unit9: 割れた窓?	過去分詞を使った受け身の表現を学び、人や物を過去分詞で説明してみる。
		10週	Unit10: スポーツをしよう	完了形の表現を身につける。今までに経験したことについて伝え合う。
		11週	Unit11: フリマでお買い物	比較表現を身につけ、人や物を比べて表現してみる。
		12週	Unit12: レポートの提出	関係代名詞の使い方を学び、人や物を詳しく説明してみる。
		13週	発表準備	これまでに学んだ表現を使ったスピーチを準備する。
		14週	まとめの発表	前時に準備したスピーチを発表する。
		15週	答案返却	期末試験の答案を見直し、振り返りをする。

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	35	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	35	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気電子工学実験 I	
科目基礎情報						
科目番号	2099		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	4		
教科書/教材	電気電子工学実験 I 実験書					
担当教員	今村 成明, 井手 輝二					
到達目標						
<p>電気電子工学のあらゆる分野の基礎である、電気回路で学んだ知識を実践の場で使えるようにする。また、以下に示す基本的な実験技術を修練し、基礎理論から導かれることを実験的に確かめる探究的、研究的な態度を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直流抵抗の測定法を理解し測定できる。</li> <li>・ 直流回路の分圧・分流に必要な電圧・電流が取り出せる。さらに外部回路が繋がった場合、テブナンの法則で解析できる。</li> <li>・ 交流回路のインピーダンスを理解し電圧、電流が解析できる。さらにオシロスコープを用いて電圧値と位相差の測定ができる。</li> <li>・ 組み込みマイコンの使い方を理解し、I/Oのプログラミングができる。</li> <li>・ 実験から得られたデータについて工学的に考察し、説明できる。</li> </ul>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
実験の概要や結果を報告する実験レポートを作成できる。	実験によって得られたデータや独自に調べた知識から工学的に考察を行い、他者に理解できる形で説明できる。	実験の内容・結果・考察等を他者に理解可能な形式で報告できる。図表、式、数値などの書式が整った報告書を作成できる。	実験の内容・結果・考察等を他者に理解可能な形式で報告できない。図表、式、数値などの書式が整っていない。			
直流計器・交流計器を用いて、基礎的な電圧・電流の測定ができる。	テスターや直流・交流の電圧計・電流計各種の動作原理や特性を把握し、生じうる誤差などを考慮したうえで値を測定できる。	テスターや直流・交流の電圧計・電流計各種を用いて基礎的な値の測定ができる。	テスターや直流・交流の電圧計・電流計各種を用いて基礎的な値を測定できない。			
オシロスコープを用いて交流回路の電圧・電流波形を観察できる。	オシロスコープの原理を説明でき、応用的な交流回路において目的の電圧・電流波形を観察できる。	オシロスコープの基礎的な操作方法を習得でき、簡単な交流回路の電圧・電流波形を観察できる。	オシロスコープの基礎的な操作方法を習得できない。簡単な交流回路の電圧・電流波形を表示できない。			
分圧・分流、テブナンの法則を利用し、直流回路各部の電流・電圧・抵抗の検証ができる。	簡単な直流回路に対して分圧・分流、テブナンの法則を適用し、各部の電流・電圧・抵抗の予測値を算出し、測定によって検証および考察できる。	簡単な直流回路に対して分圧・分流、テブナンの法則を適用し、各部の電流・電圧・抵抗の予測値を算出し、測定によって検証できる。	簡単な直流回路に対して分圧・分流、テブナンの法則を適用できない。			
交流回路におけるR・L・Cの性質を考慮した電流・電圧の測定や、直列共振の特性測定ができる。	RLCの直列、並列回路において、位相、周波数、電圧、電流等の関係を説明でき、これを用いて実験結果を考察できる。各回路要素と共振特性の関係について説明でき、これを用いて実験結果を考察できる。	RLCの直列、並列回路において、位相を考慮して電圧・電流の値を予想し、その計測ができる。RLC直列共振現象の原理に即した特性測定ができる。	R、L、Cの直列、並列回路において、位相を考慮して電圧・電流の値を予想できない。RLC直列共振現象の原理に即した特性測定ができない。			
組み込みマイコンにプログラムを書き込み、簡単なI/Oを含む回路を動作させることができる。	簡単なI/Oを含む回路を応用的に動作させるためのマイコンのプログラムを作成できる。	簡単なI/Oを含む回路につながるマイコンを動作させるためのプログラムを作成できる。	簡単なI/Oを含む回路につながるマイコンを動作させるためのプログラムを作成できない。			
学科の到達目標項目との関係						
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 1-b 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 4-a						
教育方法等						
概要	電気回路で学習した内容について実践を通して理解を深め、現実の問題に対して応用できるようにする。また情報処理で学習したプログラミングを電気電子の知識と結びつけて活用することを学修する。					
授業の進め方・方法	電気回路で学習した内容について実践を通して理解を深め、現実の問題に対して応用できるようにする。また情報処理で学習したプログラミングを電気電子の知識と結びつけて活用することを学修する。					
注意点	実験と講義とは独立したものではない。常に、両者をリンクさせる事。(a)実験指導書を前もって読むことは当然であり、計算により求められる予測値を求めておくこと、関連する事項を調べておくことが必要である。(b)パーティ内において一人一人に役割を分担し、協同作業を行う事。この事により、協調精神と責任感を重んずる習慣が養われる。(c)実験中は気を引き締めて作業を進め、安全をはかる事。(d)提出期限は厳守する事。(e)「ねつ造、改ざん、盗用」等の不正行為をしないこと					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	実験の総説	実験全般における概説を行う。注意事項、レポートの書き方等についてその意味を理解し、説明できる。技術者の「ねつ造、改ざん、盗用」等の不正行為が、社会に及ぼす影響を理解し、実験においてどのようなことが不正行為に当たるかを説明できる。また、報告書作成等において不正行為とならないように注意できる。		
		2週	直流計器・交流計器の取り扱いについて	基本計器である、指針型の直流計器、交流計器の構造、動作原理、特性、使い方を理解し、実際に簡単な計測ができる。		
		3週	オシロスコープの取り扱いについて	オシロスコープの原理と取り扱い方を理解し、交流電圧波形の観察ができる。		
		4週	レポート作成について/追実験	図やグラフを含め基本的な実験レポートの作成ができる。		

4thQ	5週	直流回路の基礎に関する実験	電位降下法により計器の内部抵抗を考慮した回路で直流抵抗の測定を行うことができる。
	6週	直流回路の基礎に関する実験	分圧・分流、テブナの法則を理解して、応用することにより必要な電圧、電流を取り出すことができる。
	7週	交流回路の基礎に関する実験	R、L、C、直列、並列回路において、位相を考慮して電圧・電流の値を予想し、その計測ができる。
	8週	交流回路の基礎に関する実験	RLC直列共振現象の原理を理解して、特性測定ができる。
	9週	LED・Trの直流特性とマイコンの入出力としての利用法	LED・ダイオードの電流・電圧特性を理解し、LED点灯回路の負荷抵抗を決定できる。
	10週	LED・Trの直流特性とマイコンの入出力としての利用法	バイポーラTr, MOSFETの特性を応用し、簡単なマイコン入出力回路を構築することができる。
	11週	組込みマイコンのプログラミングと応用	組込みマイコンの基本的なプログラミングを修得し、LED点滅回路などを実現できる。
	12週	組込みマイコンのプログラミングと応用	組込みマイコンのタイマー機能などを利用し、音声周波数領域の電気信号を発生させることができる。
	13週	レポート作成指導/追実験	データ解析等を通して実験内容を理解し、実験レポートを作成することができる。 文献調査などを通して検討・考察の仕方を理解し、実験レポートを作成することができる。
	14週	レポート作成指導/追実験	データ解析等を通して実験内容を理解し、実験レポートを作成することができる。 文献調査などを通して検討・考察の仕方を理解し、実験レポートを作成することができる。
	15週	レポート作成指導/清掃	データ解析等を通して実験内容を理解し、実験レポートを作成することができる。 文献調査などを通して検討・考察の仕方を理解し、実験レポートを作成することができる。
	16週		

評価割合

	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気数学Ⅱ
-------------	------	-----------------	------	-------

科目基礎情報			
科目番号	2100	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義・演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	【教科書】堀柱太郎・佐村敏治・椿本博久 共著「電気・電子の基礎数学」(東京電機大学出版局) / 授業中に配布する演習問題		
担当教員	田中 郁昭		

到達目標			
<p>本科目では電気回路や電磁気学で用いる「複素数と微分・積分」について学習する。また、それらの適用例を通して理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複素数の四則演算を複素数平面に対応させながら計算できる。また、直交座標、三角関数、指数関数、極座標(フェーザ)の各種表記に変換できる。</li> <li>交流回路に複素数を適用し、回路のインピーダンスや、コイルとコンデンサで生じる電圧・電流を計算できる。</li> <li>微分の定義を理解し、多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数等の微分ができる。</li> <li>直流回路に微分を適用し、最大電力を計算できる(極大値問題)。</li> <li>積分の定義を理解し、多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数等の積分ができる。</li> <li>正弦波交流を積分し、その平均値と実効値を計算できる。</li> </ol>			

ループリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	標準到達レベルに加えて、交流回路に複素数を適用し、回路のインピーダンスなどを計算できる。	複素数の計算を複素数平面に対応させながら実行できる。また、フェーザ表記に変換できる。	複素数の定義や表記法が理解できない。また、フェーザ表示に変換できない。
評価項目 2	なし	微分の定義を理解し、多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数等の微分ができる。	微分の定義を理解できない。また、各種関数の微分ができない。
評価項目 3	標準到達レベルに加えて、直流回路に微分を適用し、誘導電流や誘導起電力の大きさを計算できる。	電気回路に微分を適用し、最大電力などの極大値問題を解くことができる。	電気回路に微分を適用するための回路方程式が立てられない。
評価項目 4	なし	積分の定義を理解し、多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数等の微分ができる。	積分の定義を理解できない。また、各種関数の積分ができない。
評価項目 5	標準レベルに加えて、微分形のピオ・サバールの式に積分を適用し、磁界の強さを計算できる。	正弦波交流に積分を適用し、その平均値と実効値を計算できる。	電気回路に積分を適用するための回路方程式が立てられない。

学科の到達目標項目との関係			
本科(準学士課程)の学習・教育到達目標 3-a			

教育方法等			
概要	電気電子分野の定量評価に必要な「複素数に関する一般的な知識(数の定義、座標形式、四則演算、オイラーの公式など)」や「微分・積分における基本的な知識(各種関数の微分・積分、合成関数の微分、置換積分、部分積分など)」について学習する。		
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容を定着させるため できる限り演習中心に進める。</li> <li>不定期で小テストを実施する。</li> <li>本科目は、中間試験を実施する。</li> </ul>		
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の演習は自分で解き、理解できない箇所は できる限り授業中に質問し解決する。</li> <li>演習においてノートや参考書の閲覧、ならびにグループ討論を通して理解を深める。</li> </ul>		

授業の属性・履修上の区分			
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	複素数の各種表示(1年生の復習)とベクトルとの関係	複素数を直交座標表示、三角関数表示、指数関数表示、極座標表示(フェーザ表示)の各種形式で表示できる。また、複素数の四則演算をベクトル合成として座標に表すことができる。
		2週	複素数の応用	複素数を直列交流回路に適用し、合成インピーダンスや共振周波数を求めることができる。
		3週	三角関数の加法定理と、その応用	加法定理を使って三角関数を計算できる。また、加法定理を用いて、倍角の公式や和積の公式を導出できる。
		4週	極限と微分係数	関数の連続性と微分可能性について説明できる。
		5週	微分の基礎(1)	多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数、無理関数の導関数を求めることができる。
		6週	微分の基礎(2)	関数の積・商で表される関数の導関数を求めることができる。合成関数の導関数を求めることができる。
		7週	微分法の応用 偏微分	簡単な直流回路の最大電力、誘導電流や誘導起電力の大きさに微分を用いて求めることができる。偏微分の定義について説明できる。また、全微分と偏微分との関係を説明できる。
		8週	中間試験	1~7週の理解度を評価する。
	2ndQ	9週	積分法(1)	不定積分と微分との関係を理解し、その基本公式を説明できる。
		10週	積分法(2)	簡単な多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数の不定積分を計算できる。

	11週	積分法（3）	簡単な多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数の不定積分を計算できる。
	12週	積分法の応用（1）	交流回路に積分を適用し、電流の平均値と実効値を計算できる。球体の電荷に対して積分を適用し、その電位を計算できる。
	13週	積分法の応用（2）	微分形のビオ・サバルの式に積分を適用し、磁界の強さを計算できる。
	14週		
	15週	期末試験答案の解説	試験答案の返却・解説
	16週		

評価割合

	試験	小テスト					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	50	30	0	0	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気電子基礎
科目基礎情報				
科目番号	2102	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	参考図書: 「電気基礎 上」川島純一、斎藤広吉 共著 (東京電機大学出版局) / 自作スライド、演習問題プリント			
担当教員	田中 郁昭			
到達目標				
<p>中学校の理科で学んだ静電気や磁石に関する物理現象を「電場」および「磁場」という新しい概念から学習する。</p> <p>項目1. 電荷間に働く力が、電場を介して作用することを理解し (近接作用)、重ね合わせの手法を用いてその強さを計算できる。</p> <p>項目2. 帯電体より生じる電気力線と電束の物理的な意味を理解し、それらの「本数」や「強さ」を導出できる。</p> <p>項目3. 磁力線と磁束の物理的な意味を理解し、それらの「本数」や「強さ」を導出できる。</p> <p>項目4. 磁場を発生させる要因が電流であることを理解した上で、直線電流、円電流、ソレノイドがつくる磁場の強さの式を導出できる。</p>				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	なし	電荷間に働く力が電場を介して作用することを認識し、重ね合わせの理により電場の強さを計算できる。	電荷間に働く力が電場を介して作用することを認識していない。また、重ね合わせの理により電場の強さを計算できない。	
評価項目2	標準的到達レベルに加えて、電場と電位との関係について説明できる。また、一様な電場や点電荷周りの電場から電位を計算できる。	電気力線と電束の物理的なイメージがもち、帯電体から入出力する電気力線の数や電束の強さを導出できる。	電気力線と電束の物理的なイメージがもてない。また、帯電体から入出力する電気力線の数や電束の強さを導出できない。	
評価項目3	標準的到達レベルに加えて、外部磁場に置かれた物質中の磁場の様子を説明できる。	磁力線、磁束の物理的なイメージがもち、それら磁力線の数と磁束密度の強さを導出できる。	磁力線、磁束の物理的なイメージがもてない。また、それら磁力線の数と磁束密度の強さを導出できない。	
評価項目4	標準的到達レベルに加えて、直線電流、円電流、ソレノイドがつくる磁場の強さをアンペールの周回積分やビオ・サバルの法則から計算できる。	磁場の発生要因が電流であることを理解しており、直線電流、円電流、ソレノイドがつくる磁場の強さの式を導出できる。	磁場の発生要因が電流であることを知らない。また、直線電流、円電流、ソレノイドがつくる磁場の強さの式を導出できない。	
学科の到達目標項目との関係				
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c				
教育方法等				
概要	電気分野を支える電磁気学の初歩的教育を目的とした講義・演習を実施する。具体的には、電気と磁気によって引き起こされる現象が「電場」と「磁場」を介して作用するという考え方 (近接作用) を電気力線と磁力線といイメージを用いて解説する。また、シリーズ化されている電磁気学 I ~ V を習熟するための基礎知識と位置付ける。			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義40分→演習20分→採点10分→解説・質問20分を目安に授業を進める。演習は理解を深めるため実施する。</li> <li>電場と磁場の理論体系には、数多くに類似点があることから、それらを対比しながら物理現象を説明する。</li> <li>電磁場を取り扱うためにはベクトルや微積分の知識が欠かせない。必要に応じてこれら数学についても解説する。</li> </ul>			
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の演習は自分で解き、理解できない箇所は、その場で質問し解決する。</li> <li>演習においては、ノート、参考書の閲覧、ならびにグループ討論を許可する。</li> <li>本科目は中間試験を実施する。</li> </ul>			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	静電現象 (静電気力)	帯電する仕組みを原子・分子の観点から説明できる。また、帯電する時に生じる静電誘導、誘電分極では電荷量保存が成立していることを理解している。	
	2週	電場の強さ	2つの点電荷間に作用するクーロンの法則を理解し、静電気力をベクトルで表し、その強さを求めることができる。また、電荷間に働く静電気力が、電場を介して作用することを説明できる (近接作用)。また、重ね合わせの手法を用いて電場の強さを計算できる。	
	3週	電気力線と電束 (1)	電気力線と電束の定義を理解し、帯電体を囲む球面から出ていく電気力線の数と電束の強さを導出できる。	
	4週	電気力線と電束 (2)	一般的に閉曲面から出ていく電場の強さを導出できる (ガウスの法則)。具体的に、球面、円筒、平面の形をした電荷分布に対してガウスの法則より電場の強さを計算できる。	
	5週	電場と電位	電場と電位との関係について説明できる。また、空間的に一様な電場や点電荷周りの電場における電位を計算できる。	
	6週	物質と電場 (コンデンサー)	外部電場に置かれた物質中の電場と電位の様子を説明できる。また、誘電体を含む平行板コンデンサの電場と電気容量/静電容量の関係式を導出できる。	
	7週	コンデンサーの接続	コンデンサーの合成容量を求めることができる。また、コンデンサーに蓄えられる静電エネルギーを求めることができる。	
	8週	中間試験	1週~7週までの授業内容の到達度を評価する。	

2ndQ	9週	磁気に関するクーロンの法則	単磁荷の非存在を認識しながら 磁気に関するクーロンの法則を説明できる。また、磁荷間に働く力が磁場を介して作用することを説明できる（近接作用）。
	10週	磁場の強さと磁束密度（1）	磁力線、磁束線（磁束密度）の定義を理解し、単磁荷を囲む閉曲面（球面）から出でいく磁力線の数について説明できる（ガウスの法則）。
	11週	磁場の強さと磁束密度（2）	強磁性体を有するソレノイドの磁束について透磁率を用いて説明できる（ガウスの法則）。
	12週	電流がつくる磁場（1）	磁場の発生要因が電流であることを理解した上で、直線電流、円電流およびソレノイドがつくる磁場の強さの式を導出できる。
	13週	電流がつくる磁場（2）	磁場の発生要因が電流であることを理解した上で、直線電流、円電流およびソレノイドがつくる磁場の強さの式を導出できる。
	14週	後期授業範囲の演習	9週～13週までの授業内容の到達度を小テストで評価する。また、状況に応じて解説する。
	15週	答案返却と解説	期末試験の解説（非評価項目）
	16週		

評価割合

	定期試験	小テスト・課題	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気回路Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	2103		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	西巻正郎/森武昭/荒井俊彦 (森北出版)				
担当教員	逆瀬川 栄一				
到達目標					
<p>1. 抵抗R、コイルL、コンデンサCのみの負荷に単相交流電圧を与えた場合の電圧、電流、インピーダンスを計算でき、フェーザ図を描くことができる。</p> <p>2. R、L、Cで構成される直並列回路の合成インピーダンスを求めることができ、各部電圧電流のフェーザ図を描くことができる。</p> <p>3. R、L、Cで構成される直並列回路の合成アドミタンスを求めることができ、各部電圧電流のフェーザ図を描くことができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	抵抗R,コイルL,コンデンサCのそれぞれに単相交流電圧を加えたときの電圧、電流、インピーダンス理論式を微分を使って式で導出できる。		抵抗R,コイルL,コンデンサCのそれぞれに単相交流電圧を加えたときの電圧、電流、インピーダンスを式で説明でき、フェーザ表示で表すことができる。		抵抗R,コイルL,コンデンサCに単相交流電圧を加えたときの電圧、電流、インピーダンスを式で説明できない。
評価項目2	R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のインピーダンスを求めることができる。さらに、各部電圧、電流のフェーザ図を描くことができる。		R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のインピーダンスを求めることができる。		R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のインピーダンスを求めることができない。
評価項目3	R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のアドミタンスを求めることができる。さらに、各部の電圧、電流のフェーザ図を描くことができる。		R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のアドミタンスを求めることができる。		R,L,Cで構成される、簡単な直並列回路のアドミタンスを求めることができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	電気電子工学の基礎としての正弦波交流の表し方、フェーザ表示、各回路要素のインピーダンスなどの基本的なことを学び、かつその計算法に習熟する。単相交流は三相交流の基礎であり、電気機器や応用回路を理解するうえで必須の知識となる。				
授業の進め方・方法	講義を30分程度説明した後、例題を解説し、演習を行う。授業内容を理解し、身につけてもらうため、教科書の章が終了するたびにレポートを課す。また、随時小テストを行う。				
注意点	1年生のときの電気数学Ⅰ(指数、複素数、三角関数、フェーザ表示、ベクトルの合成、微分)の知識と計算力が必要である。小テストおよびレポートは総合評価の30%である。中間テストは原則として授業の8回目、期末テストはテスト期間に実施する。電気回路を理解し、修得するためには、できるだけ多くの問題を解くことが大事である。このため、課せられたレポートは必ず取り組み、提出すること。また、解らない点があればその都度質問をし、積極的に理解を深めるようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	交流回路計算のための数学		正弦波交流の発生の原理を説明できる。ベクトルを複素数表示および極座標表示に変換できる。複素数の加減乗除ができる。
		2週	正弦波交流の基礎		正弦波交流の最大値、平均値、実効値、周波数、周期、角周波数、位相について説明でき、計算できる。
		3週	R, L, C単独回路		R, L, C単独で構成された回路のインピーダンスを微分を使って導出することができる。また、電圧と電流のフェーザ図を描くことができる。
		4週	R, L, C単独回路		R, L, C単独で構成された回路のインピーダンス、電圧、電流を計算でき、フェーザ図で表すことができる。
		5週	R,L直列回路		RL直列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
		6週	R,C直列回路		RC直列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
		7週	R,L,C直列回路		RLC直列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
		8週	中間テスト		先週までの範囲の理解度テストを行う。
	2ndQ	9週	RL並列回路		RL並列回路の各部の電圧・電流およびアドミタンス、インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
		10週	RC並列回路		RC並列回路の各部の電圧・電流およびアドミタンス、インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。

	11週	RLC並列回路	RLC並列回路の各部の電圧・電流および合成アドミタンス、合成インピーダンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
	12週	さまざまな直並列回路	R、L、Cで構成される様々な直並列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンス、およびアドミタンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
	13週	さまざまな直並列回路	R、L、Cで構成される様々な直並列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンス、およびアドミタンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
	14週	さまざまな直並列回路	R、L、Cで構成される様々な直並列回路の各部の電圧・電流および合成インピーダンス、およびアドミタンスを求めることができる。フェーザ図で表すことができる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気回路Ⅳ	
科目基礎情報						
科目番号	2104		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	【教科書】西巻正郎、森武昭、荒井俊彦「電気回路の基礎(第3版)」(森北出版) 【参考書】本田徳正「テキストブック 電気回路」(オーム社)					
担当教員	佐藤 正知					
到達目標						
1. 簡単な交流回路の有効電力・無効電力・皮相電力ならびに複素電力を求めることができる。 2. 回路の誘導性・容量性を理解し、力率を計算することができる。 3. 節点電位法、網目電流法、重ね合わせの理、テブナンの定理を用いて交流回路を解析することができる。 4. 相互誘導回路に生じる自己誘導電圧・相互誘導電圧の大きさと向きを求めることができる。 5. 相互誘導回路をT型等価回路で置き換えることができる。 6. 回路の周波数特性について理解し、簡単な解析をすることができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	標準的な到達レベルに加え、様々な交流回路の有効電力・無効電力・皮相電力・複素電力ならびに力率を求めることができる。		簡単な交流回路の有効電力・無効電力・皮相電力ならびに複素電力を求めることができる。回路の容量性・誘導性を理解して、力率を計算することができる。		簡単な交流回路の有効電力・無効電力・皮相電力ならびに複素電力を求めることができない。回路の容量性・誘導性を理解できず、力率を計算することができない。	
評価項目2	節点電位法、網目電流法、重ね合わせの理、テブナンの定理の中から適切な方法を選択して交流電源のある回路網を解析することができる。		節点電位法、網目電流法、重ね合わせの理、テブナンの定理のうち、指定された方法で交流電源のある回路網を解析することができる。		節点電位法、網目電流法、重ね合わせの理、テブナンの定理のいずれかを利用して、交流電源のある回路網の解析ができない。	
評価項目3	標準的な到達レベルに加え、相互誘導回路の原理を説明できる。		相互誘導回路に生じる自己誘導電圧および相互誘導電圧の大きさと向きを求められる。		相互誘導回路に生じる自己誘導電圧および相互誘導電圧の大きさと向きを求められない。	
評価項目4	標準的な到達レベルに加え、相互誘導回路のT型等価回路を導出することができる。		相互誘導回路をT型等価回路で置き換えることができる。		相互誘導回路をT型等価回路で置き換えることができない。	
評価項目5	標準的な到達レベルに加え、インピーダンスやアドミタンスの軌跡を描くことができる。		R, L, Cの周波数特性を理解し、周波数に応じた回路のインピーダンスやアドミタンスを計算できる。		R, L, Cの周波数特性を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科(準学士課程)の学習・教育到達目標 3-c						
教育方法等						
概要	電気回路Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続いて、回路網解析の基本事項について学習する。また、交流回路における複素電力および相互誘導回路(変圧器)の基礎と回路の周波数応答は、電気機器や通信工学などの電気電子工学の多分野において応用されているため、その橋渡しとなる基本事項を学習する。					
授業の進め方・方法	講義と演習問題を用いて授業を進める。直流回路、交流回路はもちろんのこと、数学(特に三角関数、複素数、ベクトル、行列)の知識が必要である。また、電気回路をよりよく理解し修得するためには、多くの問題を解く必要があるため、小テストで解けなかった問題のやり直しレポート等の課題は必ず理解して提出すること。					
注意点	分からない点があればその都度質問し、積極的に理解を深められるようにすること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	交流回路の復習		<input type="checkbox"/> 複素数表示やフェーザ表示、極表示の相互変換や記号法を用いた簡単な交流回路の計算ができる。	
		2週	交流電力		<input type="checkbox"/> 簡単な交流回路の有効電力・無効電力・皮相電力を計算することができる。	
		3週	交流電力		<input type="checkbox"/> 交流回路の誘導性と容量性を理解し、力率を計算することができる。	
		4週	交流回路網の解析		<input type="checkbox"/> 網目電流法および節点電位法を用いて、交流回路を解析することができる。	
		5週	交流回路解析の各種定理		<input type="checkbox"/> 重ね合わせの理やテブナンの定理を用いて、交流回路を解析することができる。	
		6週	交流回路解析の各種定理		<input type="checkbox"/> ブリッジ回路やY-Δ変換公式を用いて交流回路を解析することができる。	
		7週	問題演習		ここまでの内容の標準的な演習問題を解くことができる。	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	相互誘導回路		<input type="checkbox"/> 相互誘導回路における自己インダクタンス・相互インダクタンスを理解することができる。	
		10週	相互誘導回路		<input type="checkbox"/> 相互誘導回路をT型等価回路に置き換えることができる。	
		11週	理想変圧器		<input type="checkbox"/> 相互誘導回路の結合係数について理解し、理想変圧器を含む回路を解析することができる。	

	12週	相互誘導回路を含む回路網の解析	<input type="checkbox"/> さまざまな回路解析法を用いて、相互誘導回路を含む交流回路を解析することができる。
	13週	交流回路の周波数特性	<input type="checkbox"/> R, L, Cの周波数特性を理解する。
	14週	交流回路の周波数特性	<input type="checkbox"/> RL直並列回路、RC直並列回路の周波数変化によるインピーダンスやアドミタンスを計算できる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報処理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	2105		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「新・明解C言語 入門編」 柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ				
担当教員	前園 正宜				
到達目標					
本科目では、様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語、C言語を修得する。文法の理解を目標とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
条件分岐を用いたプログラムを作ることができる。		問題文から分岐構造を読み取ることができ、複雑な条件や分岐後の処理に対して適切なプログラムを作ることができる。	if~else, if~else if, switchの各書式を身につけ、問題に応じて使い分けことができ、分岐条件を満たす条件式を設定できる。	if, switchの分岐処理の書式を修得していない。問題に応じた条件式を設定できない。	
反復構造を用いたプログラムを作ることができる。		問題文から反復構造を読み取ることができ、無限ループ・多重ループや、条件分岐を組み合わせた複雑な反復処理を含むプログラムを作ることができる。	for, do~while, whileの各書式を身につけ、問題に応じて使い分けことができ、反復される命令による状況の変化(変数の値・表示結果など)を理解できる。	for, do~while, whileの各書式を修得していない。反復構造の処理の流れを理解していない。	
配列を用いたプログラムを作ることができる。		多次元配列のデータ構造を理解し、for文と組み合わせた配列要素の一括処理を応用したプログラムを作ることができる。	1次元配列のデータ構造を理解し、宣言・初期化・配列要素への代入・配列要素の利用を扱うプログラムを作ることができる。	配列の宣言・初期化・配列要素への代入・配列要素の利用ができない。	
ユーザー定義関数を用いたプログラムを作ることができる。		関数の汎用性や変数の有効範囲を考慮した関数を定義することができ、関数呼び出しの処理の流れを理解した上でプログラムを作ることができる。	目的に応じた引数・返却値を適切に設定した関数を定義することができ、関数呼び出しの返却値を活用するプログラムを作ることができる。	関数の呼び出し、関数の定義の書式を修得していない。引数、返却値を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
本科(準学士課程)の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	1年次後期の情報処理Ⅰの続きである。前期におけるprintfおよびscanfなどの入出力関数の基礎知識を十分に理解していることを前提とする。本科目は後期の「情報処理Ⅲ」、3年次の「情報処理Ⅳ」の基礎となる。				
授業の進め方・方法	プログラミングは、どれだけ多くのプログラムを作成したかによって、上達のスピードが変化する。そのため、本科目は例題、演習を主体とする。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってほしい。				
注意点	疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	条件分岐	if文の書式, if~elseの書式, 処理の流れを理解し、二岐のプログラムを作ることができる。	
		2週	条件分岐	if~else ifの書式, およびswitch文の書式, 処理の流れを理解し、三つ以上に分岐するプログラムを作ることができる。 フローチャートの記号を理解し、条件分岐を含むフローチャートを描くことができる。	
		3週	条件分岐	if~else ifの書式, およびswitch文の書式, 処理の流れを理解し、三つ以上に分岐するプログラムを作ることができる。 フローチャートの記号を理解し、条件分岐を含むフローチャートを描くことができる。	
		4週	反復構造	do-while文の書式, 処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。 while文の書式, 処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。	
		5週	反復構造	for文の書式, 処理の流れ, 規定回数の繰り返しの用いられるという理解し、各種プログラムを作ることができる。 インクリメント・デクリメント演算子, 代入演算子の処理を理解し、プログラムに活用できる。	
		6週	反復構造	2重ループの動作を理解し、各種プログラムを作ることができる。 反復構造を含むフローチャートを描くことができる。	
		7週	反復構造	2重ループの動作を理解し、各種プログラムを作ることができる。 反復構造を含むフローチャートを描くことができる。	
		8週	中間試験, 配列	配列が一連のデータの保存に利用できること, 配列の宣言, 配列のサイズについて説明できる。	
	2ndQ	9週	配列	反復構造を利用して配列の要素を一括処理するプログラムを作ることができる。	

	10週	配列	反復構造を利用して配列の要素を一括処理するプログラムを作ることができる。
	11週	配列	多次元配列のデータ構造を理解し、プログラムを作ることができる。
	12週	ユーザー定義関数	関数定義、引数、関数値、関数のプロトタイプ宣言の意味を理解し、各種プログラムを作ることができる。
	13週	ユーザー定義関数	関数定義、引数、関数値、関数のプロトタイプ宣言の意味を理解し、各種プログラムを作ることができる。
	14週	ユーザー定義関数	関数定義、引数、関数値、関数のプロトタイプ宣言の意味を理解し、各種プログラムを作ることができる。
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。
	16週		

評価割合

	試験	レポート成績	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報処理Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	2106		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「新・明解C言語 入門編」 柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ				
担当教員	前園 正宜				
到達目標					
様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語, C言語を修得する。文法の理解を目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
複数の関数にわたって使用される変数を用いたプログラムを作ることができる。	問題に応じてstatic変数やグローバル変数の特性を活かしたプログラムを作成することができる。		ローカル変数とグローバル変数, auto変数とstatic変数を意図的に使い分けてプログラムを作成することができる。		ローカル変数とグローバル変数, auto変数とstatic変数の概要を理解していない。
ポインタを用いたプログラムを作ることができる。	ポインタを用いたデータのアクセスを詳細に説明でき, ポインタを引数とした自作関数を作成することができる。		プログラミングにおけるアドレスの概念を理解し, ポインタを利用してデータにアクセスするプログラムを作成することができる。		ポインタ, アドレスの概念を理解していない。
配列とポインタの関係を利用したプログラムを作ることができる。	多次元配列のアドレスを利用するポインタや, 配列とポインタを用いる自作関数などを利用するプログラムを作成することができる。		配列が連続したアドレスを持つことを利用し, ポインタによって配列要素を操作するプログラムを作成できる。		配列に対してポインタによる操作を行うプログラムを作成できない。
文字列を扱う簡単なプログラムを作ることができる。	文字列を操作するライブラリ関数などを利用して, 文字列を操作する応用的なプログラムを作成することができる。		文字列は文字データの連続であることを把握し, 文字配列や文字型ポインタを用いて文字列を操作する簡単なプログラムを作成することができる。		文字配列や文字型ポインタを用いて文字列を操作するプログラムを作成することができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c					
教育方法等					
概要	1年次の情報処理 I および前期の情報処理 II の続きである。情報処理 II までの基礎部分を修得していることを前提とする。本科目は3年次の情報処理IVの基礎となる。				
授業の進め方・方法	プログラミングは, どれだけ多くのプログラムを作成したかによって, 上達のスピードが変化する。そのため, 本科目は例題, 演習を主体となる。				
注意点	学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。疑問が生じた場合は直ちに質問し, 理解を深めることを要望する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	C言語の基礎	データ型, 変数, 演算について理解し, 各種プログラムを作ることができる。 <input type="checkbox"/> 標準入出力関数(printf, scanf)の書式, 動作を理解し, 簡単なプログラムを作ることができる。 <input type="checkbox"/> 条件分岐(if, switch)の書式, および条件式の真偽について理解し, 簡単なプログラムを作ることができる。 <input type="checkbox"/> 繰り返し (for文, while文, do-while文) の書式, 動作を理解し, 各種プログラムを作ることができる。	
		2週	関数と変数	ローカル変数とグローバル変数, auto変数とstatic変数の意味の違いを理解し, 各種プログラムを作ることができる。	
		3週	関数と変数	ローカル変数とグローバル変数, auto変数とstatic変数の意味の違いを理解し, 各種プログラムを作ることができる。	
		4週	ポインタ	アドレス, ポインタ変数の概念を理解し, 応用できる。	
		5週	ポインタ	ポインタ引数について理解し, ポインタ引数を使った各種プログラムを作ることができる。	
		6週	ポインタ	ポインタ引数について理解し, ポインタ引数を使った各種プログラムを作ることができる。	
		7週	配列とポインタ	配列の構造とアドレスを説明できる。	
		8週	中間試験, 配列とポインタ	配列名とポインタの関係について説明できる。	
	4thQ	9週	配列とポインタ	配列とアドレス, ポインタの演算を計算できる。配列名とポインタの違いについて説明できる。	
		10週	配列とポインタ	配列とポインタを用いる関数の使用方法を理解し, 関数を使った各種プログラムを作ることができる。	

	11週	文字列と文字配列	文字配列への代入方法, 初期化, 表示方法について理解し, 応用できる.
	12週	文字列と文字配列	文字配列への代入方法, 初期化, 表示方法について理解し, 応用できる.
	13週	文字列と文字配列	文字列へのポインタについて理解し, 文字列を利用するプログラムを作ることができる.
	14週	文字列と文字配列	文字列へのポインタについて理解し, 文字列を利用するプログラムを作ることができる.
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する (非評価項目).
	16週		

#### 評価割合

	試験	小テスト・レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

鹿児島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電気電子工学概論
-------------	------	-----------------	------	----------

科目基礎情報

科目番号	2107	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	担当者が作成した講義用資料		
担当教員	今村 成明,佐藤 正知		

到達目標

- 電圧計, 電流計の取扱い, 電磁誘導, 静電誘導等の電気電子工学に関連する基本的な現象・原理について説明できる。
- 電気電子回路, ロジックIC, 各種センサ, マイコンの概要等, 電気電子工学で利用される素子の特徴と利用例について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	電圧計, 電流計の取扱い, 電磁力, 電磁誘導に加え, 身の回りの電気電子工学に関連する基本的な現象・原理について説明できる。	電圧計, 電流計の取扱い, 電磁力, 電磁誘導に関連する基本的な現象・原理について説明できる。	電圧計, 電流計の取扱い, 電磁力, 電磁誘導に関連する基本的な現象・原理について説明できない。
評価項目2	ロジックIC, 各種センサに加え, マイコンの概要等, 電気電子工学で利用される素子の特徴と利用例について説明できる。	ロジックIC, 各種センサに関する特徴と利用例について説明できる。	ロジックIC, 各種センサに関する特徴と利用例について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-a 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 3-c

教育方法等

概要	電気現象を把握するための実習を通して, 電気電子工学への興味を与え, 基本的な現象への理解を深めることを目標とする。
授業の進め方・方法	電気電子工学科で履修する専門科目の習得に必要な電気・電子工学的な思考能力とその素養を養うための科目である。
注意点	論理的な思考力・表現力を養うために, 計算過程および検算式等を明確にノートに記述する習慣をつけること。また授業内で行う小テストや実習に向けた予習・復習を積極的に取り組み, 理解を深めると共に自学自習の習慣を身に付けるよう心掛けること。 〔授業 (90分) 〕×15回。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	オリエンテーション	概要説明を通して, 電気電子工学の技術に興味を持ち, 自分の目標を持てる。	
	2週	電気電子工学の基礎原理・実習に関する学習	実験を通して, 電気電子工学に関連する基本的な現象・原理について説明できる。以下に関連する項目を示す。 ・ブレッドボード, テスターの取扱い ・電磁力 (ローレンツ力) ・電磁誘導 ・静電誘導	
	3週	電気電子工学の基礎原理・実習に関する課題設定, 実験, 報告書作成	電気電子工学に関連する基本的な現象・原理について自ら課題を設定し, 解決方法を示し, 結果に基づいてまとめることができる。以下に関連する項目を示す。 ・ブレッドボード, テスターの取扱い ・電磁力 (ローレンツ力) ・電磁誘導 ・静電誘導	
	4週	電気電子工学の基礎原理・実習に関する発表	自ら課題設定し実験した結果を発表できる。以下に関連する項目を示す。 ・ブレッドボード, テスターの取扱い ・電磁力 (ローレンツ力) ・電磁誘導 ・静電誘導	
	5週	ダイオードの整流作用に関する学習	ダイオードの整流作用の原理を理解し, 説明できる。	
	6週	ダイオードの整流作用に関する課題設定, 実験, 報告書作成	ダイオードの整流作用について自ら課題を設定し, 解決方法を示し, 結果に基づいてまとめることができる。	
	7週	ダイオードの整流作用に関する発表	ダイオードの整流作用について自ら課題設定し実験した結果を発表できる。	
	8週	トランジスタのスイッチング作用に関する学習	バイポーラ・ユニポーラトランジスタのスイッチング作用の原理を理解し, 説明できる。	
	2ndQ	9週	トランジスタの増幅作用に関する学習	バイポーラトランジスタの増幅作用の原理を理解し, 説明できる。
		10週	トランジスタのスイッチング作用と増幅作用に関する課題設定, 実験, 報告書作成	バイポーラ・ユニポーラトランジスタのスイッチング作用とバイポーラトランジスタの増幅作用について自ら課題を設定し, 解決方法を示し, 結果に基づいてまとめることができる。
		11週	トランジスタのスイッチング作用と増幅作用に関する発表	バイポーラ・ユニポーラトランジスタのスイッチング作用とバイポーラトランジスタの増幅作用について自ら課題設定し実験した結果を発表できる。

	12週	WiFiモジュールを用いたIoT機器の作製（1）に関する学習	TCP/IP通信の概要を理解し，IPアドレス，ポートを説明できる。
	13週	WiFiモジュールを用いたIoT機器の作製（2）に関する学習	TCP/IP通信を利用したIoT機器の動作を理解し，説明できる。
	14週	WiFiモジュールを用いたIoT機器に関する課題設定、実験、報告書作成	TCP/IP通信を利用したIoT機器を用いて自ら課題を設定し、解決方法を示し、結果に基づいてまとめることができる。
	15週	WiFiモジュールを用いたIoT機器に関する発表	TCP/IP通信を利用したIoT機器について自ら課題設定し実験した結果を発表できる。
	16週		

#### 評価割合

	試験	小テスト・報告書	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0